

平成 29 年度 第 1 回介護保険事業運営等協議会・地域包括支援センター運営協議会
・地域密着型サービス等運営委員会

平成 29 年 5 月 23 日(火)午後 2 時
岸和田市役所新館4階第 1 委員会室

次 第

1. 委員委嘱

2. 保健部長あいさつ

3. 案 件

(1) 第 7 期介護保険事業計画について

- ①介護予防・日常生活圏域ニーズ調査報告
- ②在宅介護実態アンケート調査報告

(2) 平成 29 年度地域包括支援センター実施計画について

(3) 総合事業等の実施状況について

(4) 地域密着型サービス事業所の指定・更新状況について

(5) 第6期介護保険事業計画における地域密着型サービス事業所の公募について

平成 28 年度

岸和田市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
報告書

平成 29 年 3 月

目次

1. 調査概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査の実施について	1
(3) 配布件数	1
(4) 有効回答件数及び各圏域の割合	1
(5) 前回調査について	2
(6) 留意点	2
2. 回答者の属性	3
(1) 圏域、年齢、性別	3
(2) 認定・該当状況	3
(3) 回答の記入者	3
3. ご家族や生活状況について	4
(1) 家族構成	4
(2) 暮らし・住まいの状況	5
① 介護・介助の必要性	5
② 主な介護者	7
③ 経済状況	8
④ 住まいの状況	9
4. 運動・外出について	10
(1) 運動・転倒の状況	10
(2) 外出の状況	13
① 外出の頻度	13
② 外出を控えているか	15
③ 外出の際の移動手段	17
5. 口腔・栄養について	18
(1) 口腔	18
① 口内の健康状態	18
② 歯の状況	19
(2) 栄養	20
① 体重の状況	20
② 孤食の状況	22
6. 日常生活について	23
(1) 物忘れ	23
① 物忘れの状況	23
(2) IADL の状況	25
(3) 社会との関わり	27

① 知的能動性の状況	27
② 社会的役割の状況	29
(4) 生活機能全般について	31
(5) 趣味・生きがいについて	34
7. 社会参加について	36
(1) 地域との関わり	36
① 地域活動への参加の状況	36
② 地域づくりへの参加意向	39
(2) たすけあい	41
① 周囲との相互の関係	41
② 家族や友人・知人以外の相談相手について	42
③ 友人・知人との関係性	43
8. 健康・介護予防について	46
(1) 健康状態	46
① 主観的な健康状態	46
② 精神面での健康	47
③ 病気の状況	50
(2) 飲酒・喫煙	52
9. 在宅医療について	54
(1) かかりつけ医の有無	54
(2) 医療や介護が必要になった時に過ごしたい場所について	55
(3) 最期を迎えたい場所について	56
(4) 自宅療養が継続できる体制の推進について	57
10. 総括	58
(1) 回答者の属性・住まいの状況	58
(2) 介護の現状	58
(3) 運動・外出について	58
(4) 口腔・栄養について	59
(5) 日常生活について	59
(6) 社会参加について	59
(7) 健康について	60
(8) 在宅医療について	60
11. 岸和田市介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 アンケート調査票	61

1. 調査概要

(1) 調査目的

本調査では、平成 30 年度からスタートする「岸和田市高齢者福祉計画・第 7 期介護保険事業計画」を策定するにあたり、今後の高齢者福祉サービスや健康づくりの方策を検討するため、日頃の生活や介護の状況、サービスの利用意向の実態を把握し、計画策定における基礎的な資料を作成することを目的として実施しました。

(2) 調査の実施について

以下の調査を実施しました。

調査種類	日常生活圏域ニーズ調査
対象者	岸和田市内にお住まいの 65 歳以上（介護認定を受けていない人と要支援 1、2 の人）の高齢者 3,300 名を抽出
実施期間	平成 28 年 12 月 13 日（火）～平成 29 年 1 月 13 日（金）
実施方法	郵送配布、郵送回収、（回収率向上のための礼状兼督促はがきを実施）

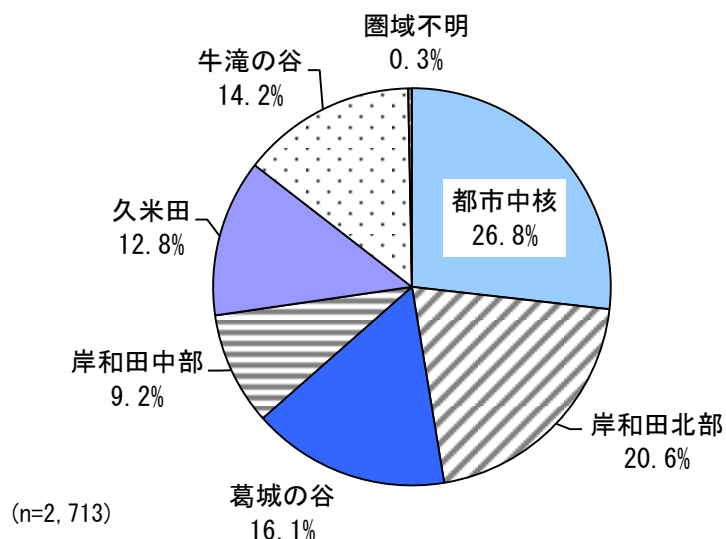
(3) 配布件数

	全体	都市中核	岸和田北部	葛城の谷	岸和田中部	久米田	牛滝の谷
総数	3,300	873	675	541	297	430	484

(4) 有効回答件数及び各圏域の割合

	全体 (回収率)	都市中核	岸和田北部	葛城の谷	岸和田中部	久米田	牛滝の谷	圏域不明
総数 (回収率%)	2,713 (82.2)	727 (83.3)	560 (83.0)	436 (80.6)	249 (83.8)	347 (80.7)	386 (79.8)	8

【各圏域の割合】



(5) 前回調査について

「岸和田市高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画」策定時実施の同調査（以下、前回調査）の調査概要は以下の通りとなっています。

調査種類	日常生活圏域ニーズ調査	認定者調査
対象者	岸和田市内にお住まいの65歳以上（要介護3以上を除く）の高齢者3,100名を抽出	岸和田市内にお住まいの要介護3以上の高齢者600名を抽出
実施期間	平成25年12月24日（火）～平成26年1月31日（金）	
実施方法	郵送配布、郵送回収、（回収率向上のための礼状兼督促はがきを実施）	

	配布数	有効回収数	有効回答率
日常生活圏域ニーズ調査	3,098 件	2,279 件	73.6%
認定者調査	599 件	320 件	53.4%

(6) 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下の通りとなっています。

1. 「n」は「number」の略で、比率算出の母数です。
2. 単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記。このため、百分率の合計が100.0%とならない場合があります。
3. 複数回答の場合、図中に MA と記載しています。また、不明（無回答）はグラフ・表から除いている場合があります。
4. 各表の全体には属性不明者（性別や年齢などの無回答）を除いています。
5. 各コメント欄は以下の通り使い分けています。

調査結果から直接わかる事項
調査結果をもとに判定により算出した事項（リスクの判定）

6. 各表の旧二次予防事業対象者とは、運動器機能の低下（P11 参照）、口腔機能の低下（P18 参照）、低栄養（P21 参照）、虚弱のリスク（P32 参照）のいずれかに該当した人のこと。

2. 回答者の属性

(1) 圏域、年齢、性別

単位：％

		母数 (n)	圏域						無 回 答
			都 市 中 核	岸 和 田 北 部	葛 城 の 谷	岸 和 田 中 部	久 米 田	牛 滝 の 谷	
全体		2, 713	26. 8	20. 6	16. 1	9. 2	12. 8	14. 2	0. 3
性年齢別	男性 65～69歳	343	26. 2	19. 5	17. 5	9. 0	12. 5	15. 2	－
	70～74歳	240	21. 3	22. 1	17. 5	10. 8	12. 9	15. 4	－
	75～79歳	233	27. 5	22. 7	13. 3	9. 0	10. 7	16. 7	－
	80～84歳	163	25. 2	22. 7	19. 6	8. 0	12. 9	11. 7	－
	85歳以上	101	30. 7	23. 8	13. 9	5. 0	11. 9	14. 9	－
	女性 65～69歳	387	25. 3	20. 2	18. 9	9. 8	11. 1	14. 7	－
	70～74歳	321	25. 2	19. 0	17. 8	10. 3	14. 3	13. 4	－
	75～79歳	426	28. 4	21. 6	13. 8	8. 7	15. 3	12. 2	－
	80～84歳	298	27. 9	20. 5	12. 4	10. 1	14. 1	15. 1	－
85歳以上	193	34. 7	17. 6	16. 1	7. 8	9. 8	14. 0	－	

(2) 認定・該当状況

単位：％

		母数 (n)	認定・該当状況		
			一般 高齢者	旧二次予防 事業対象者	要支援 1・2
全体		2,713	56.0	26.2	17.8
性年齢別	男性 前期高齢者	583	74.1	20.4	5.5
	後期高齢者	497	47.3	33.0	19.7
	女性 前期高齢者	708	68.9	22.2	8.9
	後期高齢者	917	39.3	29.2	31.5
圏域	都市中核	727	53.6	27.5	18.8
	岸和田北部	560	54.8	27.3	17.9
	葛城の谷	436	56.2	26.6	17.2
	岸和田中部	249	61.0	22.9	16.1
	久米田	347	57.1	25.1	17.9
	牛滝の谷	386	57.8	24.6	17.6

(3) 回答の記入者

単位：％

		母数 (n)	記入者					無回答
			あて名 の本人	主な介護者 となっている家族・ 親族	主な介護者 以外の 家族・親族	調査対象者の ケアマネジャー	その他	
全体		2,713	77.6	5.2	1.4	0.4	0.6	14.8
性年齢別	男性 前期高齢者	583	83.5	1.7	0.3	0.2	0.5	13.7
	後期高齢者	497	71.0	7.8	2.2	0.4	1.4	17.1
	女性 前期高齢者	708	85.2	0.8	0.6	0.3	0.3	12.9
	後期高齢者	917	71.5	9.3	2.3	0.8	0.5	15.6
圏域	都市中核	727	76.1	4.4	1.2	0.6	0.7	17.1
	岸和田北部	560	76.6	4.6	1.3	0.5	0.9	16.1
	葛城の谷	436	81.4	5.5	2.1	0.2	0.2	10.6
	岸和田中部	249	79.1	5.2	1.6	0.4	0.4	13.3
	久米田	347	76.7	6.1	0.9	－	0.6	15.9
	牛滝の谷	386	77.5	6.2	1.6	0.8	0.8	13.2
認定・ 該当状況	一般高齢者	1,520	83.0	1.2	0.9	－	0.5	14.4
	旧二次予防事業対象者	711	75.0	7.9	1.7	－	0.8	14.6
	要支援1・2	482	64.3	13.7	2.7	2.5	0.6	16.2
	(再掲) 非認定者	2,231	80.5	3.3	1.1	－	0.6	14.5

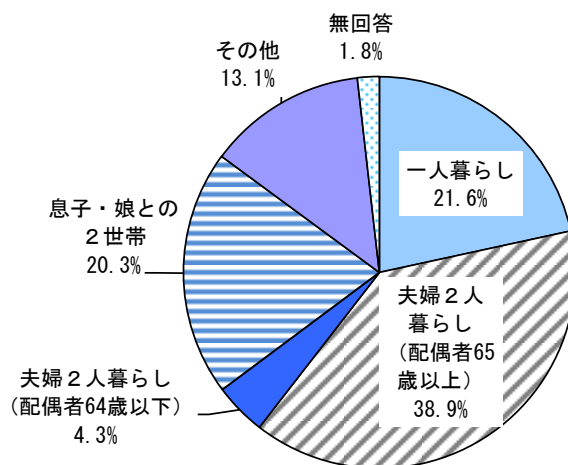
＊非認定者とは、一般高齢者と旧二次予防事業対象者を合わせた、要介護認定を受けていない人を示しています。(以下同様)

3. ご家族や生活状況について

(1) 家族構成

- 家族構成について、「一人暮らし」21.6%、「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」38.9%、「夫婦2人暮らし（配偶者 64 歳以下）」4.3%、「息子・娘との2世帯」20.3%、「その他」13.1%となっています。
- 「一人暮らし」、「夫婦2人暮らし」を合わせると、64.8%を占めています。
- 性年齢別にみると、男性では各世代において「夫婦2人暮らし（配偶者 65 歳以上）」の割合が高く、一方、女性では男性に比べ各年代において「一人暮らし」の割合が高く、80～84 歳では4割を超えています。
- 認定・該当状況別にみると、要支援1・2の人に「一人暮らし」が多くなっています。

【家族構成】



(n=2,713)

単位：%

		母数 (n)	家族構成					無回答
			一人暮らし	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	息子・娘との2世帯	その他	
全体		2,713	21.6	38.9	4.3	20.3	13.1	1.8
性年齢別	男性 65～69歳	343	14.3	27.4	23.0	13.7	20.1	1.5
	70～74歳	240	14.2	55.0	2.9	15.8	11.7	0.4
	75～79歳	233	12.9	59.2	0.9	15.9	9.9	1.3
	80～84歳	163	14.1	53.4	3.1	23.3	4.3	1.8
	85歳以上	101	18.8	43.6	－	26.7	8.9	2.0
	女性 65～69歳	387	15.2	42.6	3.6	18.6	18.9	1.0
	70～74歳	321	19.6	41.1	1.9	22.7	12.1	2.5
	75～79歳	426	28.4	37.3	0.2	21.1	11.5	1.4
	80～84歳	298	41.6	24.2	0.3	23.2	8.4	2.3
	85歳以上	193	32.6	15.0	0.5	31.1	15.0	5.7
認定・該当状況	一般高齢者	1,520	17.2	43.2	5.8	19.1	13.4	1.4
	旧二次予防事業対象者	711	18.8	37.8	3.1	22.8	14.9	2.5
	要支援1・2	482	39.4	26.8	1.2	20.7	9.5	2.3

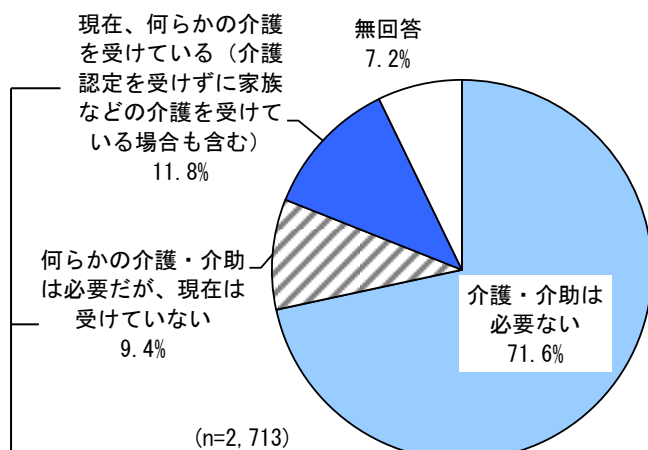
(2) 暮らし・住まいの状況

① 介護・介助の必要性

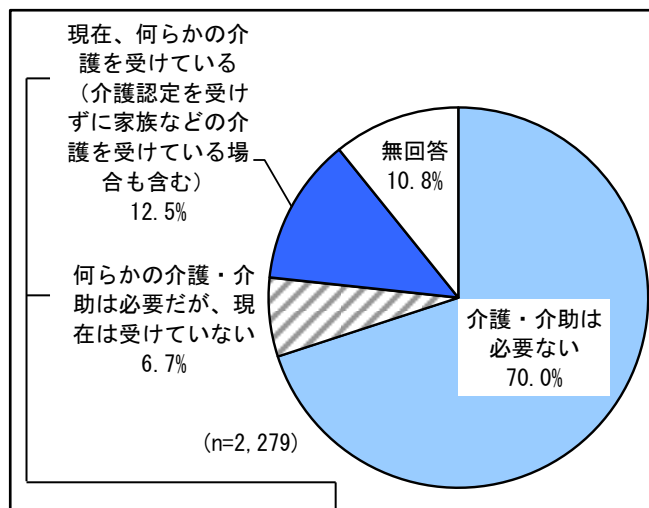
- 介護・介助の必要性について、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」と回答した人と、「現在、何らかの介護を受けている」と回答した人を合わせた、“介護・介助が必要”な人は21.2%となっています。
- 介護・介助が必要になった原因については、「骨折・転倒」、「高齢による衰弱」の割合が高く、前回調査と同様の傾向がみられます。

【介護・介助の必要性】

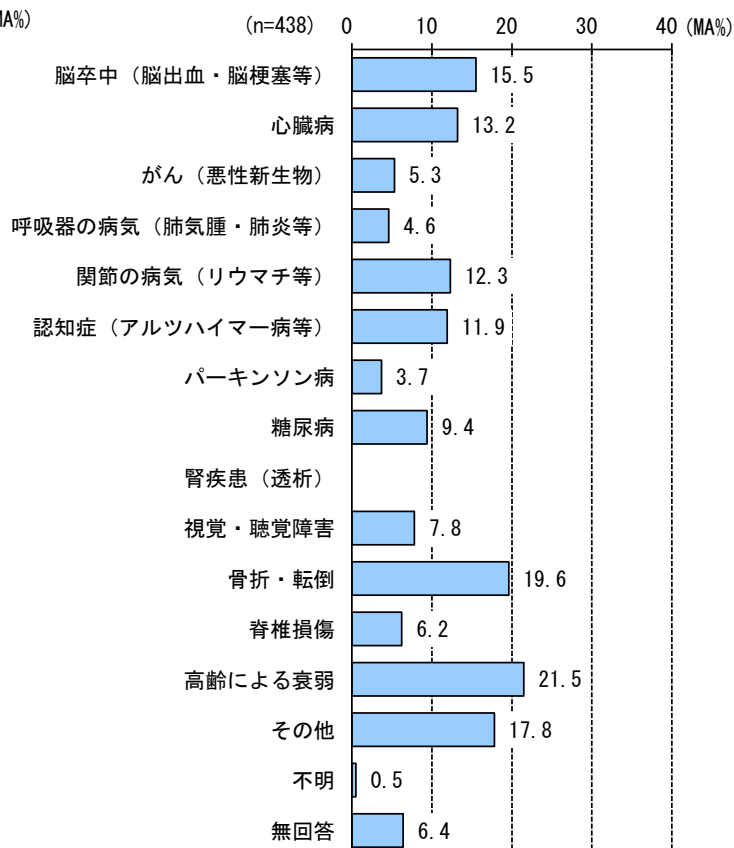
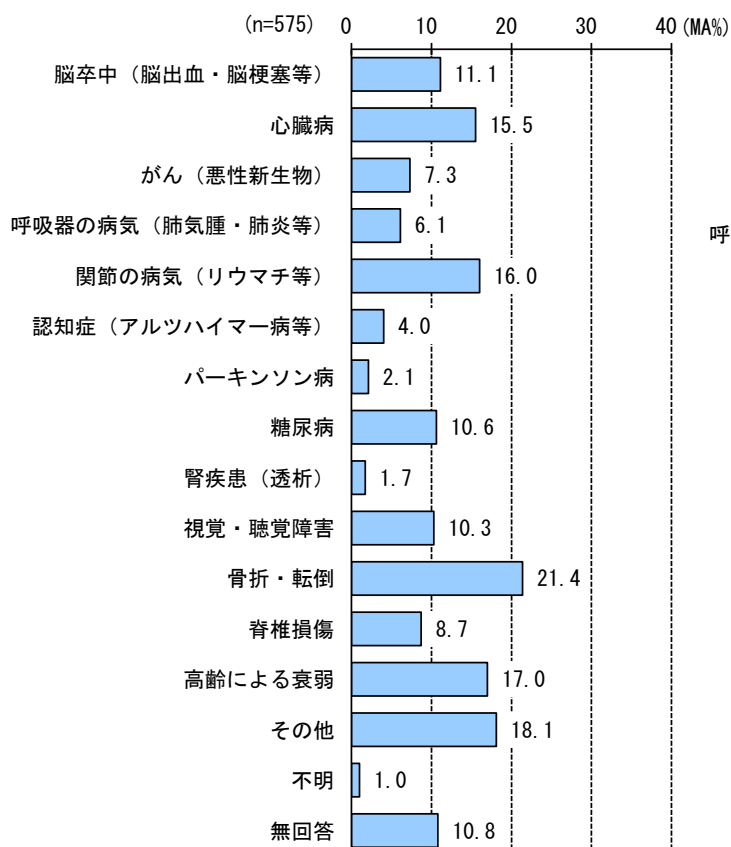
◎今回調査



◎前回調査



【介護・介助の必要になった原因】



- 男女共に、年齢が上がるにつれて、“介護・介助が必要”な人の割合が増加しています。とくに、80歳を超えるとその割合は大きく増加しています。
- 圏域別にみると、都市中核、岸和田北部、葛城の谷、久米田で“介護・介助が必要”な人の割合が2割を超えています。
- 認定・該当状況別にみると、一般高齢者では「介護・介助は必要ない」人の割合が9割、旧二次予防事業対象者では7割弱となっています。一方、要支援1・2の人で「現在、何らかの介護を受けている」人の割合は5割以上となっています。

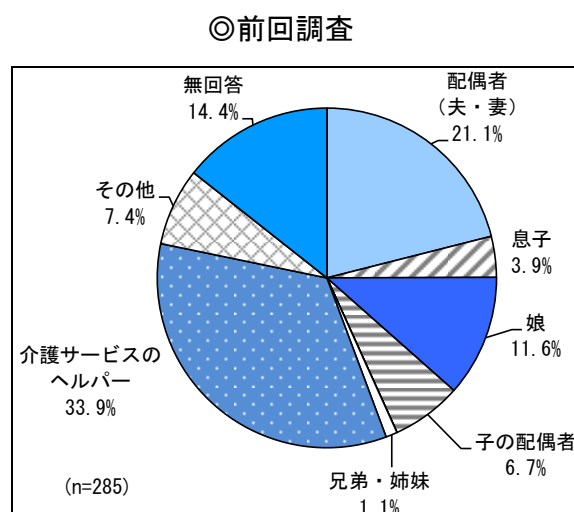
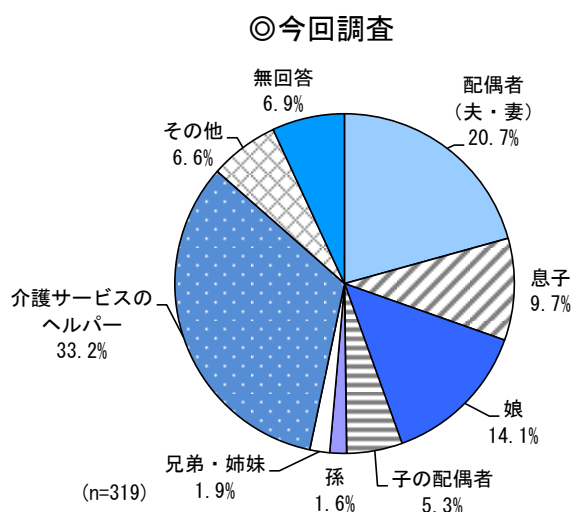
単位：％

		母数 (n)	介護・介助の必要性				(再掲) 必要の合計 介護・介助が
			介護・介助は必要ない	必要ないが、現在の介護・介助は	何らかの介護・介助を受けるに家族などの場合も含む)	現在、何らかの介護を受けている	
全体		2,713	71.6	9.4	11.8	7.2	21.2
性年齢別	男性 65～69歳	343	89.8	2.9	2.9	4.4	5.8
	75～79歳	233	80.0	5.8	8.3	5.8	14.1
	70～74歳	101	79.4	9.0	6.4	5.2	15.4
	80～84歳	321	58.3	15.3	16.0	10.4	31.3
	85歳以上	298	55.4	16.8	23.8	4.0	40.6
	女性 65～69歳	240	88.4	3.9	2.6	5.2	6.5
	75～79歳	163	77.9	5.0	10.0	7.2	15.0
	70～74歳	387	67.4	12.2	12.7	7.7	24.9
	80～84歳	426	51.7	15.8	21.8	10.7	37.6
	85歳以上	193	36.3	18.7	32.6	12.4	51.3
圏域	都市中核	727	68.4	10.3	13.5	7.8	23.8
	岸和田北部	560	72.3	9.1	11.3	7.3	20.4
	葛城の谷	436	74.1	10.6	9.9	5.5	20.5
	岸和田中部	249	75.9	7.6	8.4	8.0	16.0
	久米田	347	71.5	9.8	13.3	5.5	23.1
	牛滝の谷	386	71.8	7.3	12.4	8.5	19.7
認定・該当状況	一般高齢者	1,520	90.1	2.3	1.2	6.4	3.5
	旧二次予防事業対象者	711	68.1	15.3	7.6	9.0	22.9
	要支援1・2	482	18.7	23.2	51.2	6.8	74.4

② 主な介護者

- 主な介護者について、前回調査同様、「介護サービスのヘルパー」の割合が最も高く、次いで「配偶者」、「娘」となっています。
- 性年齢別にみると、男性の後期高齢者については、「配偶者」が主な介護者となっていますが、女性の後期高齢者では、「介護サービスのヘルパー」が最も高い割合を示しています。
- 認定・該当状況別にみると、要介護認定を受けていない人については、「配偶者」や「娘」、「息子」が介護・介助を行う傾向がある一方、要支援1・2の人では「介護サービスのヘルパー」が主な介護者となっています。
- 家族構成別にみると、一人暮らしでは「介護サービスのヘルパー」が約6割、夫婦二人暮らし世帯では「配偶者」が半数を占めています。

【主な介護者】



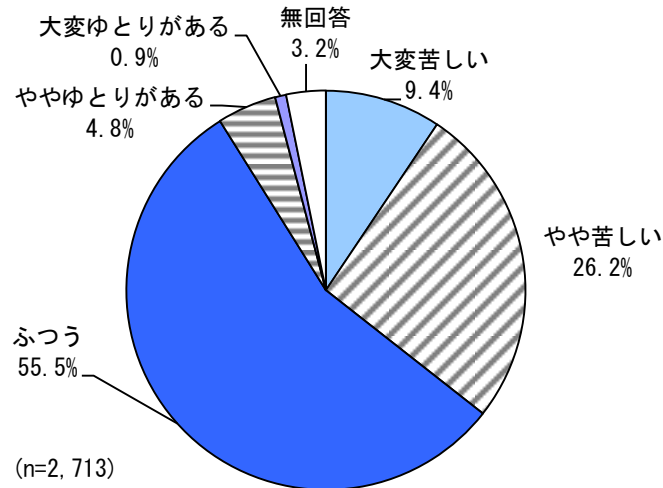
単位：％

		母数 (n)	主な介護者								無 回 答
			(配 偶 者 ・ 妻)	息 子	娘	子 の 配 偶 者	孫	兄 弟 ・ 姉 妹	介 護 サ ー ビ ス の ヘ ル パ ー	そ の 他	
全体		319	20.7	9.7	14.1	5.3	1.6	1.9	33.2	6.6	6.9
性年齢別	男性 前期高齢者	30	26.7	－	3.3	3.3	－	6.7	36.7	10.0	13.3
	後期高齢者	65	33.8	12.3	15.4	6.2	－	－	16.9	9.2	6.2
	女性 前期高齢者	42	23.8	9.5	9.5	2.4	－	2.4	38.1	7.1	7.1
	後期高齢者	182	14.3	10.4	16.5	6.0	2.7	1.6	37.4	4.9	6.0
認定・該当状況	一般高齢者	18	33.3	11.1	22.2	5.6	－	－	5.6	22.2	－
	旧二次予防事業対象者	54	33.3	16.7	16.7	5.6	1.9	3.7	3.7	9.3	9.3
	要支援1・2	247	17.0	8.1	13.0	5.3	1.6	1.6	41.7	4.9	6.9
家族構成	一人暮らし	127	－	7.9	11.0	0.8	1.6	3.1	59.8	10.2	5.5
	夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）	86	55.8	3.5	7.0	3.5	－	1.2	17.4	3.5	8.1
	夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）	3	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－
	息子・娘との2世帯	62	14.5	17.7	27.4	12.9	1.6	－	14.5	3.2	8.1
	その他	39	12.8	15.4	20.5	12.8	5.1	2.6	15.4	7.7	7.7

③ 経済状況

- 現在の経済状況について、「大変苦しい」、「やや苦しい」を合わせた 35.6%の人が“経済的に苦しい”と感じています。
- 性年齢別、認定・該当状況別で大きな差はみられず、8割前後の人が現在の暮らしは経済的に「ふつう」から「やや苦しい」と感じています。
- 圏域別にみると、岸和田北部、葛城の谷で、“経済的に苦しい”と感じている割合が高くなっています。一方、都市中核、牛滝の谷では「ややゆとりがある」、「大変ゆとりがある」を合わせた経済的に“ゆとりがある”人の割合が高くなっています。

【現在の暮らしの経済状況】



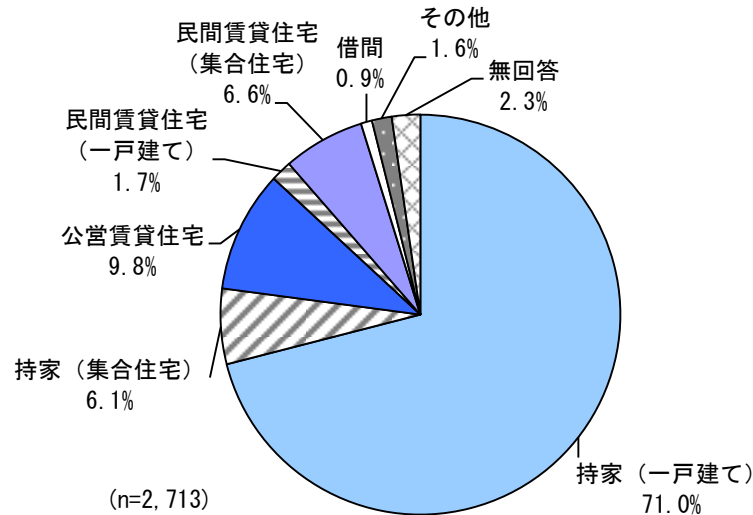
単位：％

		母数 (n)	現在の暮らしの経済状況						(再掲) 経済的に 苦しいの 合計
			大変 苦しい	やや 苦しい	ふつ う	やや ゆとり がある	大変 ゆとり がある	無回 答	
全体		2,713	9.4	26.2	55.5	4.8	0.9	3.2	35.6
性年齢別	男性 前期高齢者	583	10.3	30.4	52.0	5.5	0.7	1.2	40.7
	後期高齢者	497	9.3	24.3	56.1	5.2	1.6	3.4	33.6
	女性 前期高齢者	708	9.5	27.0	56.2	3.8	0.4	3.1	36.5
	後期高齢者	917	8.6	23.7	57.3	4.9	1.0	4.6	32.3
圏域	都市中核	727	9.6	26.0	53.5	5.2	1.7	4.0	35.6
	岸和田北部	560	9.1	29.6	53.0	3.9	1.1	3.2	38.7
	葛城の谷	436	10.8	27.3	55.0	4.8	0.5	1.6	38.1
	岸和田中部	249	6.0	22.1	62.2	6.0	0.4	3.2	28.1
	久米田	347	11.5	25.6	56.8	2.6	0.3	3.2	37.1
	牛滝の谷	386	7.5	22.8	58.8	6.5	0.5	3.9	30.3
認定・該当状況	一般高齢者	1,520	7.3	21.9	60.4	6.3	1.0	3.2	29.2
	旧二次予防事業対象者	711	14.2	31.8	47.3	3.0	0.8	3.0	46.0
	要支援1・2	482	8.7	31.3	52.3	3.1	0.6	3.9	40.0

④ 住まいの状況

- 住まいの状況について、「持家（一戸建て）」にお住まいの人の割合が最も高く 71.0% となっています。
- “持家” の人は 77.1%、“賃貸住宅” の人は 19.0% となっています。
- 圏域別にみると、岸和田中部で“持家”の割合が最も高く、一方、“賃貸住宅”は岸和田北部で高くなっています。

【住まいの状況】



単位：%

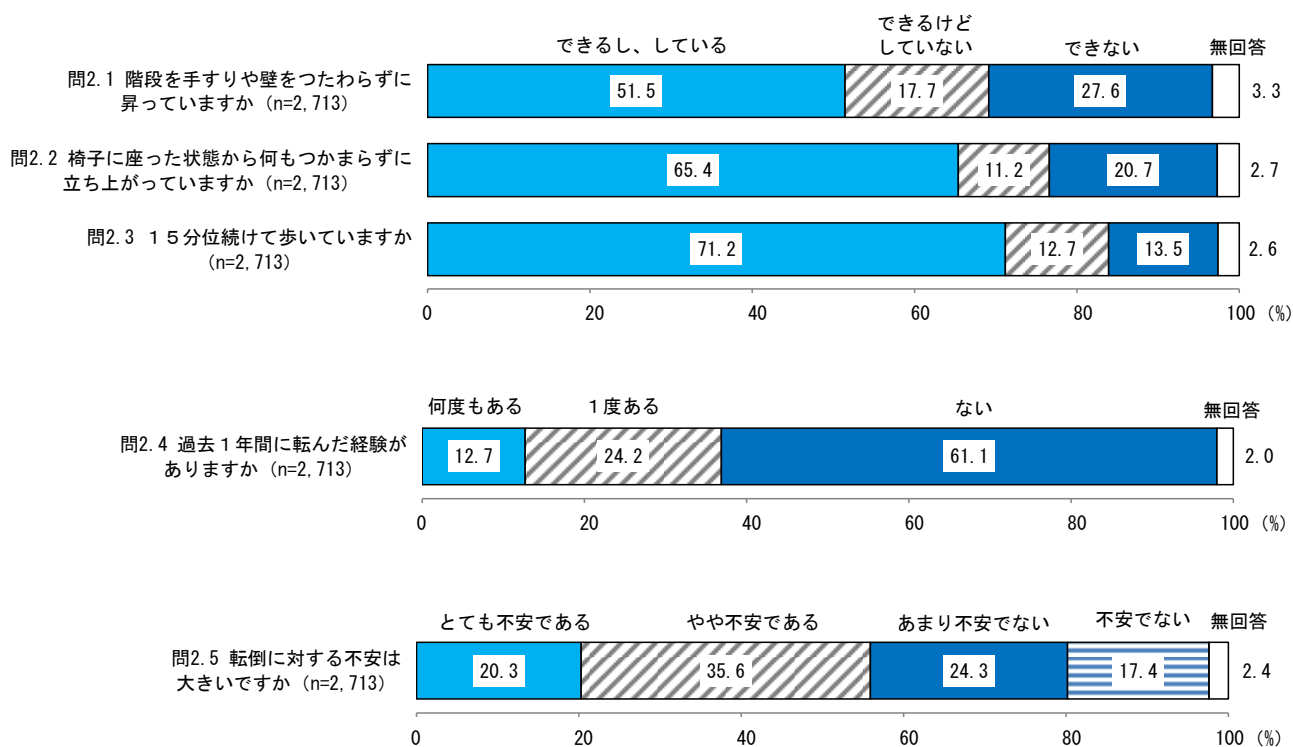
		母数 (n)	住まいの状況								(再掲) 持家の合計	(再掲) 賃貸住宅の合計
			持家 (一戸建て)	持家 (集合住宅)	公営賃貸住宅	民間賃貸住宅 (一戸建て)	民間賃貸住宅 (集合住宅)	借間	その他	無回答		
全体		2,713	71.0	6.1	9.8	1.7	6.6	0.9	1.6	2.3	77.1	19.0
性年齢別	男性 前期高齢者	583	71.7	8.4	7.5	2.1	7.5	0.9	0.7	1.2	80.1	18.0
	後期高齢者	497	74.8	4.0	8.7	1.0	6.6	1.2	1.4	2.2	78.8	17.5
	女性 前期高齢者	708	70.5	7.2	9.5	1.0	7.5	0.7	1.1	2.5	77.7	18.7
	後期高齢者	917	68.8	4.9	12.2	2.3	5.3	1.0	2.6	2.8	73.7	20.8
圏域	都市中核	727	67.4	12.0	3.4	2.9	7.7	1.5	2.1	3.0	79.4	15.5
	岸和田北部	560	62.3	4.5	20.0	1.4	7.7	1.3	1.1	1.8	66.8	30.4
	葛城の谷	436	70.0	6.2	12.4	1.4	6.9	0.7	1.6	0.9	76.2	21.4
	岸和田中部	249	86.7	3.2	0.8	1.2	4.8	-	0.4	2.8	89.9	6.8
	久米田	347	65.4	4.9	15.0	0.9	6.9	0.6	2.9	3.5	70.3	23.4
	牛滝の谷	386	86.3	0.3	5.4	1.0	3.6	0.5	1.0	1.8	86.6	10.5
認定・該当状況	一般高齢者	1,520	74.3	6.8	8.2	1.2	5.8	0.7	0.9	2.1	81.1	15.9
	旧二次予防事業対象者	711	68.4	5.3	11.8	1.7	7.3	1.0	2.0	2.5	73.7	21.8
	要支援1・2	482	64.7	5.0	11.8	3.1	8.1	1.5	3.1	2.7	69.7	24.5

4. 運動・外出について

(1) 運動・転倒の状況

- 椅子からの立ち上がりや、15 分程度の歩行については、「できるし、している」人が 6 割を超えています。一方で「階段を手すりや壁をつたわずに昇っている」人は 5 割程度となっています。
- 転倒経験がある人は 36.9%ですが、転倒に不安を感じている人は 55.9%と、転倒経験がない人でも転倒に不安を感じています。

【運動・転倒の状況】



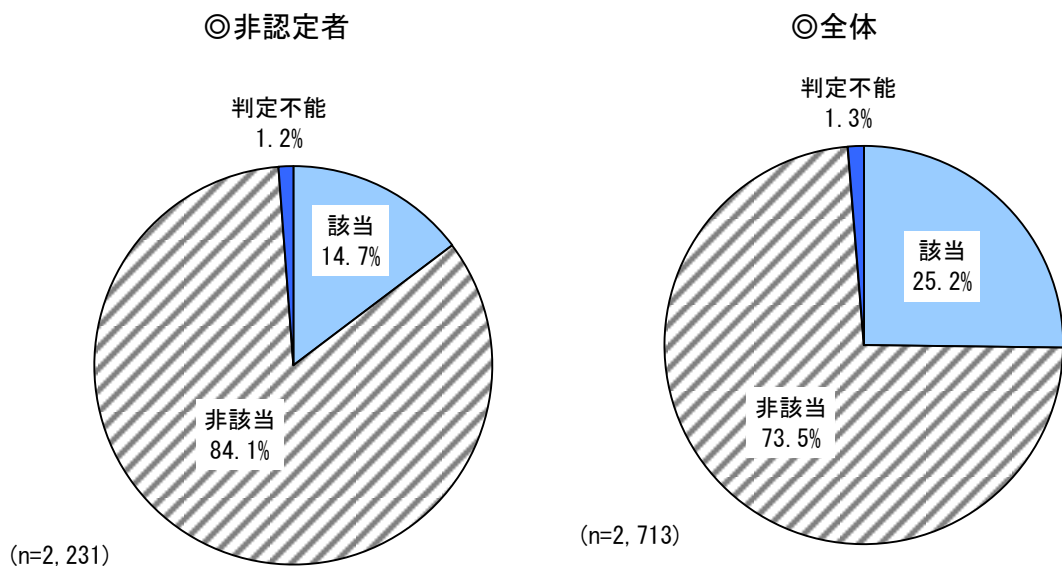
◆ 運動器機能の低下リスクの判定

調査票の運動器機能に関する問 2.1～2.5 について、以下の 5 問中 3 問に該当した人を、運動器機能が低下していると判定しました。

問 2.1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」
問 2.2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	
問 2.3 15 分位続けて歩いていますか	
問 2.4 過去 1 年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」または「2. 1 度ある」
問 2.5 転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」または「2. やや不安である」

- 運動器機能について、低下していると判定された人は非認定者では 14.7%、全体では 25.2%となっています。
- 女性の後期高齢者で該当者の割合が高くなっており、全体では 4 割を超えています。
- 圏域別にみると、都市中核、岸和田北部でリスク該当者の割合が若干多くみられます。

【運動器機能の低下リスク】



単位：%

		母数 (n)	運動器機能の低下リスク (非認定者のみ)			母数 (n)	運動器機能の低下リスク		
			該当	非該当	判定不能		該当	非該当	判定不能
全体		2, 231	14. 7	84. 1	1. 2	2, 713	25. 2	73. 5	1. 3
性年齢別	男性 前期高齢者	551	4. 4	94. 9	0. 7	583	8. 2	90. 9	0. 9
	後期高齢者	399	20. 3	78. 9	0. 8	497	27. 2	71. 4	1. 4
	女性 前期高齢者	645	8. 7	89. 8	1. 6	708	14. 4	84. 2	1. 4
	後期高齢者	628	26. 1	72. 5	1. 4	917	43. 3	55. 4	1. 3
圏域	都市中核	590	16. 9	81. 5	1. 5	727	27. 5	71. 0	1. 5
	岸和田北部	460	16. 1	82. 6	1. 3	560	27. 0	71. 3	1. 8
	葛城の谷	361	12. 7	86. 7	0. 6	436	23. 2	76. 4	0. 5
	岸和田中部	209	12. 0	87. 1	1. 0	249	22. 5	76. 3	1. 2
	久米田	285	14. 7	84. 6	0. 7	347	23. 9	75. 2	0. 9
	牛滝の谷	318	11. 9	86. 5	1. 6	386	23. 6	75. 1	1. 3
	認定・該当状況								
一般高齢者		1, 520	-	98. 3	1. 7	1, 520	-	98. 3	1. 7
旧二次予防事業対象者		711	46. 1	53. 9	-	711	46. 1	53. 9	-
要支援 1・2		-	-	-	-	482	74. 1	24. 3	1. 7

◆ 転倒リスクの判定

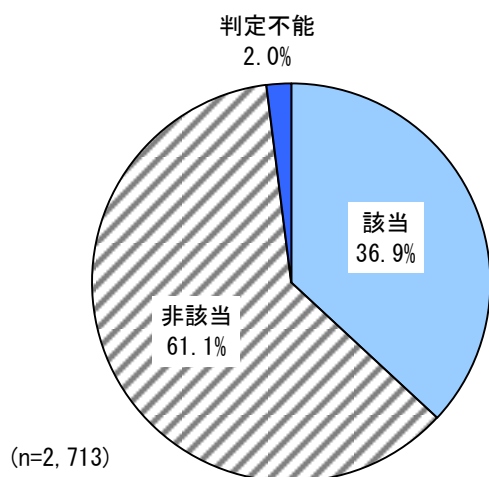
調査票の転倒リスクに関する問 2.4 について、以下に該当した人を、転倒リスクがあると判定しました。

問 2.4 過去 1 年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」または 「2. 1 度ある」
---------------------------	-----------------------------

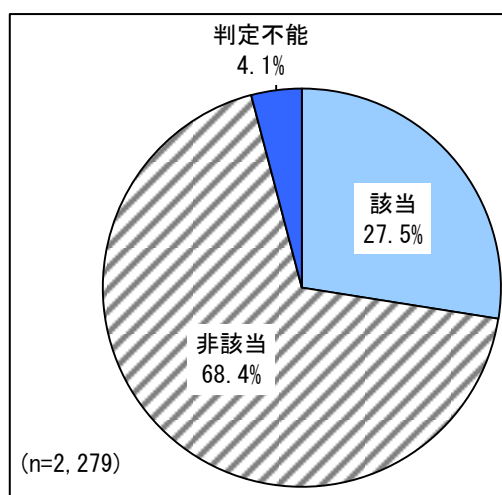
- 転倒リスクがあると判定された人は全体の 36.9%となっています。
- 圏域別にみると、都市中核のリスク該当者の割合は 4 割以上となっており、他の圏域に比べて多くなっています。
- 前回調査と比べると、全体として該当者の割合が高くなっています。

【転倒リスク】

◎今回調査



◎前回調査

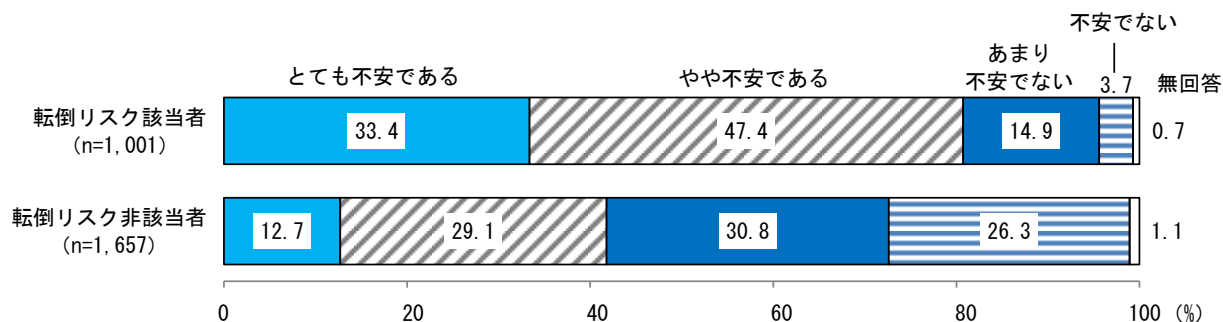


単位：%

		母数 (n)	転倒リスク		
			該当	非該当	判定不能
全体		2,713	36.9	61.1	2.0
性年齢別	男性 前期高齢者	583	25.6	73.6	0.9
	後期高齢者	497	39.2	58.6	2.2
	女性 前期高齢者	708	31.8	66.4	1.8
	後期高齢者	917	46.8	50.4	2.8
圏域	都市中核	727	42.9	54.9	2.2
	岸和田北部	560	34.6	62.5	2.9
	葛城の谷	436	34.6	64.2	1.1
	岸和田中部	249	34.5	63.9	1.6
	久米田	347	33.4	64.8	1.7
	牛滝の谷	386	36.0	61.9	2.1
認定・該当状況	一般高齢者	1,520	21.3	76.5	2.2
	旧二次予防事業対象者	711	52.9	46.1	1.0
	要支援 1・2	482	62.7	34.4	2.9

- 転倒リスクに該当した人のうち、転倒に対して「とても不安である」と「やや不安である」を合わせた“不安である”と感じている人は、80.8%と約8割を占めています。
- 転倒経験がある人は、転倒に対して不安を感じる傾向にあります。

【転倒リスク該当状況別：転倒に対する不安】

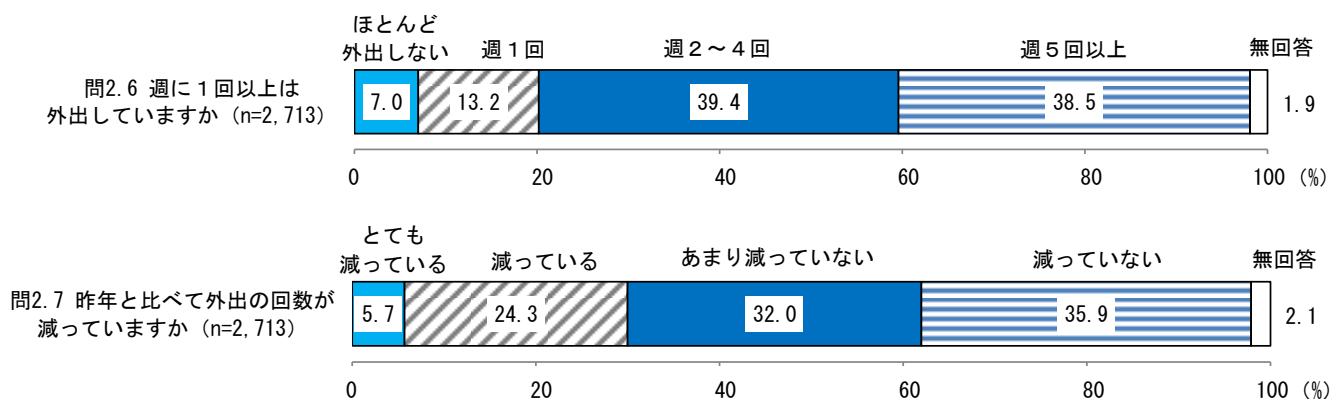


(2) 外出の状況

① 外出の頻度

- 外出の頻度について、「週1回以上外出している」人は91.1%と高い割合を示しています。
- 昨年と比べて外出の回数が「とても減っている」または「減っている」を合わせた“減っている”人は30.0%となっています。

【外出の状況】



◆ 閉じこもりのリスクの判定

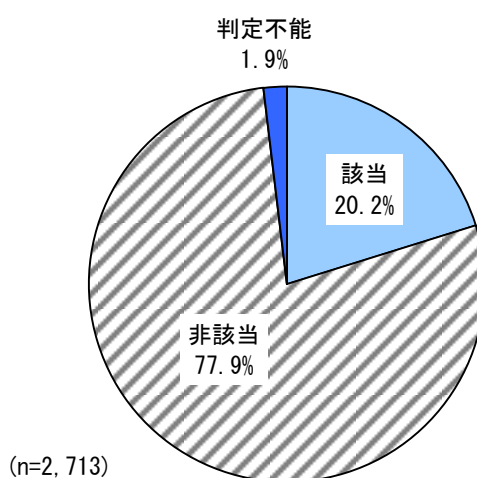
調査票の閉じこもりのリスクに関する問 2.6 について、以下に該当した人を、閉じこもりのリスクがあると判定しました。

問 2.6 週に 1 回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」または 「2. 週 1 回」
-------------------------	---------------------------------

- 閉じこもりのリスクがあると判定された人は全体の 20.2%となっています。
- 認定・該当状況別にみると、要支援 1・2 の人では 45.4%、旧二次予防事業対象者では 27.3%の人がリスク該当者となっており、一般高齢者では 1 割未満となっています。
- 家族構成別にみると、一人暮らしの人では 23.2%がリスク該当者となっています。

【閉じこもりのリスク】

◎今回調査

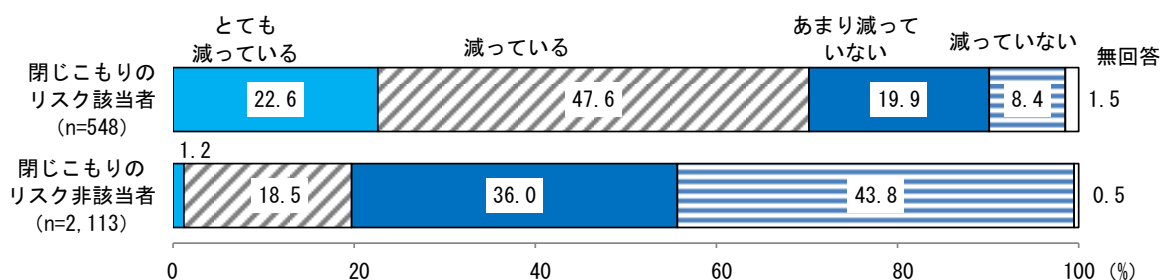


単位：％

		母数 (n)	閉じこもりのリスク		
			該 当	非 該 当	判 定 不 能
全体		2, 713	20. 2	77. 9	1. 9
性年齢別	男性 前期高齢者	583	10. 6	88. 3	1. 0
	後期高齢者	497	24. 1	73. 8	2. 0
	女性 前期高齢者	708	11. 6	86. 7	1. 7
	後期高齢者	917	30. 6	66. 7	2. 6
圏域	都市中核	727	19. 3	79. 0	1. 8
	岸和田北部	560	18. 0	78. 9	3. 0
	葛城の谷	436	21. 1	77. 8	1. 1
	岸和田中部	249	22. 1	76. 7	1. 2
	久米田	347	20. 5	77. 8	1. 7
	牛滝の谷	386	22. 3	75. 6	2. 1
	認定・該当状況	一般高齢者	1, 520	8. 9	89. 1
	旧二次予防事業対象者	711	27. 3	72. 0	0. 7
	要支援 1・2	482	45. 4	51. 0	3. 5
家族構成	一人暮らし	585	23. 2	74. 7	2. 1
	夫婦 2 人暮らし（配偶者65歳以上）	1, 055	17. 4	80. 6	2. 0
	夫婦 2 人暮らし（配偶者64歳以下）	116	10. 3	89. 7	-
	息子・娘との 2 世帯	552	22. 8	75. 5	1. 6
	その他	355	20. 8	77. 5	1. 7

- 閉じこもりのリスク該当状況別に昨年と比べた外出回数の減少状況をみると、“減っている”と回答した人は、該当者 70.2%、非該当者 19.7%と大きな差がみられます。

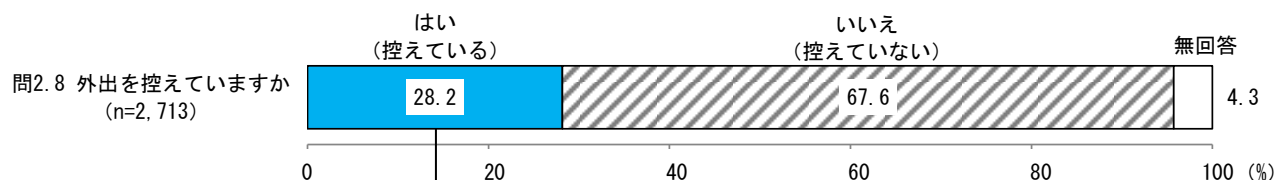
【閉じこもりのリスク該当状況別：外出の状況】



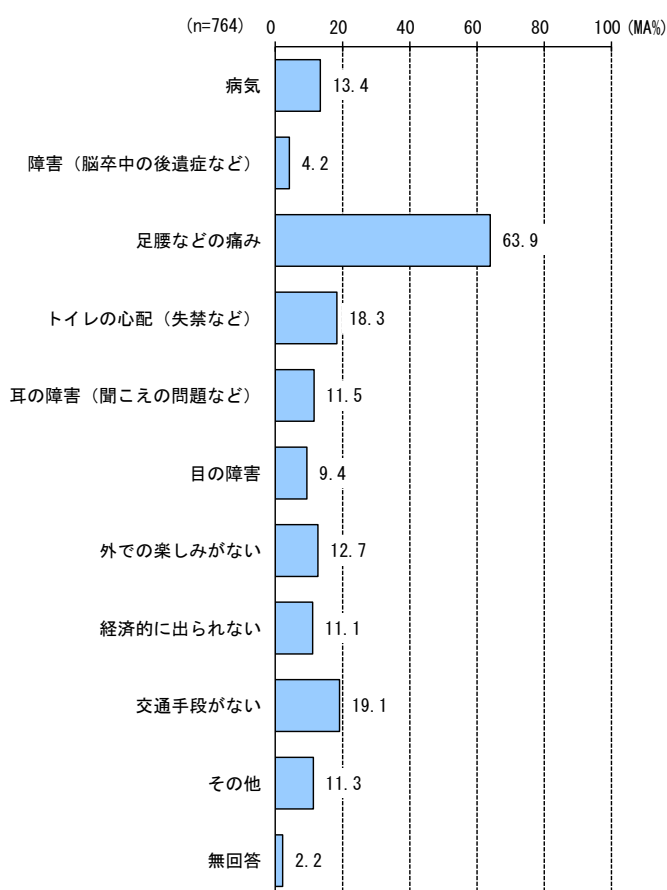
② 外出を控えているか

- 「外出を控えている」人は 28.2%となっています。
- 外出を控えている理由としては、「足腰などの痛み」が 63.9%と最も高く、次いで「交通手段がない」が 19.1%となっています。

【外出を控えているか】



【外出を控えている理由】



- 性年齢別にみると、各年代で「足腰などの痛み」が最も多く、それに次ぐ理由に多少のばらつきがみられます。男性の前期高齢者では25.4%の人が「外での楽しみがない」と回答しています。
- 圏域別にみると、各圏域とも「足腰などの痛み」の割合が最も高くなっています。岸和田中部、久米田、牛滝の谷では、「交通手段がない」と回答された人が2割以上となっています。

単位：％

		母数 (n)	外出を控えている理由 (MA)					
			病 気	後 遺 症 な ど	障 害 （脳 卒 中 の	足 腰 な ど の 痛 み	ト イ レ の 心 配 （失 禁 な ど）	問 題 な ど
全体		764	13. 4	4. 2	63. 9	18. 3	11. 5	9. 4
性年齢別	男性 前期高齢者	59	22. 0	8. 5	52. 5	23. 7	8. 5	16. 9
	後期高齢者	158	17. 7	7. 6	56. 3	22. 8	12. 0	10. 1
	女性 前期高齢者	117	17. 1	2. 6	57. 3	11. 1	5. 1	13. 7
	後期高齢者	426	9. 2	2. 8	70. 4	17. 8	13. 4	7. 0
圏域	都市中核	224	11. 6	3. 1	70. 5	20. 1	14. 3	12. 9
	岸和田北部	155	18. 1	5. 8	59. 4	18. 1	7. 7	8. 4
	葛城の谷	120	15. 0	3. 3	69. 2	16. 7	11. 7	5. 8
	岸和田中部	60	5. 0	3. 3	55. 0	15. 0	8. 3	3. 3
	久米田	84	14. 3	1. 2	64. 3	16. 7	11. 9	10. 7
	牛滝の谷	117	11. 1	7. 7	57. 3	19. 7	12. 0	10. 3
認定・該当状況	一般高齢者	152	10. 5	2. 0	42. 1	7. 9	5. 3	9. 9
	旧二次予防事業対象者	285	14. 0	4. 2	65. 3	22. 8	10. 5	7. 4
	要支援１・２	327	14. 1	5. 2	72. 8	19. 3	15. 3	11. 0

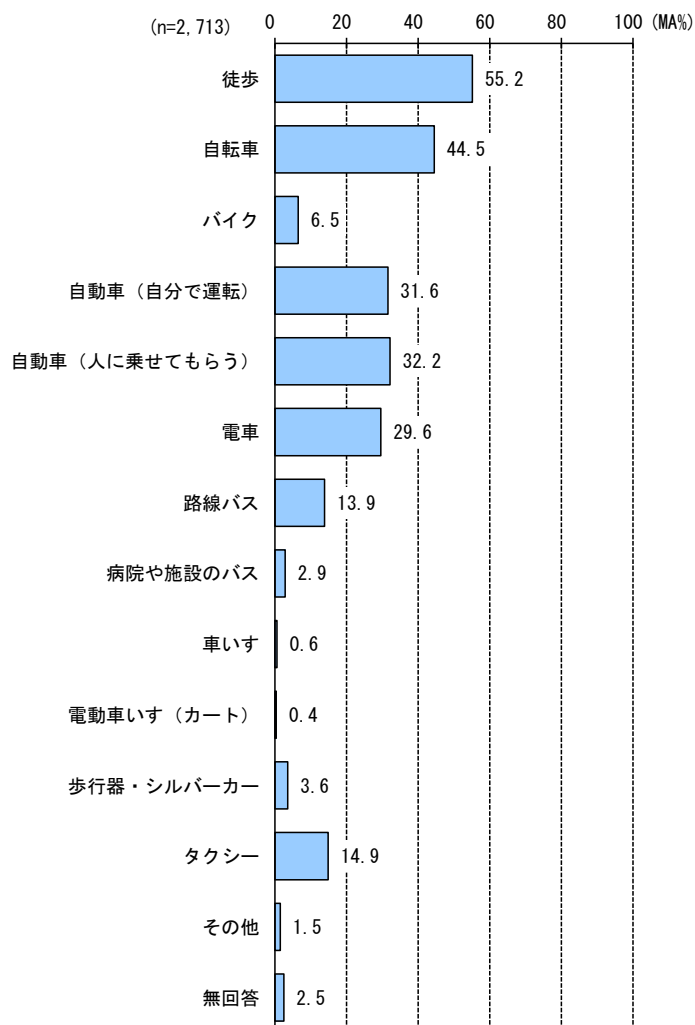
単位：％

		外出を控えている理由(MA)				
		外 で の 楽 し み が な い	経 済 的 に 出 ら れ な い	交 通 手 段 が な い	そ の 他	無 回 答
全体		12.7	11.1	19.1	11.3	2.2
性年齢別	男性 前期高齢者	25.4	11.9	6.8	3.4	1.7
	後期高齢者	16.5	11.4	19.6	9.5	0.6
	女性 前期高齢者	12.8	19.7	14.5	14.5	0.9
	後期高齢者	8.9	8.7	22.1	12.0	3.3
圏域	都市中核	9.8	10.7	15.6	10.3	1.3
	岸和田北部	15.5	14.8	18.1	11.6	2.6
	葛城の谷	10.0	13.3	16.7	10.0	2.5
	岸和田中部	15.0	10.0	21.7	13.3	5.0
	久米田	14.3	10.7	20.2	14.3	1.2
	牛滝の谷	12.8	6.0	28.2	10.3	2.6
認定・該当状況	一般高齢者	13.8	13.8	11.8	15.1	4.6
	旧二次予防事業対象者	15.4	13.0	15.8	10.2	1.1
	要支援1・2	9.8	8.3	25.4	10.4	2.1

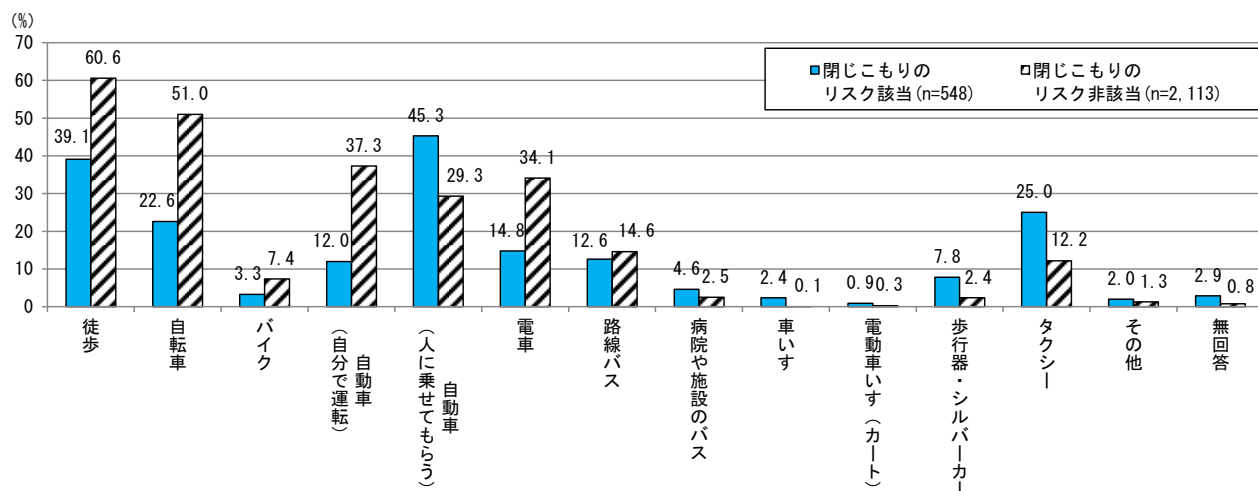
③ 外出の際の移動手段

- 外出の際の移動手段を閉じこもりのリスク該当状況別にみると、該当者・非該当者共に「徒歩」と「自転車」が多くなっていますが、「自動車」に乗る際、非該当者は「自分で運転」するのに対し、リスク該当者は「人に乗せてもらう」割合が高くなっています。

【外出の際の移動手段】



【閉じこもりのリスク該当状況別：外出の際の移動手段】

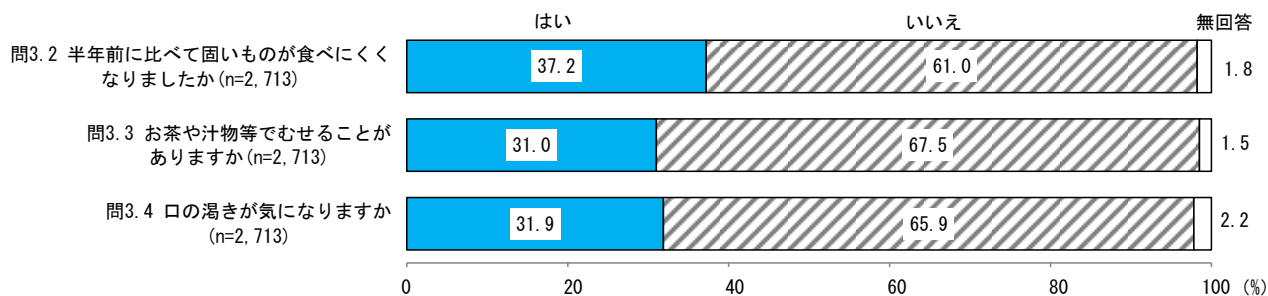


5. 口腔・栄養について

(1) 口腔

① 口内の健康状態

○ 「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」人は 37.2%、「お茶や汁物等でむせる」人は 31.0%、「口の渇きが気になる」人は 31.9%と、口腔機能についてはいずれも 3 割以上の方が問題を抱えています。



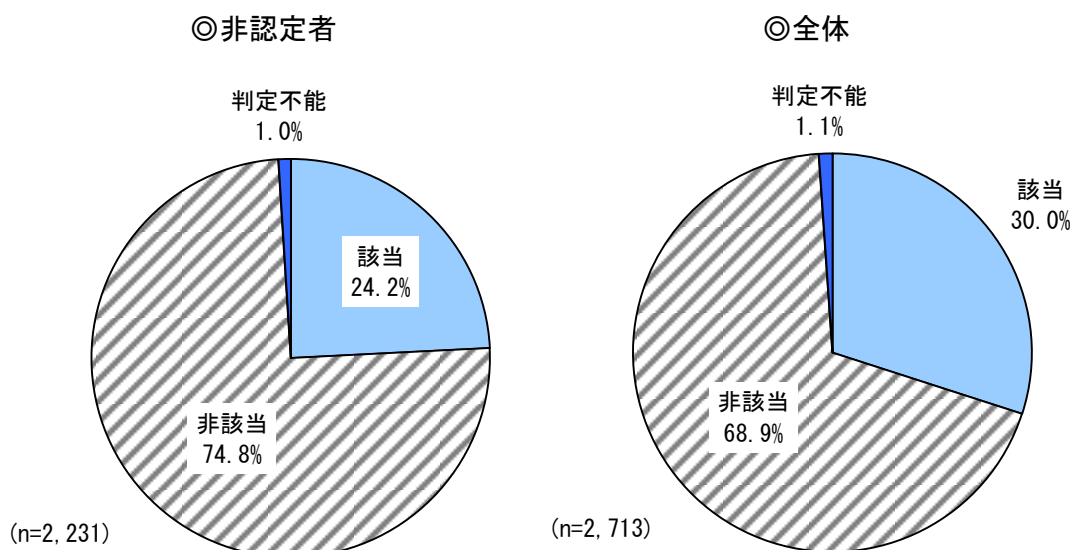
◆ 口腔機能の低下リスクの判定

調査票の口腔機能に関する問 3.2～3.4 について、3 問中 2 問に該当した人を、口腔機能が低下していると判定しました。

問3.2 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」
問3.3 お茶や汁物等でむせることがありますか	
問3.4 口の渇きが気になりますか	

○ 口腔機能の低下リスクがあると判定された人は非認定者では 24.2%、全体では 30.0%となっています。

【口腔機能の低下リスク】



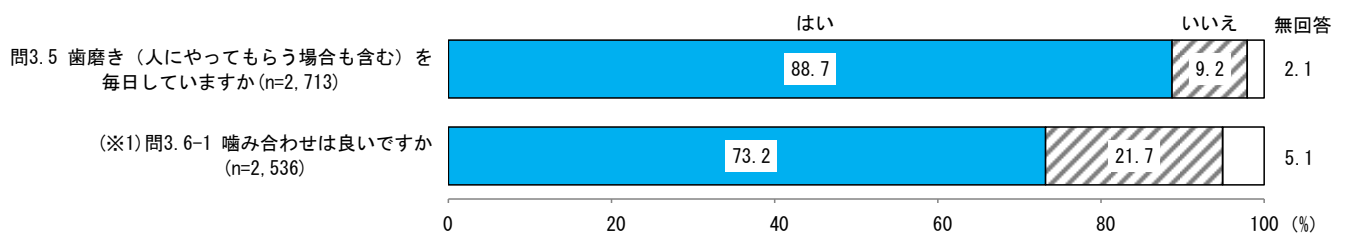
- 認定・該当状況別にみると、旧二次予防事業対象者で 75.9%がリスク該当者となっています。

単位：％

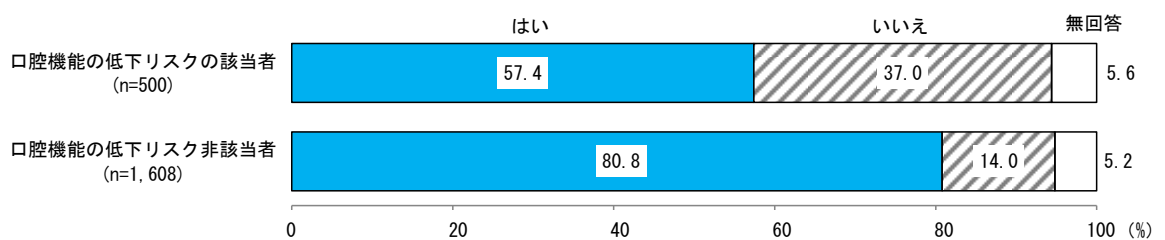
		母数 (n)	口腔機能の低下リスク (非認定者のみ)			母数 (n)	口腔機能の低下リスク		
			該 当	非 該 当	判 定 不 能		該 当	非 該 当	判 定 不 能
全体		2,231	24.2	74.8	1.0	2,713	30.0	68.9	1.1
性年齢別	男性 前期高齢者	551	19.1	80.6	0.4	583	20.9	78.6	0.5
	後期高齢者	399	30.8	67.9	1.3	497	35.6	62.6	1.8
	女性 前期高齢者	645	19.8	79.4	0.8	708	22.6	76.6	0.8
	後期高齢者	628	29.1	69.3	1.6	917	38.5	60.3	1.2
圏域	都市中核	590	25.3	73.7	1.0	727	32.7	66.2	1.1
	岸和田北部	460	25.2	73.3	1.5	560	30.4	67.7	2.0
	葛城の谷	361	26.0	73.4	0.6	436	30.7	68.8	0.5
	岸和田中部	209	19.1	80.4	0.5	249	24.5	75.1	0.4
	久米田	285	21.8	77.9	0.4	347	27.4	72.0	0.6
	牛滝の谷	318	24.5	73.9	1.6	386	29.5	69.2	1.3
	一般高齢者	1,520	-	98.7	1.3	1,520	-	98.7	1.3
認定・該当状況	旧二次予防事業対象者	711	75.9	23.8	0.3	711	75.9	23.8	0.3
	要支援 1・2	-	-	-	-	482	56.6	41.9	1.5

② 歯の状況

- 「歯磨きを毎日している」人は 88.7%、「噛み合わせが良い」人は 73.2%となっています。
- 口腔機能の低下リスク該当状況別に噛み合わせをみると、リスク該当者は非該当者と比べて噛み合わせが良くない人の割合が高くなっています。



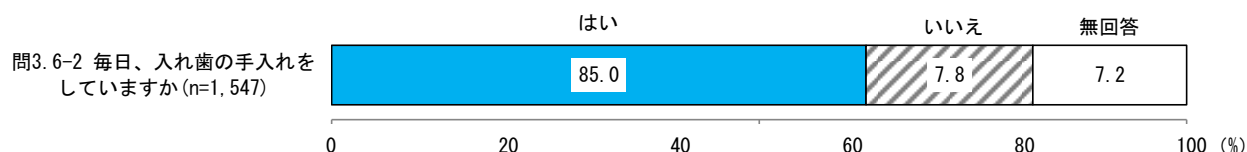
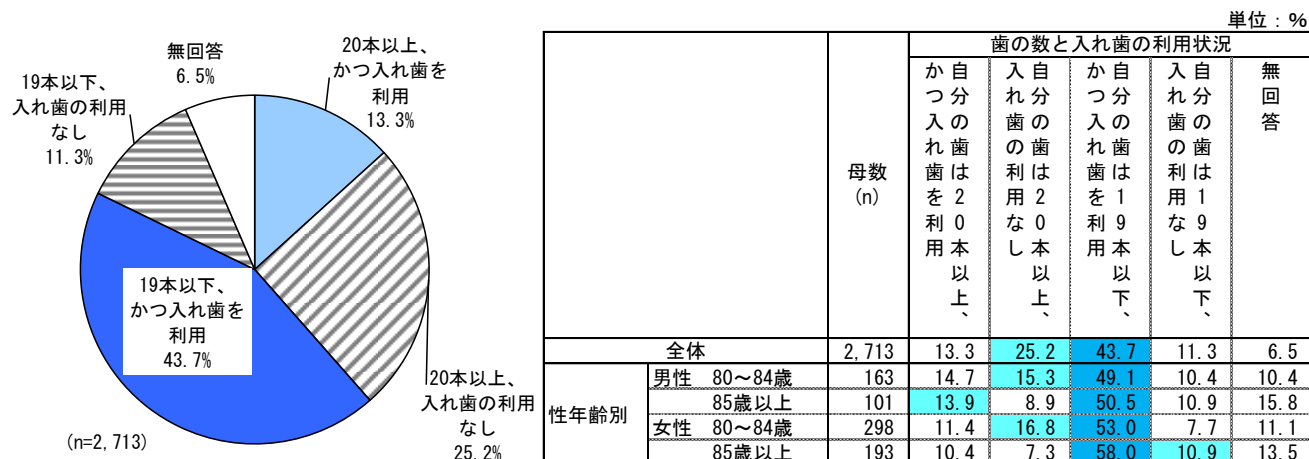
【口腔機能の低下リスク該当状況別：(※1)噛み合わせが良いか】



(※1) 問3.6 歯の数と入れ歯の利用状況の無回答者を除く

- 歯の数と入れ歯の状況について、「20 本以上・入れ歯あり」と「19 本以下・入れ歯あり」を合わせた“入れ歯あり”の人は 57.0%となっています。
- 80～84 歳の男女に限ると、男性 15.3%、女性 16.8%が“20 本以上自分の歯がある”と回答しています。
- “入れ歯あり”の人のうち、85.0%の人が毎日手入れをしています。

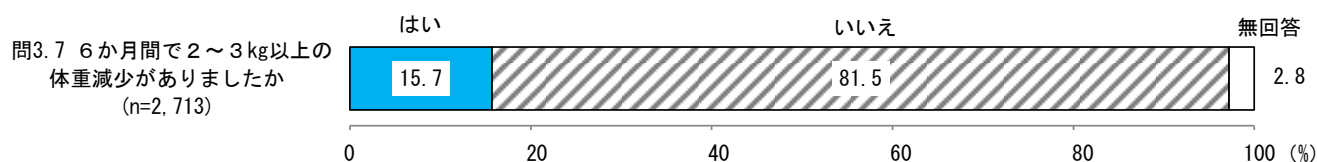
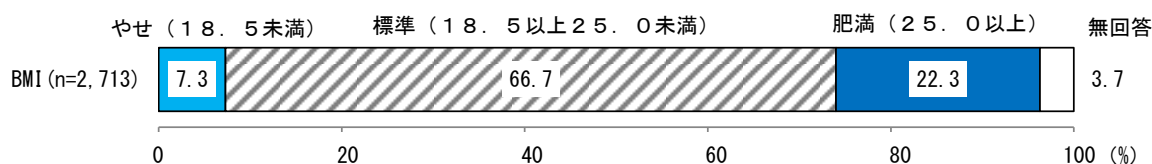
【歯の数と入れ歯の利用状況】



(2) 栄養

① 体重の状況

- 体重(kg) ÷ {身長(m) × 身長(m)} から算出される BMI が「18.5 未満」の人は 7.3%と、1 割弱の人が“やせ”と判定されています。
- 「6 か月間で 2～3 kg 以上の体重減少があった」人は 15.7%となっています。



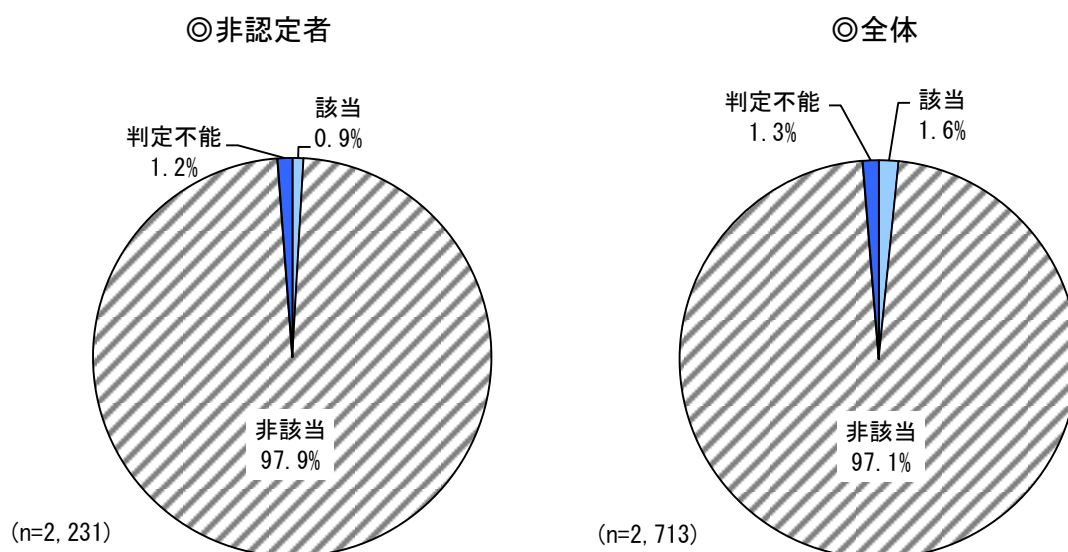
◆ 低栄養のリスクの判定

調査票の低栄養に関する問 3.1、3.7 について、2 問中 2 問該当した人を、低栄養のリスクがあると判定しました。

問3.1 BMI：体重（kg）÷ {身長（m）×身長（m）}	18.5 未満
問3.7 6 か月間で 2～3kg 以上の体重減少がありましたか	「1. はい」

- 低栄養のリスクがあると判定された人は非認定者では 0.9%、全体では 1.6%となっています。
- 認定・該当状況別にみると、旧二次予防事業対象者の中で、リスク該当者の割合は 3.0%となっています。

【低栄養のリスク】



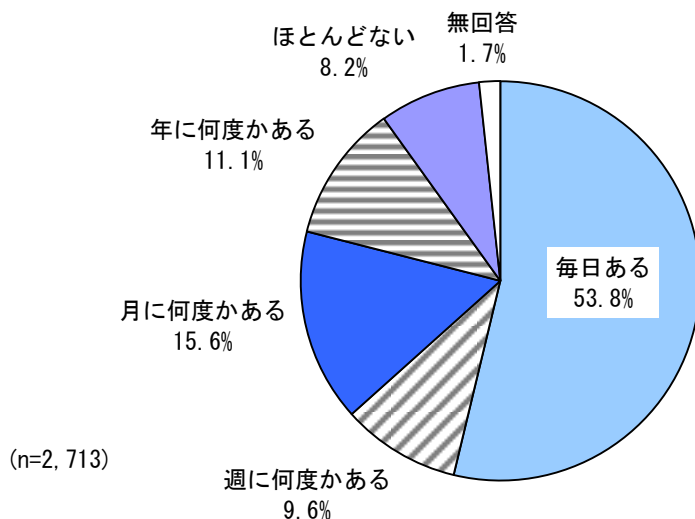
単位：％

		母数 (n)	低栄養のリスク (非認定者のみ)			母数 (n)	低栄養のリスク		
			該当	非該当	判定不能		該当	非該当	判定不能
全体		2,231	0.9	97.9	1.2	2,713	1.6	97.1	1.3
性年齢別	男性 前期高齢者	551	0.2	99.5	0.4	583	0.5	99.0	0.5
	後期高齢者	399	1.8	96.7	1.5	497	3.4	94.6	2.0
	女性 前期高齢者	645	0.6	98.6	0.8	708	0.8	98.3	0.8
	後期高齢者	628	1.4	96.3	2.2	917	1.9	96.3	1.9
圏域	都市中核	590	1.5	97.5	1.0	727	1.8	97.1	1.1
	岸和田北部	460	0.9	97.0	2.2	560	2.5	94.8	2.7
	葛城の谷	361	0.3	99.2	0.6	436	0.2	99.3	0.5
	岸和田中部	209	1.4	98.1	0.5	249	1.2	98.0	0.8
	久米田	285	1.1	97.9	1.1	347	1.4	97.4	1.2
	牛滝の谷	318	0.3	98.1	1.6	386	1.8	96.9	1.3
認定・該当状況	一般高齢者	1,520	—	98.5	1.5	1,520	—	98.5	1.5
	旧二次予防事業対象者	711	3.0	96.5	0.6	711	3.0	96.5	0.6
	要支援 1・2	—	—	—	—	482	4.6	93.6	1.9

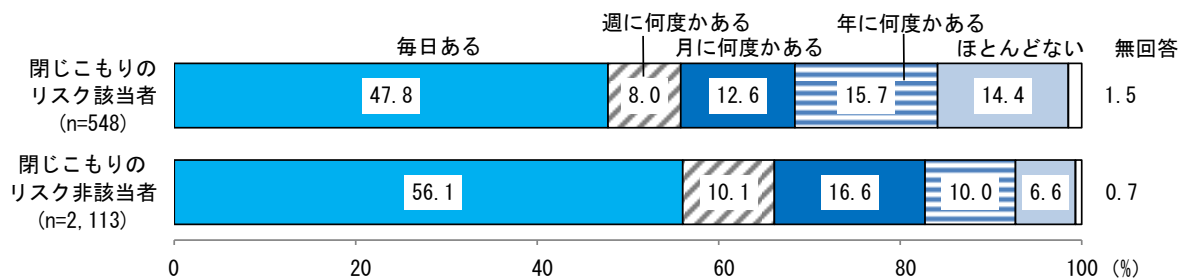
② 孤食の状況

- 誰かと食事をとる機会について、「毎日ある」人が53.8%と半数以上を占めていますが、一方で44.5%の人が孤食の時があると回答しています。
- 誰かと食事をとる機会の有無を、閉じこもりのリスク該当状況別にみると、閉じこもりのリスク該当者では、「毎日誰かと食事をとっている」以外の人を合わせた“孤食あり”の人の割合が50.7%となっています。
- 家族構成別にみると、一人暮らしでは「ほとんどない」人が18.5%と、同居者がいる人と比べて、誰かと食事をとる機会が少ない傾向がみられます。

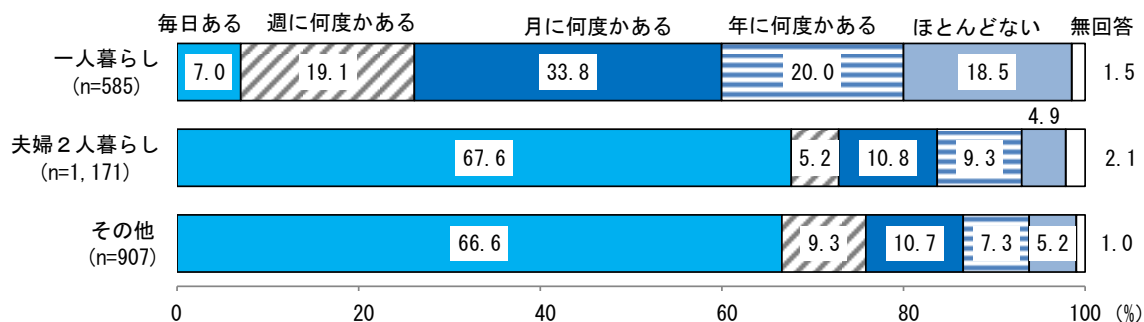
【誰かと食事をとる機会】



【閉じこもりのリスク該当状況別：誰かと食事をとる機会】



【家族構成別：誰かと食事をとる機会】

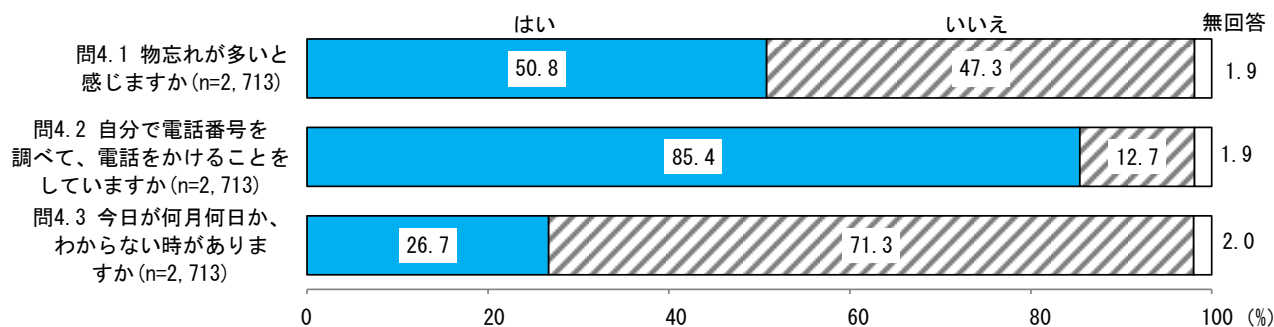


6. 日常生活について

(1) 物忘れ

① 物忘れの状況

- 「物忘れが多いと感じる」人は 50.8%となっています。
- 「自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしている」人は 85.4%と多数を占めています。
- 「今日が何月何日かわからない時がある」人は 26.7%となっています。



◆ 認知機能の低下リスクの判定

調査票の認知機能に関する問 4.1 について、以下のように該当した人を、認知機能が低下していると判定しました。

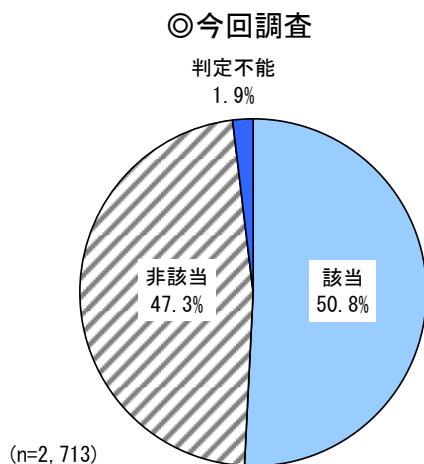
問4.1 物忘れが多いと感じますか	「1. はい」
-------------------	---------

(参考) 前回調査の判定項目 (判定項目が異なります)・・・問4.1～4.3のうちいずれかに該当

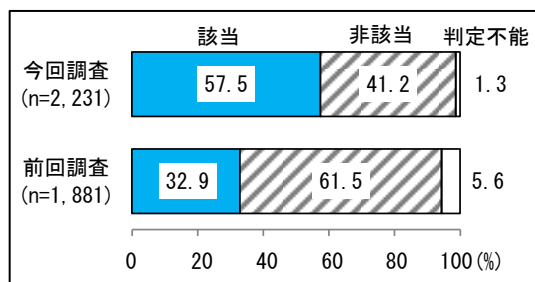
問4.1 物忘れが多いと感じますか (前回調査時：周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあるとされますか)	「1. はい」
問4.2 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」
問4.3 今日が何月何日か、わからない時がありますか	「1. はい」

- 問4.1 を用いて、認知機能が低下していると判定された人は 50.8%となっています。
- 問4.2、4.3 を追加して前回調査と同等の判定項目 (一部変更あり、非認定者のみ) で算出した場合、前回調査と比べると、全体として該当者の割合が高くなっています。

【認知機能の低下リスク】

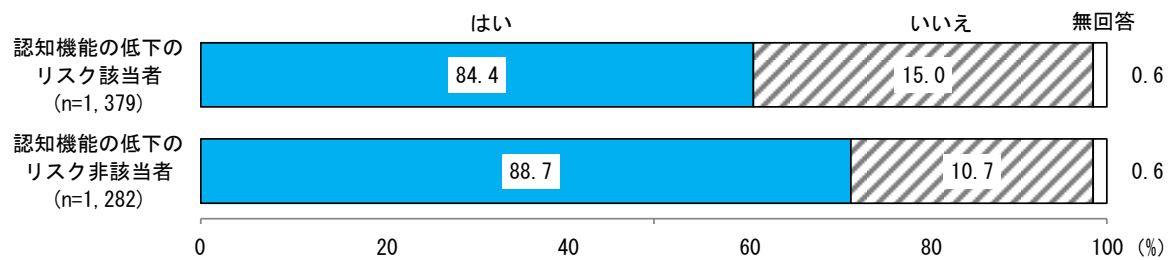


◎前回調査と同等の判定項目で算出した場合

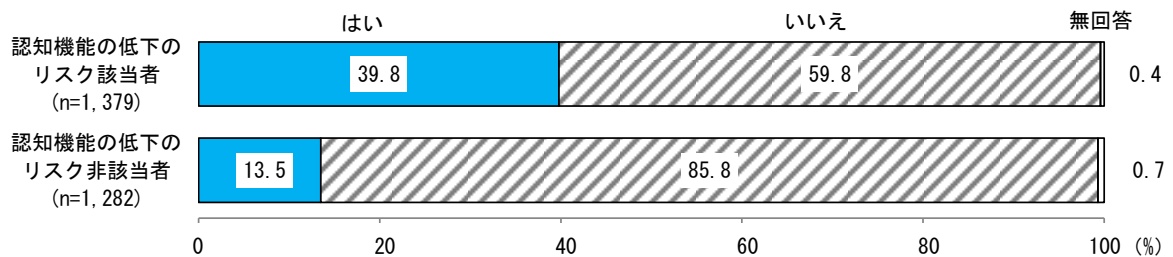


- 認知機能の低下リスクの該当状況別にみると、リスク該当者で「自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていない」人は13.5%、「今日が何月何日かわからない時がある」人は39.8%となっています。
- 性年齢別にみると、男女共に後期高齢者でリスク該当者の割合が非該当者を上回っており、半数を超えています。
- 圏域別にみると、牛滝の谷でリスク該当者の割合が最も高くなっています。
- 認定・該当状況別にみると、一般高齢者が4割未満であるのに対して、旧二次予防事業対象者では、要支援1・2の人を上回り、約7割に認知機能の低下がみられます。

【認知機能の低下リスク該当状況別：自分で電話番号を調べて電話をかけているか】
(今回調査の判定方法で算出)



【認知機能の低下リスク該当状況別：今日が何月何日かわからない時があるか】
(今回調査の判定方法で算出)



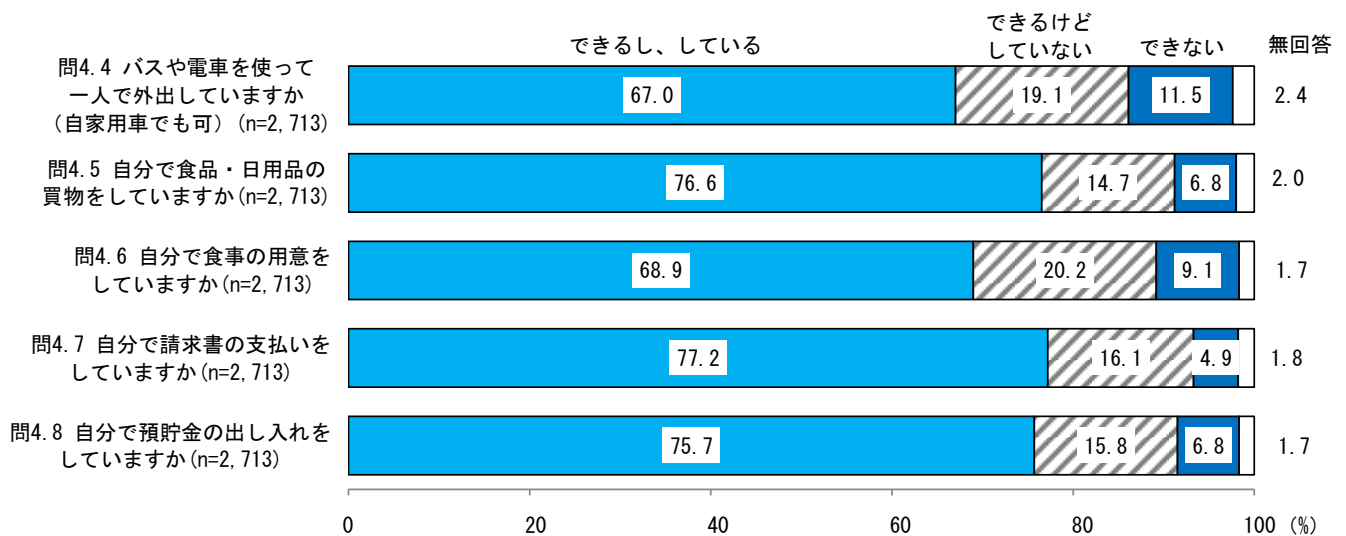
単位：％

		母数 (n)	認知機能の低下リスク		
			該 当	非 該 当	判 定 不 能
全体		2,713	50.8	47.3	1.9
性年齢別	男性 前期高齢者	583	40.0	58.3	1.7
	後期高齢者	497	56.1	40.6	3.2
	女性 前期高齢者	708	44.8	53.8	1.4
	後期高齢者	917	59.7	38.6	1.7
圏域	都市中核	727	52.4	45.1	2.5
	岸和田北部	560	50.5	48.0	1.4
	葛城の谷	436	49.3	49.1	1.6
	岸和田中部	249	48.6	50.2	1.2
	久米田	347	46.7	50.7	2.6
	牛滝の谷	386	55.4	42.7	1.8
	認定・該当状況	1,520	37.5	60.6	1.9
旧二次予防事業対象者	711	68.4	29.7	2.0	
要支援1・2	482	67.0	31.1	1.9	

(2) IADL の状況

IADL（手段的日常生活動作）とは、ADL（日常生活動作：日常生活を営む上で、普通におこなっている食事や排せつなどの行為・行動）より複雑で高次の動作のことで、高齢者の生活自立度を評価するための指標です。

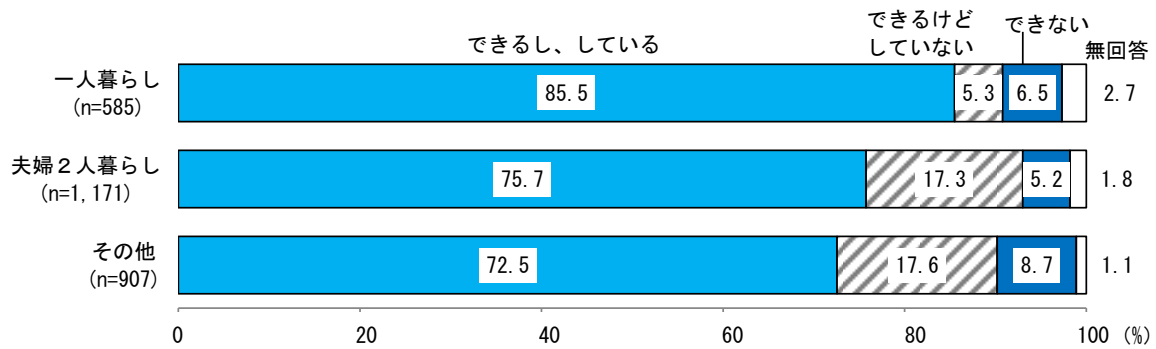
- 各設問について、約6～7割の人が、「できるし、している」と回答しています。
- 「問4.5 自分で食品・日用品の買物をしていますか」について、性年齢別にみると、女性の後期高齢者で「できない」人の割合が高く、12.2%となっています。また、旧二次予防事業対象者で7.9%、要支援1・2の人で24.3%、一人暮らしで6.5%となっています。



単位：%

		母数 (n)	食品・日用品の買物			
			しで て き る し、	しで て き る な け いど	で き な い	無 回 答
全体		2,713	76.6	14.7	6.8	2.0
性年齢別	男性 前期高齢者	583	70.0	26.4	1.9	1.7
	後期高齢者	497	64.4	22.7	9.7	3.2
	女性 前期高齢者	708	93.1	3.7	1.7	1.6
	後期高齢者	917	74.6	11.5	12.2	1.7
圏域	都市中核	727	74.3	14.9	8.5	2.3
	岸和田北部	560	77.5	13.9	6.8	1.8
	葛城の谷	436	78.2	14.0	6.0	1.8
	岸和田中部	249	79.1	13.7	5.2	2.0
	久米田	347	78.1	15.3	4.6	2.0
	牛滝の谷	386	74.6	16.6	7.3	1.6
認定・該当状況	一般高齢者	1,520	84.3	13.6	0.7	1.3
	旧二次予防事業対象者	711	73.6	16.5	7.9	2.1
	要支援1・2	482	56.4	15.6	24.3	3.7

【家族構成別：自分で食品・日用品の買物をしているか】



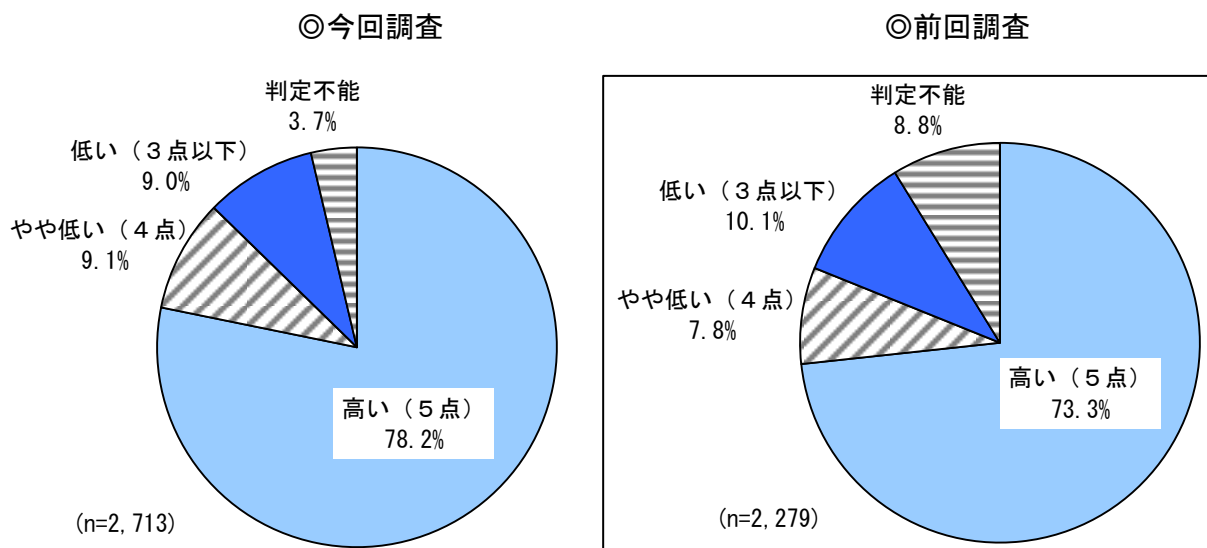
◆ IADL の低下リスクの判定

調査票のIADLに関する問4.4～4.8について、それぞれ以下に該当した“できる”人に1点を配点し、5問の合計が5点の人をIADLが“高い”、4点の人を“やや低い”、3点以下の人を“低い”と判定しました。

問4.4 バスや電車を使って一人で外出していますか (自家用車でも可)	「1. できるし、している」または 「2. できるけどしていない」
問4.5 自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問4.6 自分で食事の用意をしていますか	
問4.7 自分で請求書の支払いをしていますか	
問4.8 自分で預貯金のおし入れをしていますか	

- IADL が「低い」人は、9.0%となっています。
- 前回調査と比べると、全体として「やや低い」と「低い」を合わせた“低い”人の割合は若干高くなっています。

【IADL の低下リスク】



- 性年齢別にみると、女性では男性に比べて IADL が“高い”人の割合が多くなっています。
- 圏域別にみると、牛滝の谷が他の圏域に比べて“低い”人の割合が高くなっています。
- 認定・該当状況別にみると、要支援１・２の人では、IADL が“低い”人の割合が４割以上を占めています。

単位：％

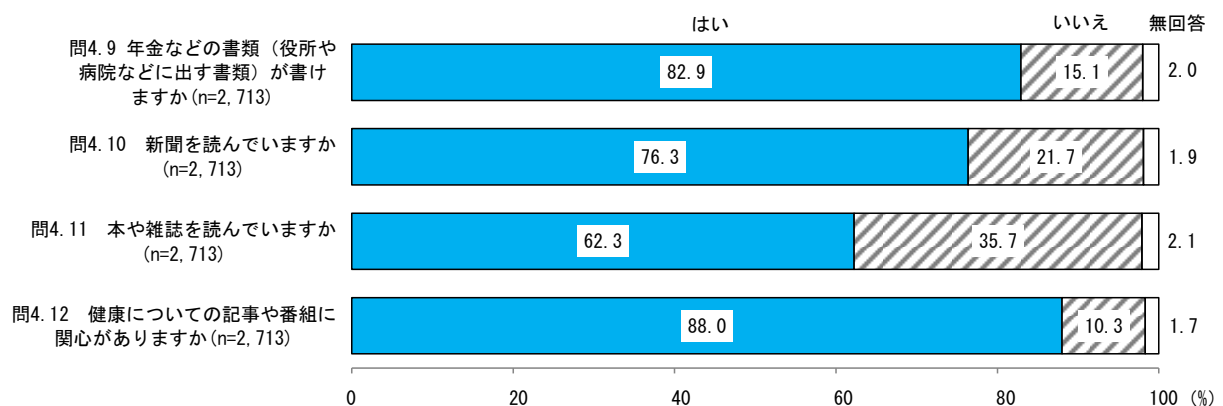
		母数 (n)	IADL				低い (再掲) 合計
			(高い ５点)	(やや 低い ４点)	(低い ３点 以下)	判定 不能	
全体		2,713	78.2	9.1	9.0	3.7	18.1
性年齢別	男性 前期高齢者	583	82.7	9.9	5.0	2.4	14.9
	後期高齢者	497	67.2	13.5	14.1	5.2	27.6
	女性 前期高齢者	708	92.9	3.0	2.0	2.1	5.0
	後期高齢者	917	70.0	11.0	14.1	4.9	25.1
圏域	都市中核	727	76.1	9.1	10.2	4.7	19.3
	岸和田北部	560	77.0	10.4	8.9	3.8	19.3
	葛城の谷	436	80.0	6.7	9.9	3.4	16.6
	岸和田中部	249	83.9	6.4	6.8	2.8	13.2
	久米田	347	80.4	9.8	6.6	3.2	16.4
	牛滝の谷	386	76.4	11.4	9.1	3.1	20.5
認定・該当状況	一般高齢者	1,520	90.5	5.3	1.8	2.4	7.1
	旧二次予防事業対象者	711	73.8	10.7	10.8	4.6	21.5
	要支援１・２	482	46.1	18.9	28.6	6.4	47.5

(3) 社会との関わり

① 知的能動性の状況

知的能動性とは、自ら情報を探索・収集し、それらの幅広い情報の蓄積によって生活の中に余暇活動を創り出す能力のことです。

- 各設問について、約６～８割の人が「はい」と回答しています。
- 「問４.１１ 本や雑誌を読んでいますか」で「いいえ」の割合が４問中で最も高く、３割以上となっています。



◆ 知的能動性の低下

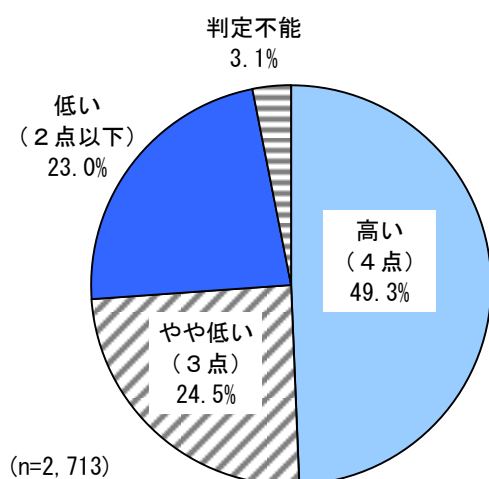
調査票の知的能動性に関する問 4.9～4.12 について、それぞれ以下に該当した“している”人に 1 点を配点し、4 問の合計が 4 点の人を知的能動性が“高い”、3 点の人を“やや低い”、2 点以下の人を“低い”と判定しました。

問 4. 9	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	「1. はい」
問 4.10	新聞を読んでいますか	
問 4.11	本や雑誌を読んでいますか	
問 4.12	健康についての記事や番組に関心がありますか	

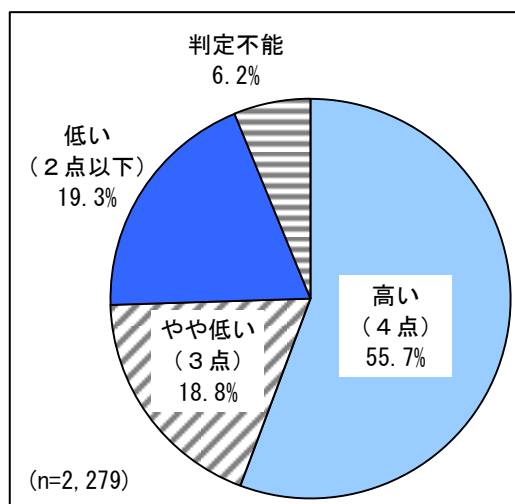
- 知的能動性が「低い」人は 23.0%となっています。
- 圏域別にみると、岸和田北部では「やや低い」と「低い」を合わせた“低い”人の割合が半数を占めています。
- 認定・該当状況別にみると、要支援 1・2 の人では“低い”人の割合が 7 割弱を占めています。
- 前回調査と比べると、全体として「低い」人の割合は高くなっています。

【知的能動性】

◎今回調査



◎前回調査



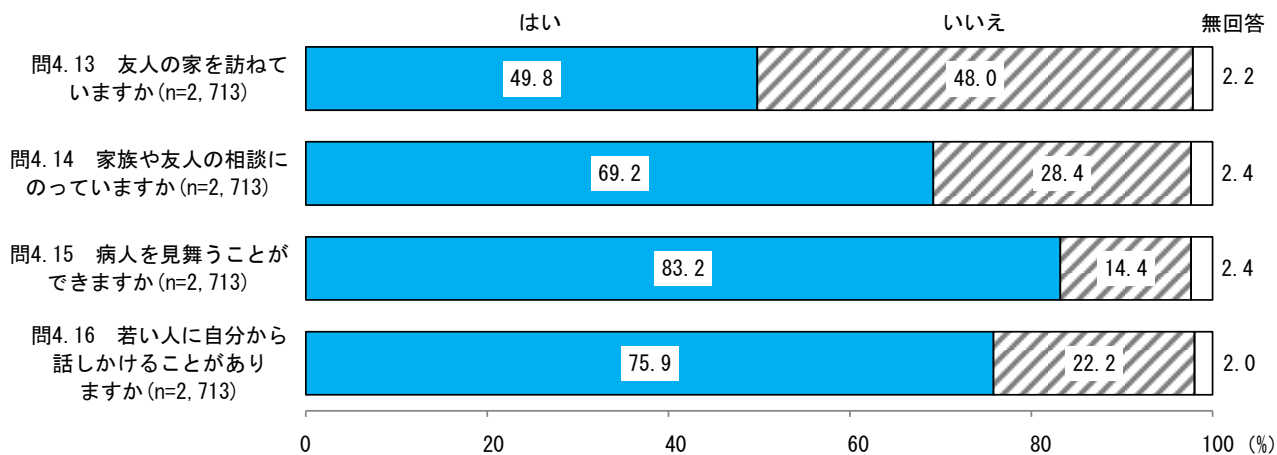
		母数 (n)	知的能動性				低い (再掲) 合計
			(高い 4点)	(やや低い 3点)	(低い 2点以下)	判定不能	
全体		2, 713	49.3	24.5	23.0	3.1	47.5
性年齢別	男性 前期高齢者	583	53.2	25.9	18.9	2.1	44.8
	後期高齢者	497	45.5	26.8	23.7	4.0	50.5
	女性 前期高齢者	708	55.4	24.0	17.9	2.7	41.9
	後期高齢者	917	44.3	22.9	29.2	3.6	52.1
圏域	都市中核	727	46.8	25.7	24.1	3.4	49.8
	岸和田北部	560	46.1	24.6	25.5	3.8	50.1
	葛城の谷	436	48.6	25.5	23.2	2.8	48.7
	岸和田中部	249	57.0	20.5	20.1	2.4	40.6
	久米田	347	49.6	25.1	22.2	3.2	47.3
	牛滝の谷	386	54.4	23.3	19.9	2.3	43.2
認定・該当状況	一般高齢者	1, 520	61.2	22.6	13.7	2.6	36.3
	旧二次予防事業対象者	711	38.3	28.4	29.3	4.1	57.7
	要支援 1・2	482	28.2	25.1	43.4	3.3	68.5

単位：%

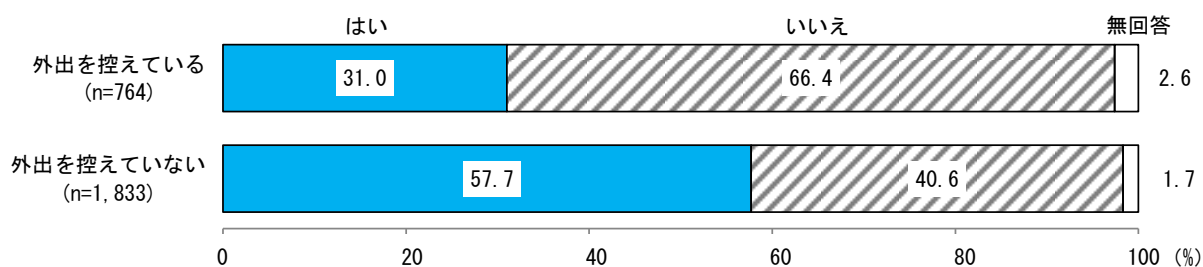
② 社会的役割の状況

社会的役割とは、利他的行動のことです。

- 「家族や友人の相談にのっている」人は 69.2%、「病人を見舞うことができる」人は 83.2%、「若い人に自分から話しかけることがある」人は 75.9%、と行っている人の割合が高くなっていますが、「友人の家を訪ねている」人は 49.8%と約半数に留まっています。
- 友人の家を訪ねているかを、外出を控えている状況別にみると、外出を控えている人のうち友人の家を訪ねていないと回答した人は 66.4%と割合が高くなっています。



【外出を控えている状況別：友人の家を訪ねているか】



◆ 社会的役割の低下

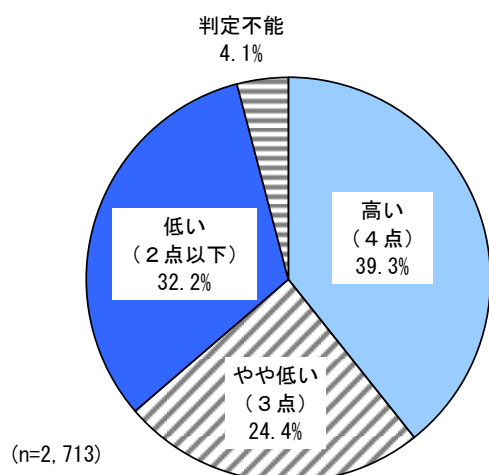
調査票の社会的役割に関する問 4.13～4.16 について、それぞれに該当した“している”人に 1 点を配点し、4 問の合計が 4 点の人を社会的役割が“高い”、3 点の人を“やや低い”、2 点以下の人を“低い”と判定しました。

問 4.13 友人の家を訪ねていますか	「1. はい」
問 4.14 家族や友人の相談にのっていますか	
問 4.15 病人を見舞うことができますか	
問 4.16 若い人に自分から話しかけることがありますか	

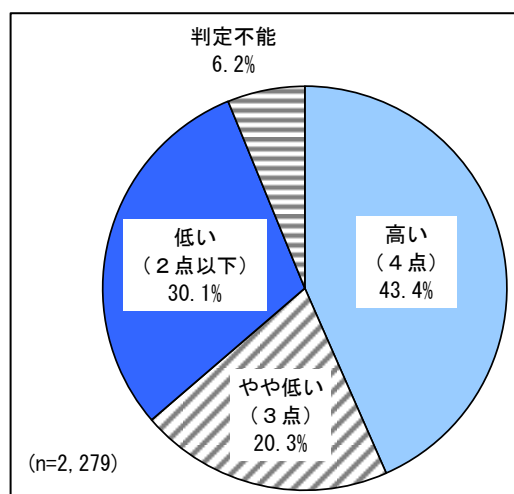
- 社会的役割が「低い」人は 32.2%となっています。
- 性年齢別にみると、女性の前期高齢者では「高い」人が半数を超えています。
- 前回調査と比べると、全体として「やや低い」と「低い」を合わせた“低い”人の割合は高くなっています。
- 圏域別にみると、岸和田北部で“低い”人の割合が高くなっています。
- 認定・該当状況別にみると、旧二次予防事業対象者では「低い」、「やや低い」を合わせると 63.1%となり、3 人に 2 人は社会的役割が“低い”と判定されています。

【社会的役割】

◎今回調査



◎前回調査



単位：％

		母数 (n)	社会的役割				低い（再掲） の合計
			（高い 4点）	（やや低い 3点）	（低い 2点以下）	判定不能	
全体		2, 713	39. 3	24. 4	32. 2	4. 1	56. 6
性年齢別	男性 前期高齢者	583	36. 2	27. 3	33. 4	3. 1	60. 7
	後期高齢者	497	27. 8	26. 4	40. 6	5. 2	67. 0
	女性 前期高齢者	708	52. 4	25. 0	19. 8	2. 8	44. 8
	後期高齢者	917	37. 4	21. 2	36. 3	5. 1	57. 5
圏域	都市中核	727	38. 5	24. 3	32. 6	4. 5	56. 9
	岸和田北部	560	35. 4	24. 5	36. 1	4. 1	60. 6
	葛城の谷	436	36. 9	28. 2	30. 0	4. 8	58. 2
	岸和田中部	249	40. 6	25. 3	30. 9	3. 2	56. 2
	久米田	347	41. 2	23. 3	32. 3	3. 2	55. 6
	牛滝の谷	386	46. 6	20. 7	28. 8	3. 9	49. 5
認定・該当状況	一般高齢者	1, 520	50. 2	25. 7	20. 8	3. 3	46. 5
	旧二次予防事業対象者	711	31. 2	24. 3	38. 8	5. 6	63. 1
	要支援１・２	482	17. 0	20. 3	58. 3	4. 4	78. 6

単位：%

(4) 生活機能全般について

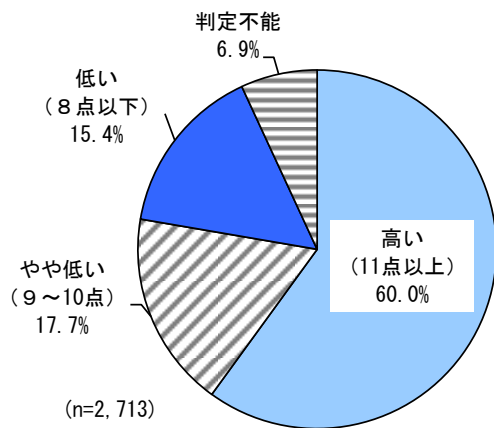
◆ 生活機能

IADL、知的能動性、社会的役割を合わせた老研式活動能力指標 13 項目は、13 点満点で生活機能を評価し、11 点以上の人を生活機能が“高い”、9・10 点の人を“やや低い”、8 点以下を“低い”と判定しました。

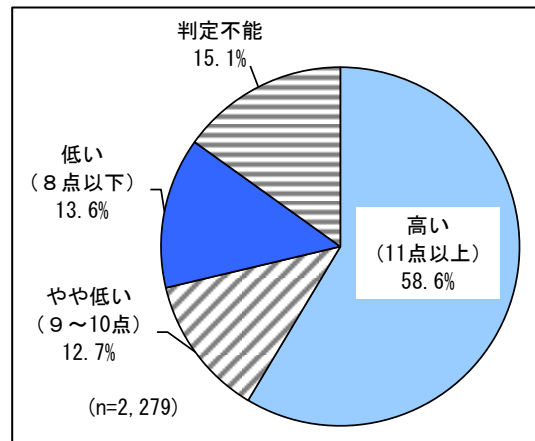
- 生活機能が「低い」人は全体の 15.4%となっています。
- 前回調査と比べると、全体として「やや低い」と「低い」を合わせた“低い”人の割合は高くなっています。
- 性年齢別にみると、女性の前期高齢者では「高い」人の割合が 73.2%と最も高いですが、後期高齢者ではその割合が大きく下がり、「低い」人が 21.8%となっています。
- 圏域別にみると、都市中核、岸和田北部は他の圏域に比べて「低い」人の割合が高くなっています。
- 認定・該当状況別にみると、要支援 1・2 の人では、生活機能が“低い”人の割合が 6 割以上を占めており、一般高齢者、旧二次予防事業対象者とは大きな差がみられます。

【生活機能】

◎今回調査



◎前回調査



		母数 (n)	生活機能				低い（再掲） の合計
			（高い 11点以上）	（やや低い 9.510点）	（低い 8点以下）	判定不能	
全体		2,713	60.0	17.7	15.4	6.9	33.1
性年齢別	男性 前期高齢者	583	63.6	20.1	12.2	4.1	32.3
	後期高齢者	497	50.9	20.7	20.5	7.8	41.2
	女性 前期高齢者	708	73.2	16.1	6.2	4.5	22.3
	後期高齢者	917	52.5	15.8	21.8	9.9	37.6
圏域	都市中核	727	57.4	18.7	16.4	7.6	35.1
	岸和田北部	560	55.9	18.9	17.7	7.5	36.6
	葛城の谷	436	60.6	17.0	15.8	6.7	32.8
	岸和田中部	249	68.7	11.6	14.1	5.6	25.7
	久米田	347	60.5	20.5	13.0	6.1	33.5
	牛滝の谷	386	64.2	16.3	13.0	6.5	29.3
認定・該当状況	一般高齢者	1,520	74.2	16.3	4.6	4.9	20.9
	旧二次予防事業対象者	711	51.8	19.1	19.8	9.3	38.9
	要支援 1・2	482	27.4	19.9	42.9	9.8	62.8

単位：%

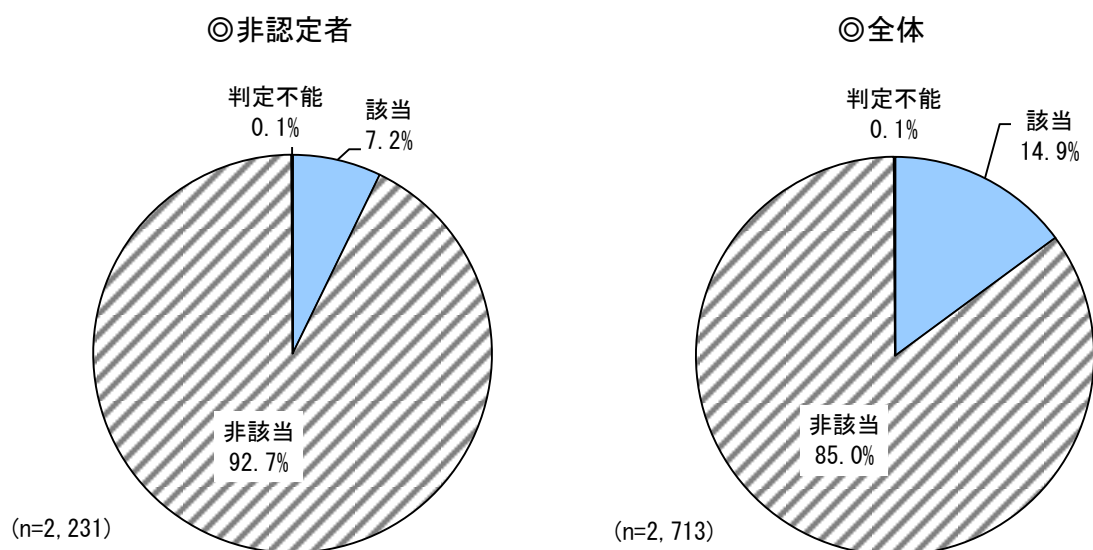
◆ 虚弱のリスクの判定

調査票の設問において以下の20問中10問該当した人を、虚弱のリスクがあると判定しました。

問2.1 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」
問2.2 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	
問2.3 15分位続けて歩いていますか	
問2.4 過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」または「2. 1度ある」
問2.5 転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」または「2. やや不安である」
問2.6 週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」
問2.7 昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1. とても減っている」または「2. 減っている」
問3.1 BMI: 体重(kg) ÷ {身長(m) × 身長(m)}	18.5 未満
問3.7 6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」
問3.2 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	
問3.3 お茶や汁物等でむせることがありますか	
問3.4 口の渇きが気になりますか	
問4.1 物忘れが多いと感じますか (前回調査時: 周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあると言われますか)	「2. いいえ」
問4.2 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	
問4.3 今日が何月何日か、わからない時がありますか	
問4.4 バスや電車を使って一人で外出していますか(自家用車でも可)	「3. できない」
問4.5 自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問4.8 自分で預貯金の出し入れをしていますか	
問4.13 友人の家を訪ねていますか	「2. いいえ」
問4.14 家族や友人の相談にのっていますか	

- 虚弱のリスクがあると判定された人は非認定者では 7.2%、全体では 14.9%となっています。
- 認定・該当状況別にみると、旧二次予防事業対象者のリスク該当者は 2 割以上を占めています。

【虚弱のリスク】



単位：％

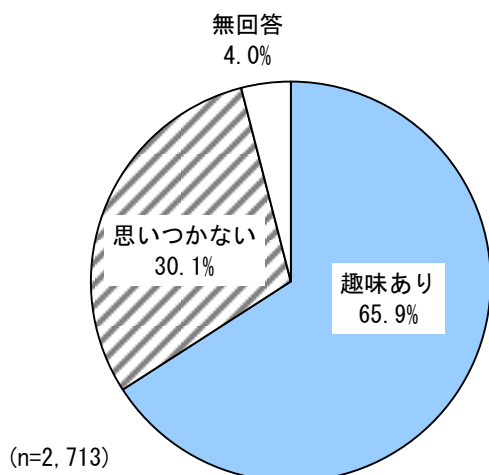
		母数 (n)	虚弱のリスク (非認定者のみ)			母数 (n)	虚弱のリスク		
			該当	非該当	判定不能		該当	非該当	判定不能
全体		2, 231	7. 2	92. 7	0. 1	2, 713	14. 9	85. 0	0. 1
性年齢別	男性 前期高齢者	551	2. 5	97. 5	－	583	5. 5	94. 5	－
	後期高齢者	399	11. 0	89. 0	－	497	17. 7	82. 1	0. 2
	女性 前期高齢者	645	2. 5	97. 4	0. 2	708	5. 6	94. 2	0. 1
	後期高齢者	628	13. 4	86. 5	0. 2	917	26. 5	73. 4	0. 1
圏域	都市中核	590	8. 0	91. 9	0. 2	727	16. 9	82. 9	0. 1
	岸和田北部	460	8. 9	90. 9	0. 2	560	15. 7	83. 9	0. 4
	葛城の谷	361	5. 8	94. 2	－	436	13. 5	86. 5	－
	岸和田中部	209	6. 2	93. 8	－	249	13. 7	86. 3	－
	久米田	285	5. 3	94. 7	－	347	12. 4	87. 6	－
	牛滝の谷	318	6. 6	93. 4	－	386	14. 5	85. 5	－
認定・該当状況	一般高齢者	1, 520	－	99. 9	0. 1	1, 520	－	99. 9	0. 1
	旧二次予防事業対象者	711	22. 5	77. 5	－	711	22. 5	77. 5	－
	要支援 1・2	－	－	－	－	482	50. 8	49. 0	0. 2

(5) 趣味・生きがいについて

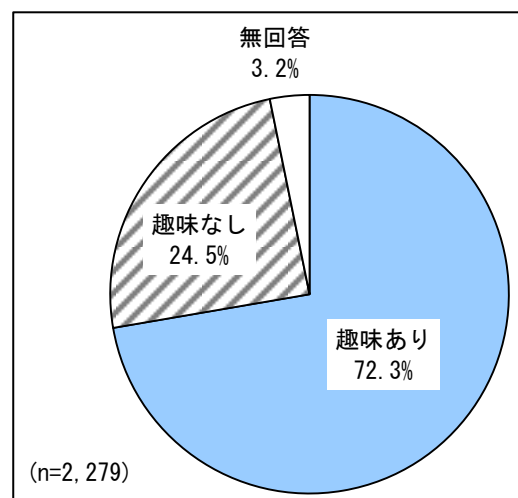
- 趣味について、「ある」と答えた人は 65.9%となっています。
- 前回調査と比べると、全体として「趣味あり」の割合が減少しています。
- 認定・該当状況別にみると、趣味が「思いつかない」人は、旧二次予防事業対象者では 36.4%、要介護 1・2 の人では 42.7%となっています。

【趣味の有無】

◎今回調査



◎前回調査

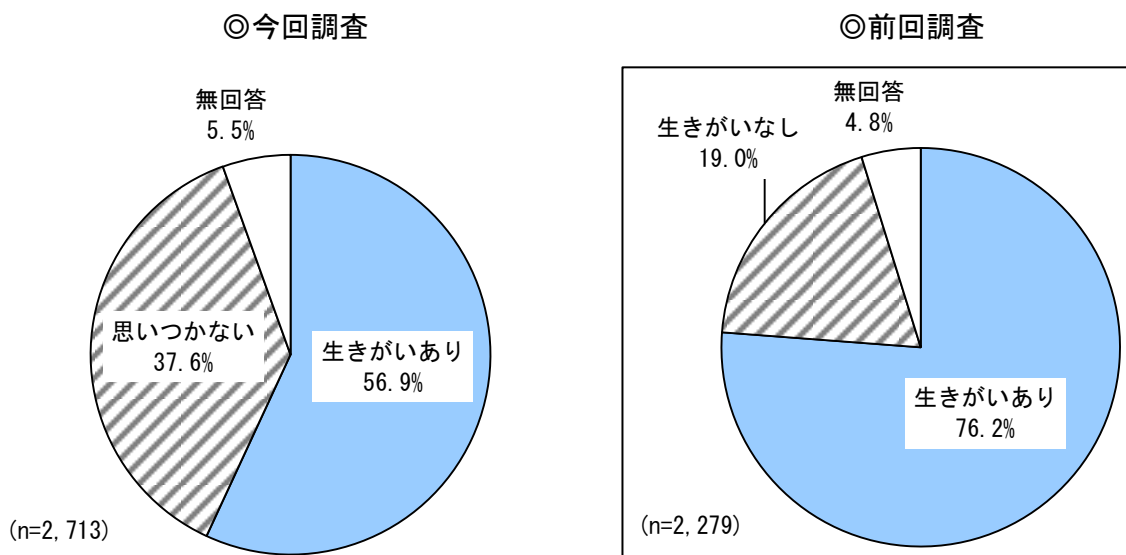


単位：%

		母数 (n)	趣味の有無		
			趣味あり	思いつかない	無回答
全体		2,713	65.9	30.1	4.0
性年齢別	男性 前期高齢者	583	69.0	28.3	2.7
	後期高齢者	497	64.8	30.2	5.0
	女性 前期高齢者	708	70.5	27.1	2.4
	後期高齢者	917	60.9	33.6	5.6
圏域	都市中核	727	66.0	29.4	4.5
	岸和田北部	560	61.4	33.9	4.6
	葛城の谷	436	70.2	26.8	3.0
	岸和田中部	249	65.5	31.3	3.2
	久米田	347	65.1	31.1	3.7
	牛滝の谷	386	67.9	28.0	4.1
認定・該当状況	一般高齢者	1,520	73.5	23.1	3.4
	旧二次予防事業対象者	711	58.8	36.4	4.8
	要支援 1・2	482	52.5	42.7	4.8

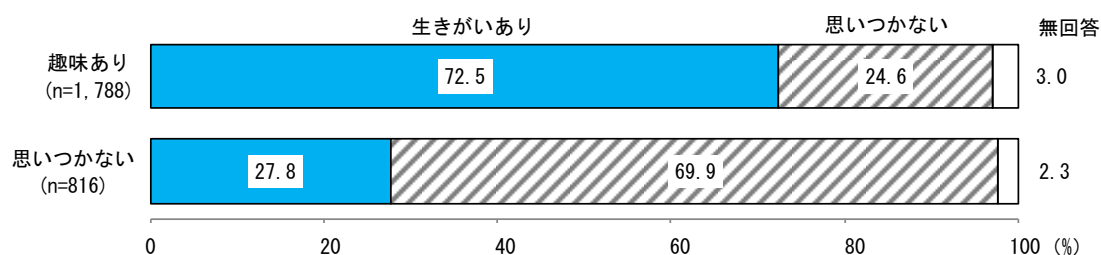
- 生きがいについて、「ある」と答えた人は全体の 56.9%となっています。
- 前回調査と比べると、全体として「生きがいあり」と回答した人の割合が減少しています。
- 認定・該当状況別にみると、要支援 1・2 の人では、生きがいが「思いつかない」人の割合が高く半数以上を占めています。
- 趣味の有無別に生きがいの有無をみると、趣味がある人は生きがいがあり、趣味がない人は生きがいが思いつかない傾向がみられます。

【生きがいの有無】



			母数 (n)	生きがいの有無		
				生きがいあり	思いつかない	無回答
全体			2, 713	56. 9	37. 6	5. 5
性年齢別	男性	前期高齢者	583	57. 5	39. 1	3. 4
		後期高齢者	497	51. 3	41. 4	7. 2
	女性	前期高齢者	708	65. 8	30. 4	3. 8
		後期高齢者	917	52. 8	40. 0	7. 2
圏域		都市中核	727	56. 4	37. 1	6. 5
		岸和田北部	560	52. 7	40. 7	6. 6
		葛城の谷	436	57. 8	36. 5	5. 7
		岸和田中部	249	58. 6	36. 5	4. 8
		久米田	347	61. 4	35. 4	3. 2
		牛滝の谷	386	58. 0	37. 6	4. 4
		一般高齢者	1, 520	64. 7	30. 5	4. 7
認定・該当状況		旧二次予防事業対象者	711	50. 1	43. 2	6. 8
		要支援 1・2	482	42. 5	51. 5	6. 0

【趣味の有無別：生きがいの有無】



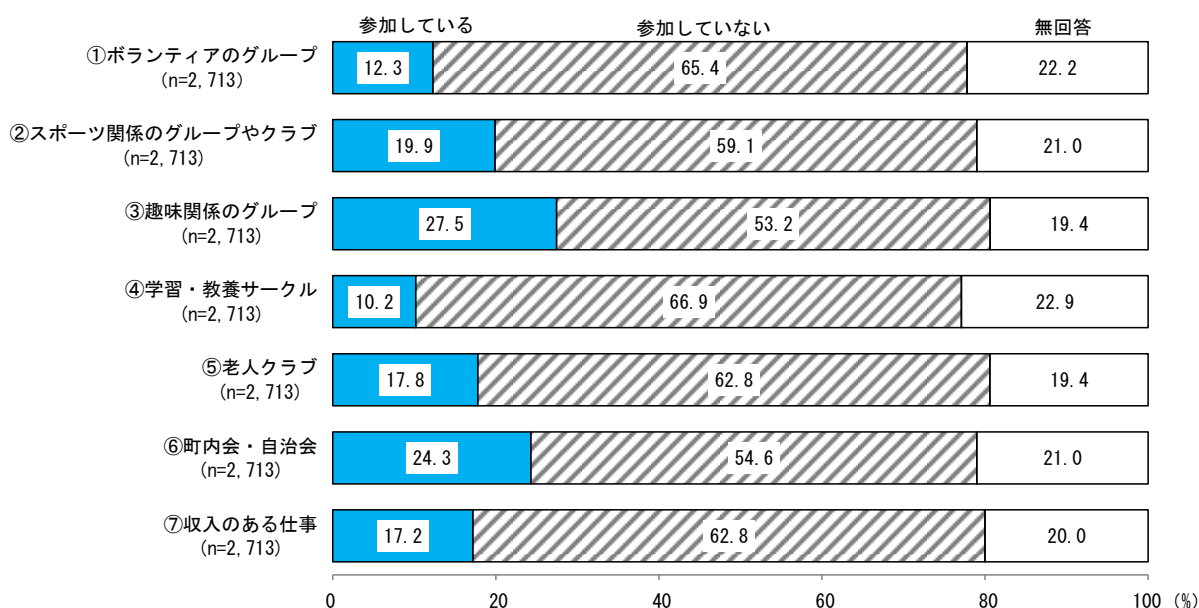
7. 社会参加について

(1) 地域との関わり

① 地域活動への参加の状況

- 地域活動への参加の状況について、「年に数回」以上と回答した“参加している”人の割合が最も高かったのは「趣味関係のグループ」で27.5%となっています。
- 全体として、地域活動に参加している人の割合は低くなっていますが、それぞれ参加している人の参加頻度をみると、「趣味関係のグループ」、「学習・教養サークル」には月1～3回、「スポーツ関係のグループやクラブ」には週2～3回、「ボランティアのグループ」、「老人クラブ」、「町内会・自治会」には年に数回、「収入のある仕事」には週4回以上参加している人が多くなっています。

【地域での活動への参加状況】



単位：%

	母数 (n)	週 4 回 以上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	参 加 し て い な い	無 回 答	参 加 再 掲 し て い る
①ボランティアのグループ	2,713	0.8	1.9	1.7	3.8	4.1	65.4	22.2	12.3
②スポーツ関係のグループやクラブ	2,713	3.5	6.0	5.5	3.0	1.9	59.1	21.0	19.9
③趣味関係のグループ	2,713	1.4	5.7	6.4	9.8	4.2	53.2	19.4	27.5
④学習・教養サークル	2,713	0.2	0.9	2.4	3.9	2.8	66.9	22.9	10.2
⑤老人クラブ	2,713	0.6	1.7	2.1	4.7	8.7	62.8	19.4	17.8
⑥町内会・自治会	2,713	0.2	0.8	1.1	5.2	17.0	54.6	21.0	24.3
⑦収入のある仕事	2,713	9.7	4.4	0.8	0.9	1.4	62.8	20.0	17.2

○ 圏域別にみると、いずれの圏域でも「趣味関係のグループ」や「スポーツ関係のグループやクラブ」、「町内会・自治会」への参加率が高く、「月1～3回」の参加が多くなっています。

		母数 (n)	週 4 回 以 上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	い 参 加 し て な い	無 回 答	参 加 率 (再 掲)
都市中核										単位：%
都市中核	①ボランティアのグループ	727	0.7	1.9	1.4	3.6	3.0	67.8	21.6	10.6
	②スポーツ関係のグループやクラブ	727	2.5	7.0	4.5	2.2	2.2	60.8	20.8	18.4
	③趣味関係のグループ	727	1.7	7.2	7.6	9.6	4.5	51.4	18.0	30.6
	④学習・教養サークル	727	0.3	1.0	3.0	3.3	2.9	67.1	22.4	10.5
	⑤老人クラブ	727	0.3	2.5	2.1	3.9	9.9	63.0	18.4	18.7
	⑥町内会・自治会	727	0.4	1.1	1.0	4.1	14.9	58.5	20.1	21.5
	⑦収入のある仕事	727	10.3	4.7	0.7	1.4	1.1	62.3	19.5	18.2
岸和田北部										単位：%
岸和田北部	①ボランティアのグループ	560	1.3	2.0	1.3	3.8	3.0	64.3	24.5	11.4
	②スポーツ関係のグループやクラブ	560	3.4	6.4	4.5	2.9	0.7	58.4	23.8	17.9
	③趣味関係のグループ	560	0.7	5.2	4.5	8.6	3.8	53.8	23.6	22.8
	④学習・教養サークル	560	—	0.9	1.8	3.8	2.3	65.5	25.7	8.8
	⑤老人クラブ	560	0.7	1.6	2.9	3.9	7.5	60.9	22.5	16.6
	⑥町内会・自治会	560	0.2	1.1	0.9	3.9	12.1	57.5	24.3	18.2
	⑦収入のある仕事	560	10.0	3.6	0.5	0.4	0.7	61.8	23.0	15.2
葛城の谷										単位：%
葛城の谷	①ボランティアのグループ	436	0.5	2.8	2.3	4.6	4.6	64.4	20.9	14.8
	②スポーツ関係のグループやクラブ	436	3.4	5.3	7.6	3.9	1.6	58.5	19.7	21.8
	③趣味関係のグループ	436	1.1	6.2	5.5	8.9	3.9	56.7	17.7	25.6
	④学習・教養サークル	436	0.2	0.7	2.5	4.4	2.5	68.6	21.1	10.3
	⑤老人クラブ	436	0.5	0.7	1.8	5.0	8.7	64.0	19.3	16.7
	⑥町内会・自治会	436	0.2	0.5	0.9	7.8	18.1	52.5	20.0	27.5
	⑦収入のある仕事	436	10.3	4.4	1.1	1.1	2.1	63.1	17.9	19.0
岸和田中部										単位：%
岸和田中部	①ボランティアのグループ	249	0.8	2.4	1.6	3.2	5.6	67.1	19.3	13.6
	②スポーツ関係のグループやクラブ	249	4.8	7.2	7.6	4.0	2.4	56.2	17.7	26.0
	③趣味関係のグループ	249	2.8	4.8	4.0	14.5	4.0	53.8	16.1	30.1
	④学習・教養サークル	249	1.2	0.4	2.4	5.6	4.4	67.5	18.5	14.0
	⑤老人クラブ	249	0.4	0.8	2.4	3.6	7.6	69.5	15.7	14.8
	⑥町内会・自治会	249	—	1.6	1.6	3.2	18.5	55.8	19.3	24.9
	⑦収入のある仕事	249	7.2	5.2	0.4	0.8	—	68.3	18.1	13.6
久米田										単位：%
久米田	①ボランティアのグループ	347	1.2	1.4	2.3	3.7	2.3	66.3	22.8	10.9
	②スポーツ関係のグループやクラブ	347	5.2	6.6	4.0	1.7	1.2	60.5	20.7	18.7
	③趣味関係のグループ	347	2.0	4.0	8.4	10.7	3.7	51.3	19.9	28.8
	④学習・教養サークル	347	—	1.4	1.4	3.7	3.2	67.1	23.1	9.7
	⑤老人クラブ	347	1.7	2.6	1.4	2.9	6.6	64.6	20.2	15.2
	⑥町内会・自治会	347	—	0.3	1.4	3.2	20.5	53.3	21.3	25.4
	⑦収入のある仕事	347	6.9	4.0	1.4	0.3	2.3	65.7	19.3	14.9
牛滝の谷										単位：%
牛滝の谷	①ボランティアのグループ	386	0.8	1.0	1.8	3.9	7.8	61.9	22.8	15.3
	②スポーツ関係のグループやクラブ	386	3.4	3.4	6.5	3.9	3.6	58.3	21.0	20.8
	③趣味関係のグループ	386	0.5	4.9	7.8	9.1	4.7	53.4	19.7	27.0
	④学習・教養サークル	386	—	0.8	2.8	3.6	2.6	65.8	24.4	9.8
	⑤老人クラブ	386	0.3	1.0	1.6	9.6	10.9	58.0	18.7	23.4
	⑥町内会・自治会	386	0.3	0.3	1.6	9.1	23.1	45.9	19.9	34.4
	⑦収入のある仕事	386	10.9	5.2	1.0	1.0	2.1	59.3	20.5	20.2

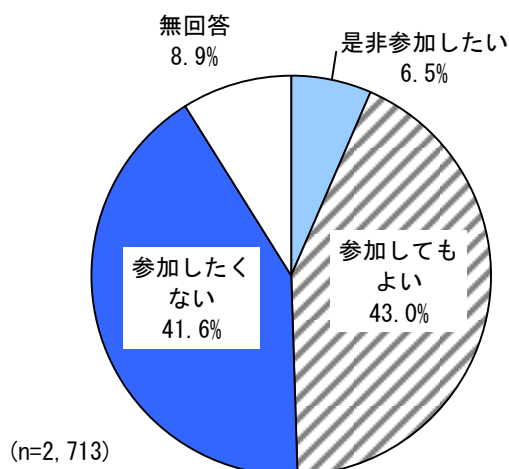
- 性別にみると、「ボランティアのグループ」、「町内会・自治会」、「収入のある仕事」では男性、「スポーツ関係のグループやクラブ」、「趣味関係のグループ」、「学習・教養サークル」、「老人クラブ」では女性の方が、参加率が高くなっています。

		母数 (n)	週 4 回 以上	週 2 ～ 3 回	週 1 回	月 1 ～ 3 回	年 に 数 回	い 参 加 し て 無 回 答	参 加 し て 再 掲 示 さ れ て い る
男性	①ボランティアのグループ	1,080	1.3	1.8	1.2	4.6	5.7	68.7	16.7
	②スポーツ関係のグループやクラブ	1,080	3.8	4.8	3.9	2.9	3.5	64.8	16.3
	③趣味関係のグループ	1,080	2.1	5.3	4.8	8.5	6.5	57.4	15.4
	④学習・教養サークル	1,080	0.1	0.6	1.7	2.5	2.9	74.4	17.8
	⑤老人クラブ	1,080	0.6	1.6	1.3	3.1	8.1	69.5	15.7
	⑥町内会・自治会	1,080	0.3	0.9	1.1	5.6	17.8	58.7	15.6
	⑦収入のある仕事	1,080	14.5	6.2	1.1	1.1	2.2	59.4	15.4
女性	①ボランティアのグループ	1,625	0.6	2.0	2.0	3.3	3.0	63.3	25.8
	②スポーツ関係のグループやクラブ	1,625	3.3	6.9	6.6	3.0	0.8	55.3	24.1
	③趣味関係のグループ	1,625	0.9	5.9	7.4	10.6	2.6	50.5	22.1
	④学習・教養サークル	1,625	0.3	1.0	2.9	4.8	2.8	61.8	26.3
	⑤老人クラブ	1,625	0.6	1.7	2.6	5.8	9.1	58.3	21.8
	⑥町内会・自治会	1,625	0.2	0.7	1.2	4.9	16.6	51.9	24.6
	⑦収入のある仕事	1,625	6.3	3.3	0.7	0.7	0.8	65.2	23.0

② 地域づくりへの参加意向

- 地域づくり活動について、参加者として「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた“参加する”人は49.5%であるのに対し、お世話役として“参加する”人は26.5%と少なくなっています。
- 参加者としての参加意向を認定・該当状況別にみると、一般高齢者では約半数が「参加してもよい」のに対し、旧二次予防事業対象者、要支援1・2の人では、「参加したくない」人の割合が増加しています。また、お世話役としての参加意向についても、同様の傾向がみられます。
- 旧二次予防事業対象者では、参加者として“参加する”人は41.9%、お世話役として“参加する”人は19.7%となっています。

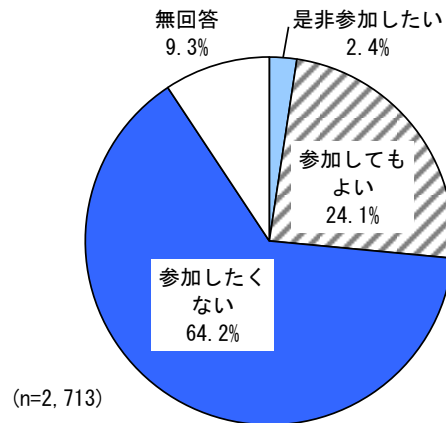
【地域づくり活動に対する参加者としての参加意向】



			母数 (n)	地域づくり活動に対する 参加者としての参加意向				単位：％ 参 加 （再 掲 ） の 合 計
				是非 参加 した い	参 加 し て も よ い	参 加 し た く な い	無 回 答	
全体			2, 713	6. 5	43. 0	41. 6	8. 9	49. 5
性年齢別	男性	前期高齢者	583	6. 2	49. 9	39. 8	4. 1	56. 1
		後期高齢者	497	4. 6	44. 3	40. 8	10. 3	48. 9
	女性	前期高齢者	708	7. 8	48. 4	38. 6	5. 2	56. 2
		後期高齢者	917	6. 8	33. 7	45. 4	14. 2	40. 5
圏域		都市中核	727	7. 3	41. 3	42. 1	9. 4	48. 6
		岸和田北部	560	6. 1	38. 4	44. 3	11. 3	44. 5
		葛城の谷	436	7. 6	45. 2	39. 7	7. 6	52. 8
		岸和田中部	249	6. 4	47. 8	39. 0	6. 8	54. 2
		久米田	347	5. 2	46. 1	40. 9	7. 8	51. 3
		牛滝の谷	386	5. 7	44. 6	40. 9	8. 8	50. 3
認定・該当状況		一般高齢者	1, 520	6. 6	49. 9	35. 5	7. 9	56. 5
		旧二次予防事業対象者	711	6. 0	35. 9	47. 8	10. 3	41. 9
		要支援1・2	482	6. 8	31. 5	51. 5	10. 2	38. 3

単位：%

【地域づくり活動に対するお世話役としての参加意向】



単位：%

		母数 (n)	地域づくり活動に対する お世話役としての参加意向				参 加 再 掲 の 合 計
			是非 参加 した い	参 加 し て も よ い	参 加 し た く な い	無 回 答	
全体		2,713	2.4	24.1	64.2	9.3	26.5
性年齢別	男性 前期高齢者	583	2.6	32.4	61.4	3.6	35.0
	後期高齢者	497	2.6	27.0	60.0	10.5	29.6
	女性 前期高齢者	708	2.4	25.4	66.8	5.4	27.8
	後期高齢者	917	2.2	16.1	66.3	15.4	18.3
圏域	都市中核	727	2.9	23.1	64.6	9.4	26.0
	岸和田北部	560	2.1	21.3	65.2	11.4	23.4
	葛城の谷	436	3.0	24.3	64.4	8.3	27.3
	岸和田中部	249	2.0	25.7	63.9	8.4	27.7
	久米田	347	1.2	27.1	64.0	7.8	28.3
	牛滝の谷	386	2.6	25.9	62.2	9.3	28.5
認定・該当状況	一般高齢者	1,520	3.0	29.3	59.1	8.6	32.3
	旧二次予防事業対象者	711	1.7	18.0	70.0	10.3	19.7
	要支援1・2	482	1.7	16.6	71.8	10.0	18.3

(2) たすけあい

① 周囲との相互の関係

- 心配事や愚痴を聞き合う関係や、看病をしてもらう関係を、「配偶者」や「別居の子ども」、「友人」と築いている人が多くなっています。一方、看病をしてあげる人がいるかどうかについては、「いない」人の割合は 14.0%となっています。

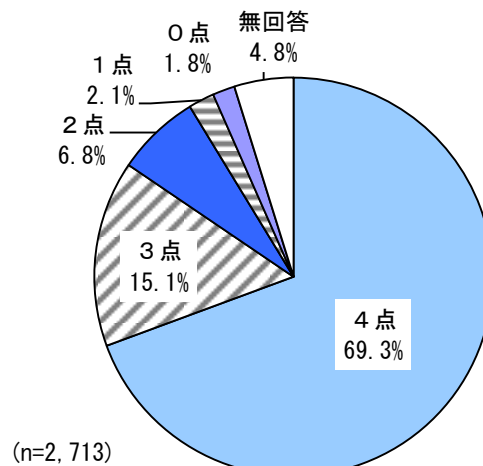
単位：%

	母数 (n)	配偶者	同居の子ども	別居の子ども	親兄弟・姉妹・親・孫	近隣	友人	その他	人そのは いよう ない	無回答
問6.1 あなたの心配事や愚痴(ぐち)を聞いてくれる人(MA)	2,713	47.4	20.5	36.0	32.8	13.2	35.8	2.6	4.4	5.8
問6.2 反対に、あなたが心配事や愚痴(ぐち)を聞いてあげる人(MA)	2,713	43.0	16.7	33.0	32.3	15.7	37.7	1.8	9.0	7.6
問6.3 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人(MA)	2,713	51.3	26.0	37.2	16.8	2.9	5.7	2.8	5.3	6.2
問6.4 反対に、看病や世話をしてくれる人(MA)	2,713	52.4	19.8	25.1	22.5	4.2	7.9	2.0	14.0	9.5

◆ たすけあいについて

調査票のたすけあいに関する問 6.1～6.4 について、それぞれ誰かしらそのような相手が“いる”人に 1 点を配点し、合計 4 点として、たすけあいの関係の有無を得点化しました。

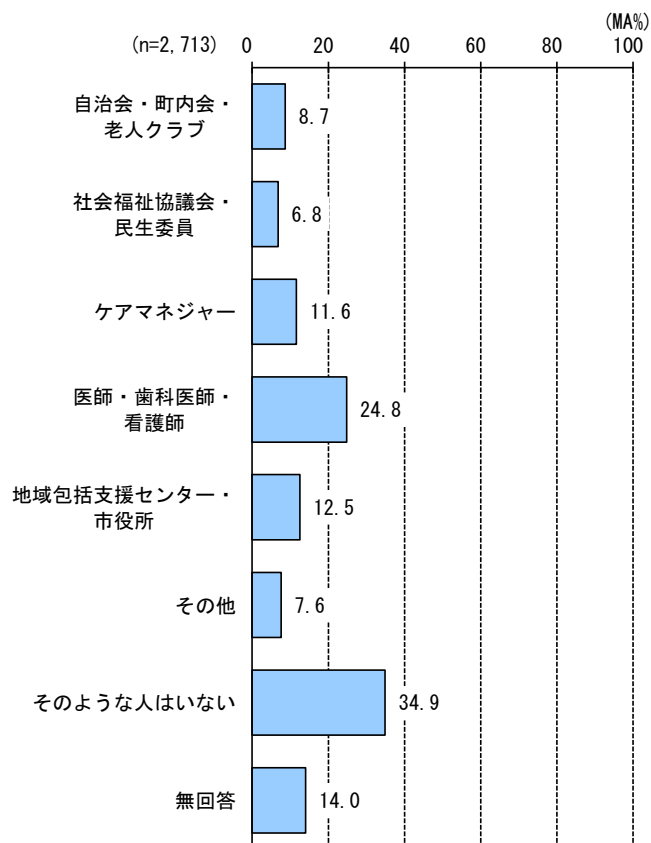
- たすけあいの関係が最も多くある人（4 点の人）は 69.3%となっています。



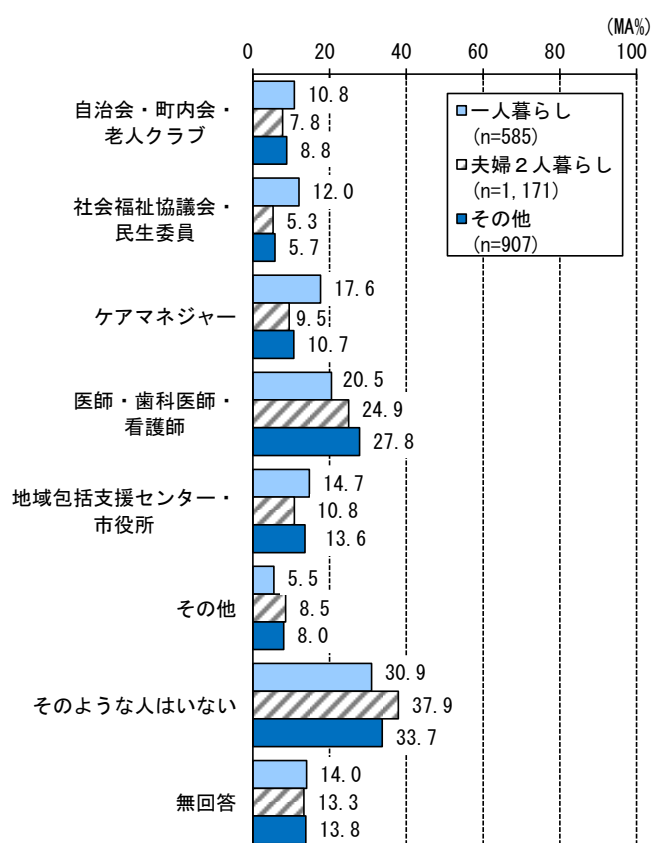
② 家族や友人・知人以外の相談相手について

- 相談相手について、「医師・歯科医師・看護師」や「ケアマネジャー」など、自分の生活と深く関わりのある人に相談している人がそれぞれ 24.8%、11.6%と多くなっています。一方で、家族や友人・知人以外に相談する相手がいない人は 34.9%となっています。
- 家族構成別にみると、一人暮らしの人は他と比べて「社会福祉協議会・民生委員」、「ケアマネジャー」などに相談する割合が高くなっています。
- 認定・該当状況別にみると、要支援 1・2 の人は、「ケアマネジャー」に相談する割合が最も高くなっています。

【何かあったときの相談相手】



【家族構成別：何かあったときの相談相手】



単位：%

単位：％

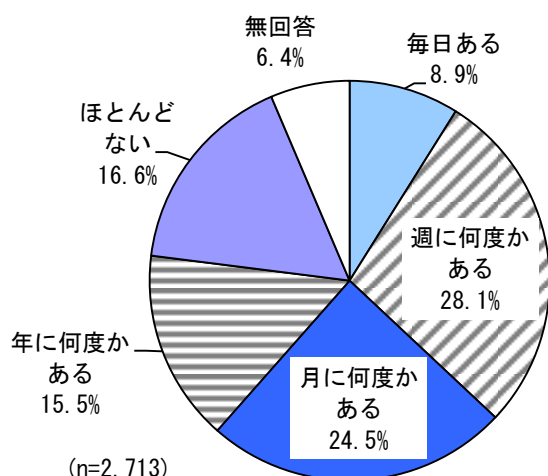
		母数 (n)	何かあったときの相談相手 (MA)							
			老人自治会・町内会・クラブ	民生社会福祉協議会・委員	ケアマネジャー	看護師・医師・歯科医師	地域包括支援センター・市役所	その他	いないような人は	無回答
全体		2,713	8.7	6.8	11.6	24.8	12.5	7.6	34.9	14.0
性年齢別	男性 前期高齢者	583	10.1	6.5	6.3	23.7	10.6	7.5	45.3	6.7
	男性 後期高齢者	497	11.5	8.7	9.7	29.0	11.9	5.8	33.2	15.3
	女性 前期高齢者	708	6.5	6.8	8.6	21.3	13.7	9.7	39.5	12.0
	女性 後期高齢者	917	8.2	6.0	18.4	25.6	12.6	6.9	25.8	19.5
圏域	都市中核	727	8.9	5.9	10.9	25.2	11.8	7.0	36.9	14.4
	岸和田北部	560	8.6	7.5	13.2	22.3	11.6	8.2	35.0	12.3
	葛城の谷	436	8.5	8.3	9.4	26.4	13.3	8.3	33.3	13.8
	岸和田中部	249	8.8	4.0	11.2	25.7	12.9	6.8	37.8	14.5
	久米田	347	8.4	9.8	12.1	25.1	15.6	6.3	34.0	13.3
	牛滝の谷	386	9.3	4.9	13.2	24.4	10.1	8.5	32.4	16.3
認定・該当状況	一般高齢者	1,520	10.1	7.0	4.9	26.0	12.6	8.6	36.3	13.7
	旧二次予防事業対象者	711	6.9	6.0	4.4	23.1	10.7	6.6	41.5	15.2
	要支援1・2	482	7.1	7.3	43.6	23.7	14.7	6.0	20.5	13.1

③ 友人・知人との関係性

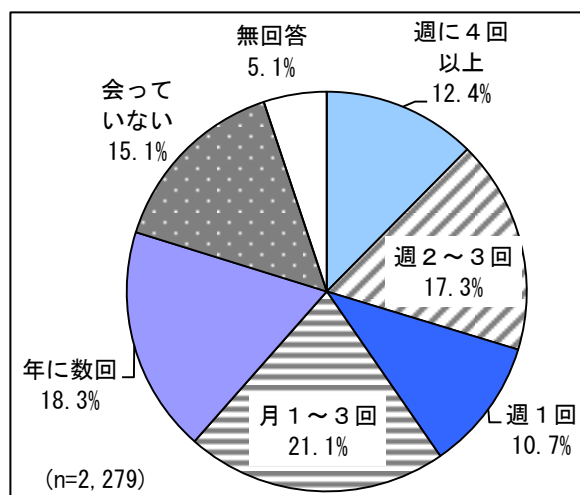
- 友人・知人と会う頻度について、「週に何度かある」人が最も多く 28.1%となっています。「毎日ある」、「週に何度かある」、「月に何度かある」を合わせた 61.5%の人が、友人・知人と頻繁に会っています。
- 性年齢別にみると、男性では後期高齢者になると、友人・知人と会う機会が少なくなっています。また男性より女性の方が、頻繁に友人・知人と会っています。
- 認定・該当状況別にみると、友人・知人と会う機会は「ほとんどない」人が旧二次予防事業対象者と要支援 1・2 の人では 2 割を超えています。

【友人・知人と会う頻度】

◎今回調査



◎前回調査



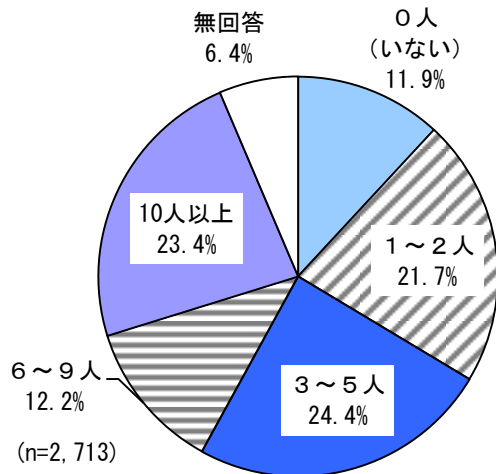
単位：%

			母数 (n)	友人・知人と会う頻度						頻 繁 （再掲） にある の 合計
				毎 日 あ る	週 に 何 度 か あ る	月 に 何 度 か あ る	年 に 何 度 か あ る	ほ と ん ど な い	無 回 答	
全体			2,713	8.9	28.1	24.5	15.5	16.6	6.4	61.5
性年齢別	男性	前期高齢者	583	9.9	22.5	27.6	20.2	16.6	3.1	60.0
		後期高齢者	497	7.2	22.5	18.3	16.1	26.0	9.9	48.0
	女性	前期高齢者	708	9.6	32.6	27.8	15.3	11.2	3.5	70.0
		後期高齢者	917	8.6	31.2	23.3	12.3	15.6	8.9	63.1
圏域	都市中核		727	9.4	28.2	24.3	15.4	15.8	6.9	61.9
	岸和田北部		560	9.5	26.1	24.1	15.5	16.8	8.0	59.7
	葛城の谷		436	7.8	32.1	22.2	17.2	15.6	5.0	62.1
	岸和田中部		249	6.0	30.9	24.5	13.7	19.3	5.6	61.4
	久米田		347	10.4	26.5	25.9	14.7	17.6	4.9	62.8
	牛滝の谷		386	9.1	25.9	26.7	15.5	16.1	6.7	61.7
認定・該当状況	一般高齢者		1,520	11.1	31.7	25.9	14.9	10.9	5.5	68.7
	旧二次予防事業対象者		711	6.3	23.8	21.7	19.0	21.2	8.0	51.8
	要支援1・2		482	5.8	23.0	24.5	12.2	27.6	6.8	53.3

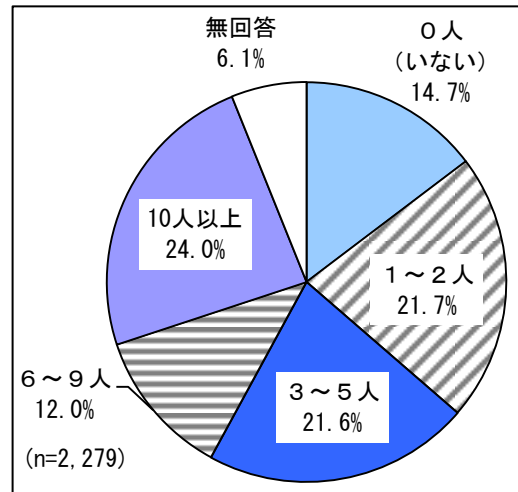
- この1か月間で会った友人・知人の数については、「3～5人」、「10人以上」「1～2人」の順に割合が高くなっていますが、「0人（いない）」も11.9%みられます。
- 性年齢別にみると、男女共に前期高齢者では「10人以上」の割合が最も高くなっています。一方、男女共に後期高齢者になると、「3～5人」の割合が最も高くなっており、さらに男性の約2割が「0人（いない）」と回答しています。
- 圏域別にみると、岸和田中部、久米田、牛滝の谷は他の圏域と比べてこの1か月間で会った友人・知人の数が多くなっています。

【この1か月間で会った友人・知人の数】

◎今回調査



◎前回調査



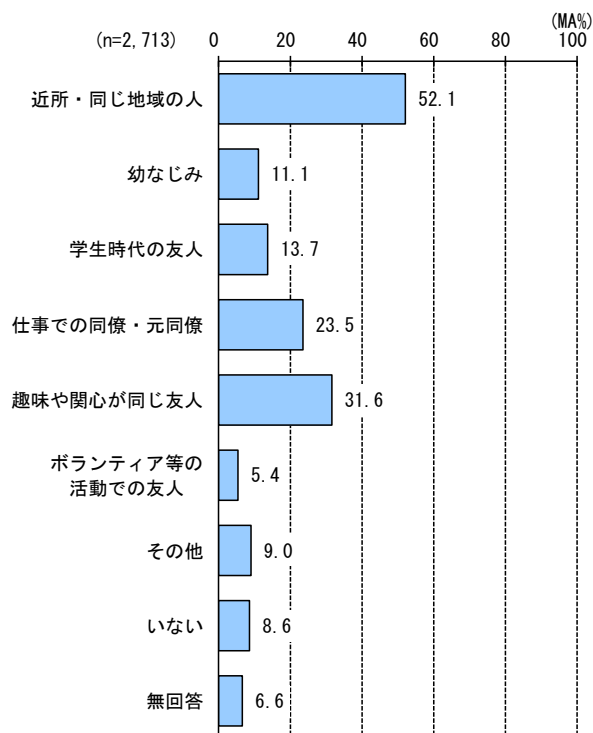
単位：％

		母数 (n)	この1か月間で会った友人・知人の数					
			0人 (いない)	1 ～ 2人	3 ～ 5人	6 ～ 9人	10 人以上	無 回 答
全体		2, 713	11. 9	21. 7	24. 4	12. 2	23. 4	6. 4
性年齢別	男性 前期高齢者	583	13. 6	21. 6	22. 6	12. 0	27. 3	2. 9
	後期高齢者	497	18. 3	22. 7	24. 5	7. 4	17. 1	9. 9
	女性 前期高齢者	708	7. 3	22. 5	22. 9	14. 7	29. 5	3. 1
	後期高齢者	917	10. 9	20. 7	26. 7	13. 2	19. 2	9. 3
圏域	都市中核	727	9. 8	22. 8	25. 0	13. 6	22. 6	6. 2
	岸和田北部	560	11. 4	24. 8	25. 7	10. 2	20. 2	7. 7
	葛城の谷	436	13. 3	19. 7	24. 8	12. 8	24. 3	5. 0
	岸和田中部	249	15. 7	20. 1	24. 5	8. 4	26. 5	4. 8
	久米田	347	13. 0	22. 5	21. 3	12. 1	25. 4	5. 8
	牛滝の谷	386	11. 7	17. 9	23. 8	14. 8	23. 8	8. 0
認定・該当状況	一般高齢者	1, 520	7. 7	19. 1	24. 3	13. 9	29. 5	5. 5
	旧二次予防事業対象者	711	16. 2	25. 3	23. 1	10. 4	17. 9	7. 2
	要支援1・2	482	18. 9	24. 5	26. 8	9. 8	12. 2	7. 9

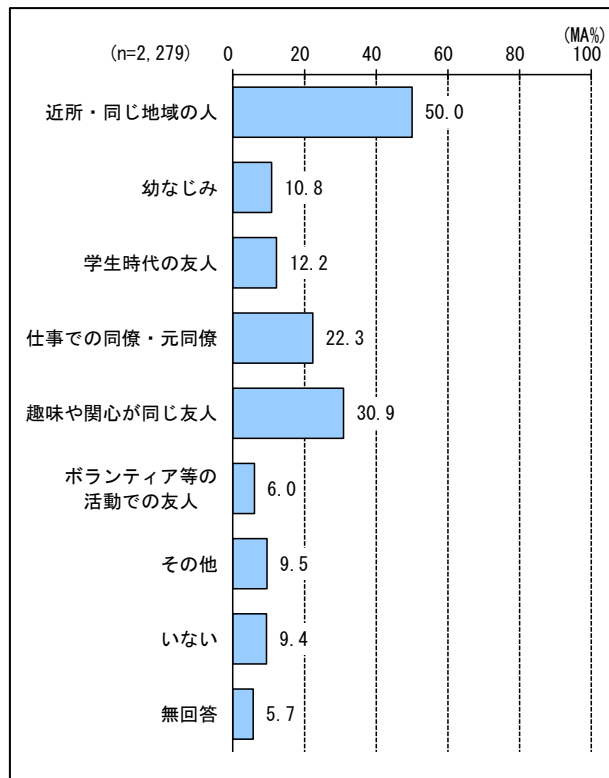
- よく会う友人・知人との関係について、前回調査同様「近所・同じ地域の人」の割合が最も高く、次いで「趣味や関心が同じ友人」、「仕事での同僚・元同僚」となっています。
- 性年齢別にみると、男性の前期高齢者では「仕事での同僚・元同僚」が36.0%と女性に比べ高くなっています。
- 圏域別にみると、牛滝の谷は「近所・同じ地域の人」の割合が高く、また、都市中核は他の圏域に比べて「趣味や関心が同じ友人」の割合が高くなっています。

【よく会う友人・知人との関係】

◎今回調査



◎前回調査



単位：％

単位：％

		母数 (n)	よく会う友人・知人との関係(MA)								
			同じ所・ 地域の人	幼 なじみ	学 生 時 代 の 友 人	元 同 僚 ・ 仕 事 で の 同 僚	同 趣 味 や 関 心 が 友 人	活 動 で の 友 人 ・ ボ ラ ン テ ィ ア 等 の	そ の 他	い な い	無 回 答
全体		2,713	52.1	11.1	13.7	23.5	31.6	5.4	9.0	8.6	6.6
性年齢別	男性 前期高齢者	583	39.1	16.0	19.2	36.0	31.0	7.4	7.2	9.8	3.3
	後期高齢者	497	42.1	6.6	6.8	20.7	28.2	3.6	9.3	13.3	10.7
	女性 前期高齢者	708	58.3	12.1	19.2	29.4	36.4	5.5	10.5	4.9	3.7
	後期高齢者	917	61.2	9.7	9.5	12.3	30.0	5.0	8.5	7.9	8.8
圏域	都市中核	727	49.5	13.8	16.0	22.6	35.4	5.6	8.8	7.0	5.9
	岸和田北部	560	50.4	8.8	10.2	26.3	26.8	4.1	9.8	7.9	8.6
	葛城の谷	436	51.6	9.2	14.0	25.7	31.7	6.4	8.3	9.9	5.7
	岸和田中部	249	50.6	16.5	18.1	20.1	31.7	6.0	9.2	9.2	6.4
	久米田	347	55.0	10.4	14.7	21.3	32.6	5.8	10.4	9.5	4.9
	牛滝の谷	386	58.8	9.1	10.1	22.5	30.3	4.9	6.7	9.3	7.8
認定・該当状況	一般高齢者	1,520	54.6	12.2	16.6	29.7	37.0	6.4	7.7	5.3	5.4
	旧二次予防事業対象者	711	47.1	10.5	10.5	19.0	27.0	3.7	11.3	12.1	7.9
	要支援 1・2	482	51.5	8.7	8.9	10.4	21.2	4.8	9.8	13.5	8.5

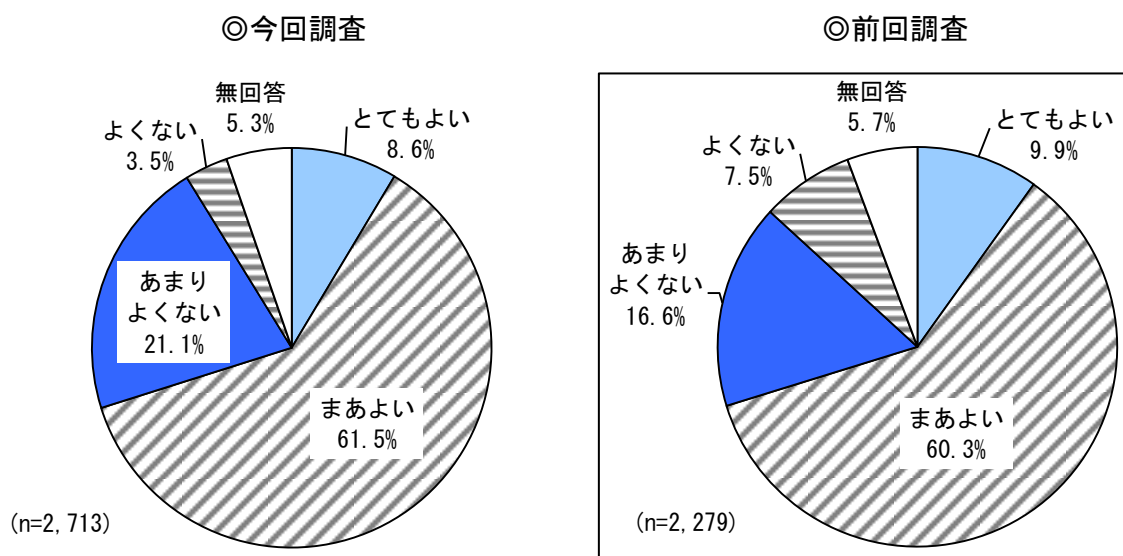
8. 健康・介護予防について

(1) 健康状態

① 主観的な健康状態

- 主観的な健康状態について、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた“よい”と感じている人は全体の70.1%となっており、前回調査時70.2%と差はみられません。
- 性年齢別にみると、前期高齢者では女性に比べて男性が“よい”と感じている人の割合が高くなっていますが、後期高齢者では女性の方がその割合が高くなっています。
- 認定・該当状況別にみると、一般高齢者は健康状態を“よい”と感じていますが、旧二次予防事業対象者、要支援1・2の人では、“よい”と感じる人の割合が低くなっています。

【現在の健康状態】



単位：％

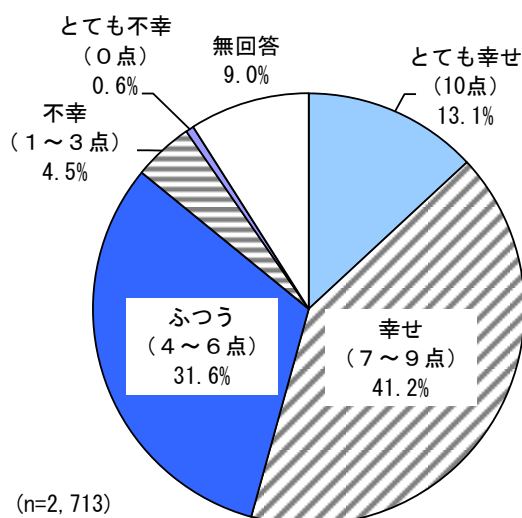
		母数 (n)	現在の健康状態					よ（再掲） いの合計
			とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答	
全体		2,713	8.6	61.5	21.1	3.5	5.3	70.1
性年齢別	男性 前期高齢者	583	11.5	68.4	14.1	2.4	3.6	79.9
	後期高齢者	497	6.2	55.1	25.6	5.8	7.2	61.3
	女性 前期高齢者	708	10.3	67.7	15.5	2.7	3.8	78.0
	後期高齢者	917	6.7	56.3	27.3	3.5	6.3	63.0
圏域	都市中核	727	9.1	60.5	21.5	3.2	5.8	69.6
	岸和田北部	560	7.5	60.9	22.9	3.4	5.4	68.4
	葛城の谷	436	7.1	60.8	23.4	4.6	4.1	67.9
	岸和田中部	249	12.4	61.4	17.7	4.4	4.0	73.8
	久米田	347	8.6	64.8	17.6	3.5	5.5	73.4
	牛滝の谷	386	8.3	63.2	20.2	2.3	6.0	71.5
認定・該当状況	一般高齢者	1,520	13.8	71.4	9.0	0.6	5.2	85.2
	旧二次予防事業対象者	711	2.4	53.6	33.2	5.1	5.8	56.0
	要支援1・2	482	1.5	42.1	41.3	10.4	4.8	43.6

単位：%

② 精神面での健康

- 現在の主観的な幸福感について、「とても幸せ」と「幸せ」を合わせた“幸せ”と感じている人は、54.3%となっています。
- 認定・該当状況別にみると、旧二次予防事業対象者、要支援1・2の人は、一般高齢者に比べて「ふつう」と感じている人の割合が高くなっています。

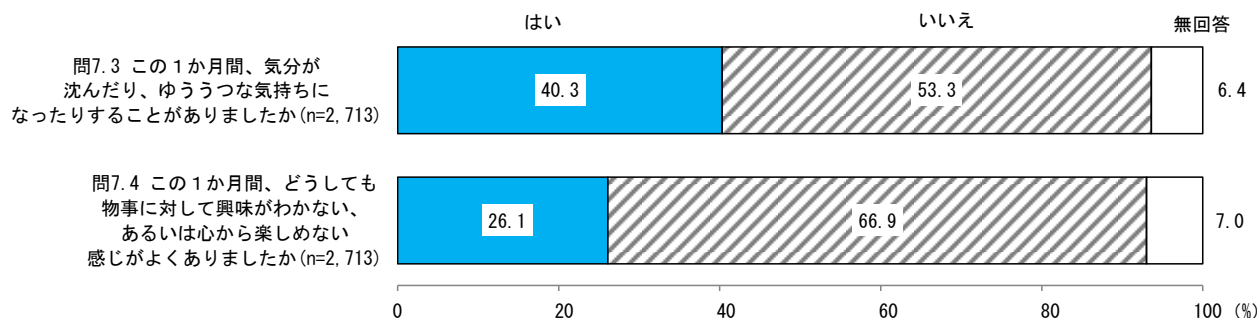
【現在の幸福感】



			母数 (n)	現在の幸福感					幸 せ (再 掲 合 計)	
				(と も も 不 幸 1 0 点)	(幸 せ 7 ~ 9 点)	(ふ つ う 4 ~ 6 点)	(不 幸 1 ~ 3 点)	(と も も 不 幸 0 点)		無 回 答
全体			2,713	13.1	41.2	31.6	4.5	0.6	9.0	54.3
性年齢別	男性	前期高齢者	583	11.0	41.9	34.1	5.7	0.9	6.5	52.9
		後期高齢者	497	11.9	36.8	36.4	4.4	0.6	9.9	48.7
	女性	前期高齢者	708	13.3	46.0	30.5	4.0	0.3	5.9	59.3
		後期高齢者	917	15.0	39.4	28.0	4.3	0.7	12.6	54.4
圏域		都市中核	727	14.3	39.3	32.0	4.4	0.4	9.5	53.6
		岸和田北部	560	12.3	38.2	35.4	4.5	0.7	8.9	50.5
		葛城の谷	436	12.4	46.3	28.9	4.6	0.5	7.3	58.7
		岸和田中部	249	11.6	44.2	30.9	2.8	1.6	8.8	55.8
		久米田	347	13.5	42.7	29.7	5.8	0.3	8.1	56.2
		牛滝の谷	386	13.5	39.9	30.1	4.7	0.5	11.4	53.4
認定・該当状況		一般高齢者	1,520	15.1	47.9	26.3	2.0	0.3	8.4	63.0
		旧二次予防事業対象者	711	11.5	31.4	39.2	6.5	0.8	10.5	42.9
		要支援1・2	482	8.9	34.6	36.9	9.3	1.2	8.9	43.5

単位：％

【この1か月の精神状態】



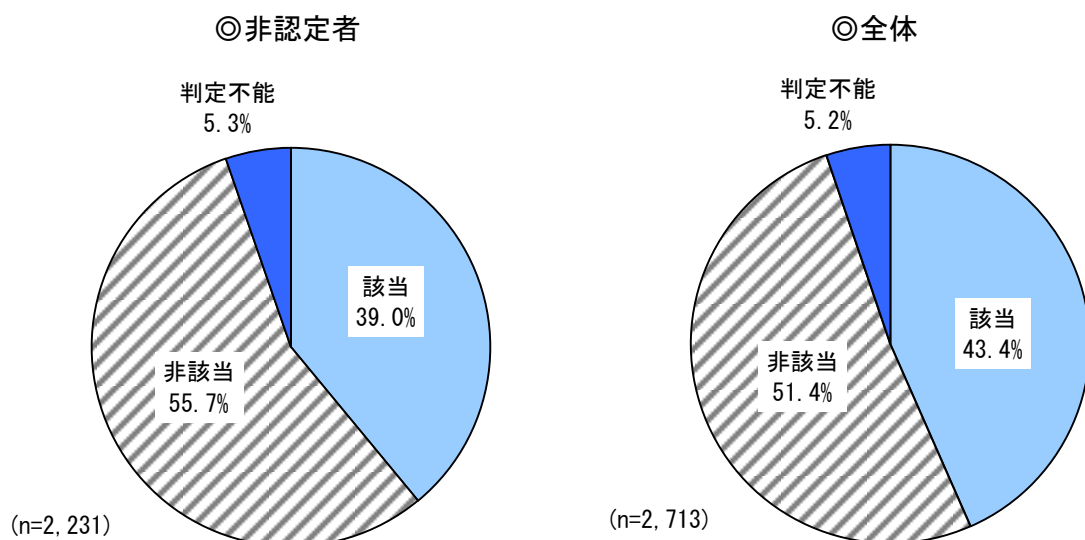
◆ うつのリスクの判定

調査票のうつに関する問7.3～7.4について、以下の2問中1問該当した人をうつのリスクがあると判定しました。

問7.3 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」
問7.4 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	

- うつのリスクがあると判定された人は非認定者では39.0%、全体43.4%となっています。
- 性年齢別にみると、女性の後期高齢者ではうつのリスク該当者（全体）が約5割を占めています。
- 圏域別にみると、岸和田北部、葛城の谷では他の圏域に比べてうつのリスク該当者の割合が高くなっています。
- 認定・該当状況別にみると、一般高齢者が30.9%であるのに対して、旧二次予防事業対象者では56.3%と非認定者の中でも大きな差がみられます。

【うつのリスク】

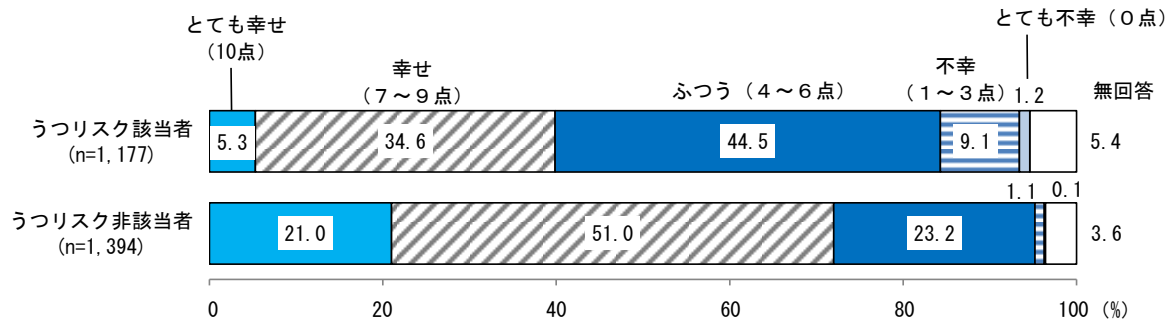


単位：％

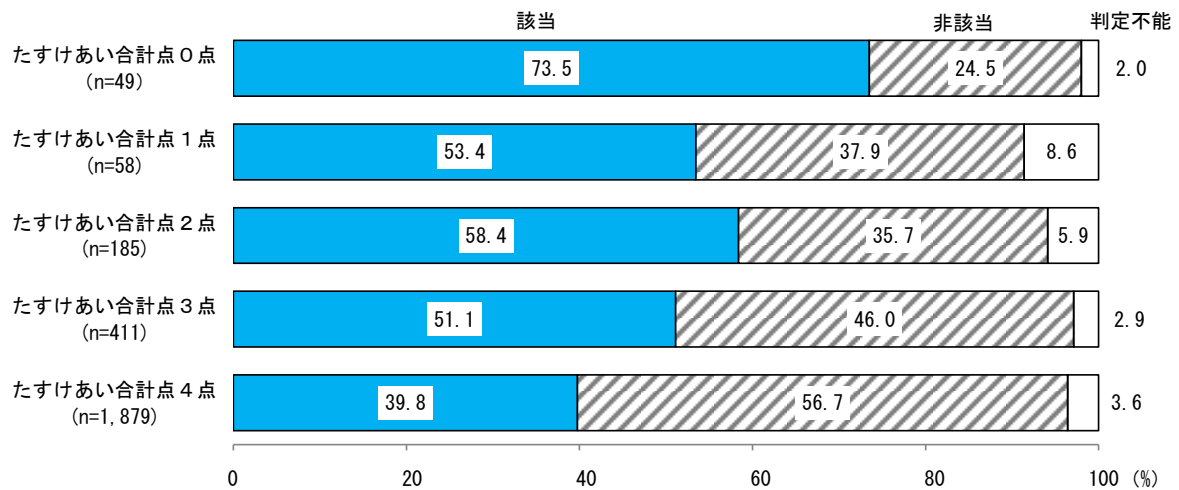
		母数 (n)	うつのリスク (非認定者のみ)			母数 (n)	うつのリスク		
			該 当	非 該 当	判 定 不 能		該 当	非 該 当	判 定 不 能
全体		2,231	39.0	55.7	5.3	2,713	43.4	51.4	5.2
性年齢別	男性 前期高齢者	551	34.5	61.7	3.8	583	37.0	59.3	3.6
	後期高齢者	399	42.1	51.4	6.5	497	44.1	48.7	7.2
	女性 前期高齢者	645	37.4	58.4	4.2	708	40.4	55.6	4.0
	後期高齢者	628	42.4	50.5	7.2	917	49.2	44.6	6.2
圏域	都市中核	590	36.6	56.9	6.4	727	42.1	51.9	6.1
	岸和田北部	460	40.7	54.6	4.8	560	44.3	50.9	4.8
	葛城の谷	361	41.3	55.1	3.6	436	45.9	50.5	3.7
	岸和田中部	209	38.8	56.5	4.8	249	42.2	53.4	4.4
	久米田	285	37.9	57.5	4.6	347	40.9	54.2	4.9
	牛滝の谷	318	39.0	53.8	7.2	386	44.3	48.7	7.0
認定・該当状況	一般高齢者	1,520	30.9	64.0	5.1	1,520	30.9	64.0	5.1
	旧二次予防事業対象者	711	56.3	37.8	5.9	711	56.3	37.8	5.9
	要支援1・2	-	-	-	-	482	63.7	31.5	4.8

- うつのリスク該当状況別に、幸福感をみると、リスク該当者より非該当者の方が「幸せ」と感じている人の割合が高くなっています。
- たすけあいの得点（P41 参照）ごとに、うつのリスク該当者の割合をみると、たすけあいの得点が低くなる（たすけあえる人が減る）につれて、うつのリスク該当者が増加する傾向になっています。

【うつのリスク該当状況別：幸福感】



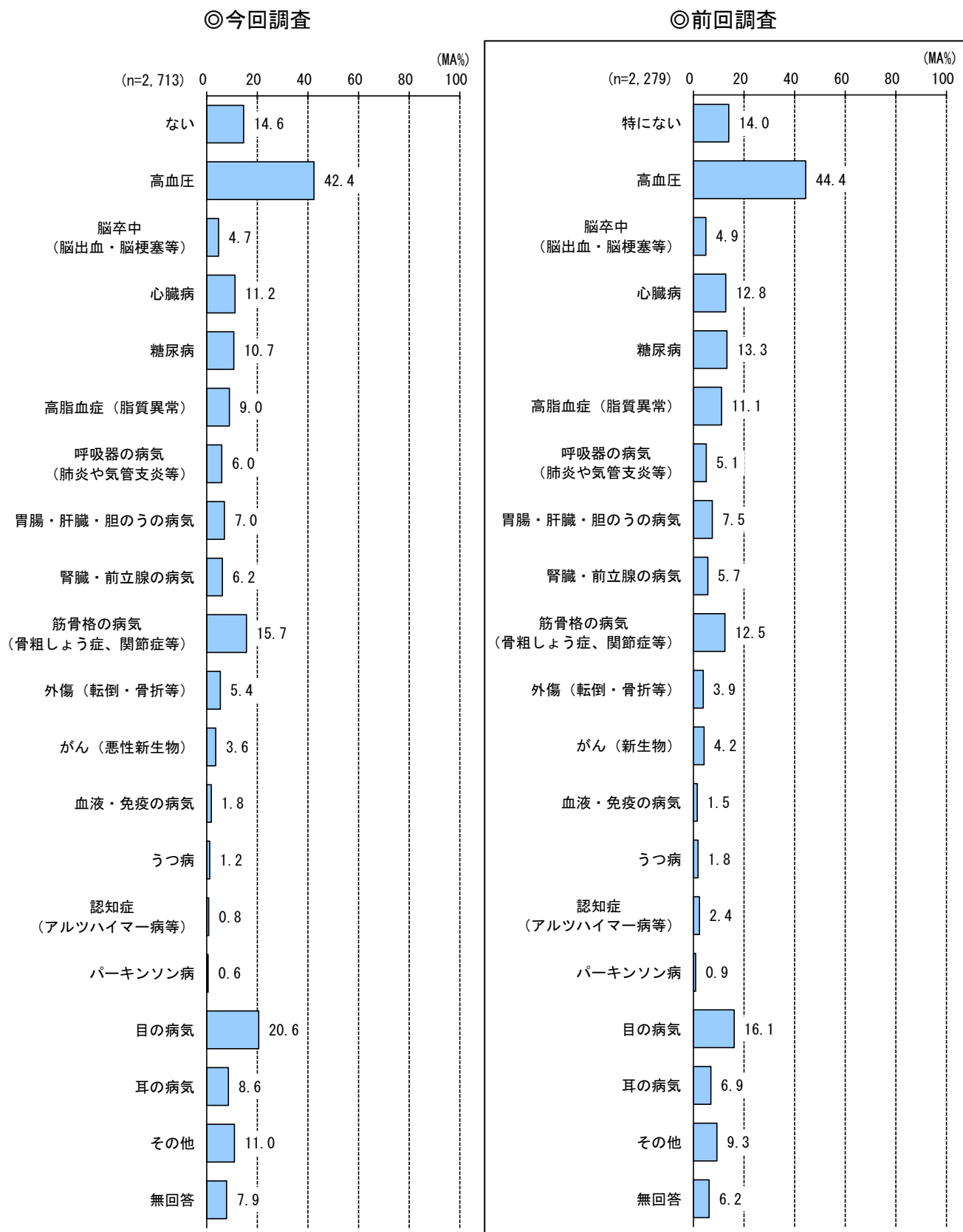
【たすけあい合計点別：うつのリスク該当者の割合】



③ 病気の状況

- 現在治療中、または後遺症のある病気で最も多いのは「高血圧」の割合が最も高く、次いで、「目の病気」、「筋骨格の病気」となっています。

【現在治療中、または後遺症のある病気】



- 認定・該当状況別にみると、旧二次予防事業対象者は一般高齢者と比べて現在治療中、または後遺症のある病気が「ない」人の割合が低くなっています。要支援1・2の人では「筋骨格の病気」の割合が3割以上を占めています。

単位：％

		母数 (n)	現在治療中、または後遺症のある病気 (MA)									
			ない	高血圧	脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)	心臓病	糖尿病	高脂血症 (脂質異常)	呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等)	胃腸・肝臓・胆のうの病気	腎臓・前立腺の病気	筋骨格の病気 (骨粗しょう症、関節症等)
全体		2,713	14.6	42.4	4.7	11.2	10.7	9.0	6.0	7.0	6.2	15.7
性年齢別	男性 前期高齢者	583	22.8	39.8	4.6	11.3	11.5	6.5	5.1	5.0	9.1	4.3
	後期高齢者	497	10.1	43.1	7.6	16.3	14.9	5.8	9.5	9.7	16.9	8.9
	女性 前期高齢者	708	19.4	35.0	2.5	4.8	8.2	13.6	4.7	5.9	1.1	15.1
	後期高齢者	917	8.2	49.3	4.8	13.3	9.8	8.8	5.8	7.9	2.3	27.0
認定・該当状況	一般高齢者	1,520	20.5	37.2	2.1	6.6	7.7	9.1	3.6	5.4	4.7	8.6
	旧二次予防事業対象者	711	10.0	47.7	6.8	14.1	12.0	9.0	8.7	8.7	8.7	20.3
	要支援 1・2	482	2.7	50.8	9.8	21.4	18.0	8.7	9.8	9.8	6.8	31.3

単位：％

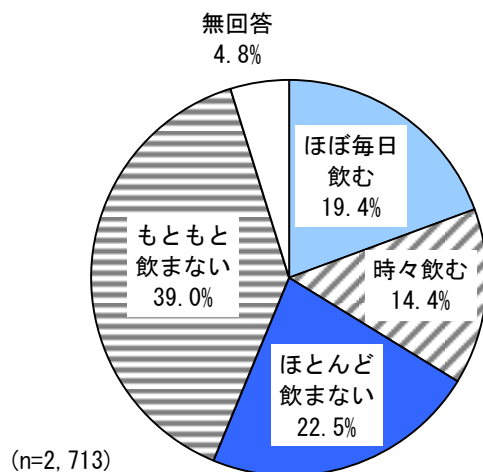
		母数 (n)	現在治療中、または後遺症のある病気 (MA)									
			外傷（転倒・骨折等）	がん（悪性新生物）	血液・免疫の病気	うつ病	認知症（アルツハイマー病等）	パーキンソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答
全体		2, 713	5. 4	3. 6	1. 8	1. 2	0. 8	0. 6	20. 6	8. 6	11. 0	7. 9
性年齢別	男性 前期高齢者	583	1. 0	4. 3	1. 0	1. 2	0. 7	0. 3	12. 7	5. 7	9. 9	6. 7
	後期高齢者	497	4. 2	3. 6	2. 0	0. 6	1. 6	0. 8	24. 5	11. 9	9. 7	7. 6
	女性 前期高齢者	708	4. 5	3. 7	2. 0	1. 6	0. 1	0. 4	17. 2	5. 6	11. 3	8. 2
	後期高齢者	917	9. 4	2. 9	2. 0	1. 2	1. 1	0. 8	26. 2	10. 9	12. 3	8. 6
認定・該当状況	一般高齢者	1, 520	2. 0	2. 8	1. 1	0. 5	0. 3	0. 2	15. 1	5. 7	8. 9	9. 1
	旧二次予防事業対象者	711	7. 2	4. 1	2. 8	1. 5	1. 5	0. 8	26. 4	11. 4	12. 5	7. 6
	要支援 1・2	482	13. 3	5. 4	2. 7	2. 9	1. 5	1. 5	29. 3	13. 5	15. 4	4. 4

(2) 飲酒・喫煙

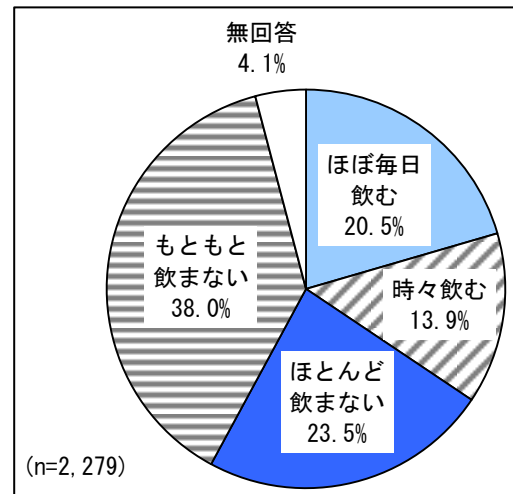
- 飲酒の状況について、「もともと飲まない」と「ほとんど飲まない」を合わせた“飲まない”人は61.5%となっており、前回調査時と同率となっています。
- 性年齢別にみると、男性は前期高齢者で44.4%、後期高齢者でも33.4%が「ほぼ毎日飲む」と回答しています。男性は「ほぼ毎日飲む」人の割合が高いのに対し、女性は「もともと飲まない」人の割合が高くなっています。
- 認定・該当状況別にみると、要支援1・2の人で、「ほぼ毎日飲む」人の割合は1割未満となっています。

【飲酒の状況】

◎今回調査



◎前回調査

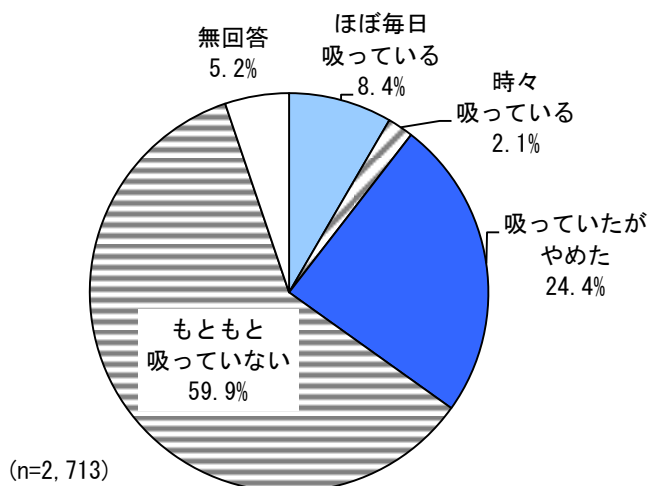


			母数 (n)	飲酒の状況					単位：％ 飲（再掲） の 合 計
				ほ ぼ 毎 日 飲 む	時 々 飲 む	ほ と ん ど 飲 ま ない	も と も と 飲 ま ない	無 回 答	
全体			2, 713	19. 4	14. 4	22. 5	39. 0	4. 8	61. 5
性年齢別	男性	前期高齢者	583	44. 4	16. 3	16. 1	19. 4	3. 8	35. 5
		後期高齢者	497	33. 4	14. 3	22. 7	22. 9	6. 6	45. 6
	女性	前期高齢者	708	8. 2	16. 2	26. 7	45. 9	3. 0	72. 6
		後期高齢者	917	4. 1	12. 1	23. 3	54. 6	5. 8	77. 9
圏域	都市中核		727	16. 9	14. 6	21. 6	41. 5	5. 4	63. 1
	岸和田北部		560	22. 1	14. 5	20. 5	38. 4	4. 5	58. 9
	葛城の谷		436	21. 1	16. 5	23. 9	34. 9	3. 7	58. 8
	岸和田中部		249	16. 5	12. 4	28. 9	38. 2	4. 0	67. 1
	久米田		347	20. 2	14. 7	21. 6	38. 3	5. 2	59. 9
	牛滝の谷		386	18. 4	13. 2	22. 5	40. 4	5. 4	62. 9
認定・該当状況	一般高齢者		1, 520	24. 2	14. 7	21. 8	34. 5	4. 7	56. 3
	旧二次予防事業対象者		711	17. 9	14. 1	21. 0	41. 5	5. 6	62. 5
	要支援 1・2		482	6. 2	14. 1	26. 8	49. 4	3. 5	76. 2

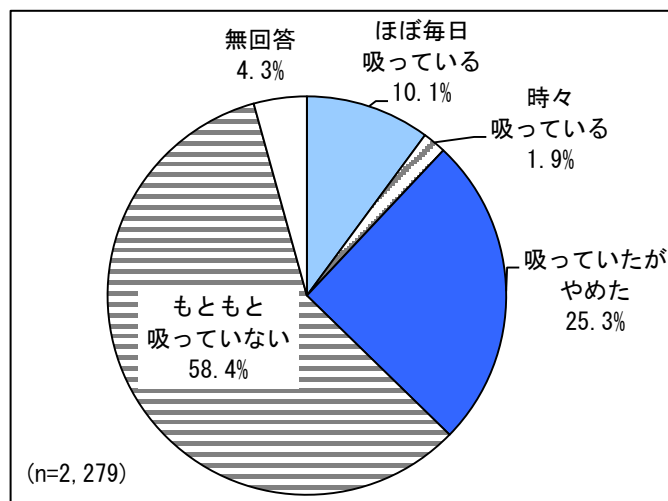
- 喫煙の状況について、「ほぼ毎日吸っている」が8.4%、「時々吸っている」2.1%とともに低率となっています。また、「もともと吸っていない」と「吸っていたがやめた」を合わせた“現在吸っていない”人は84.3%となっています。
- 性年齢別にみると、男性は女性に比べて「吸っていたがやめた」人の割合が高くなっています。

【喫煙の状況】

◎今回調査



◎前回調査



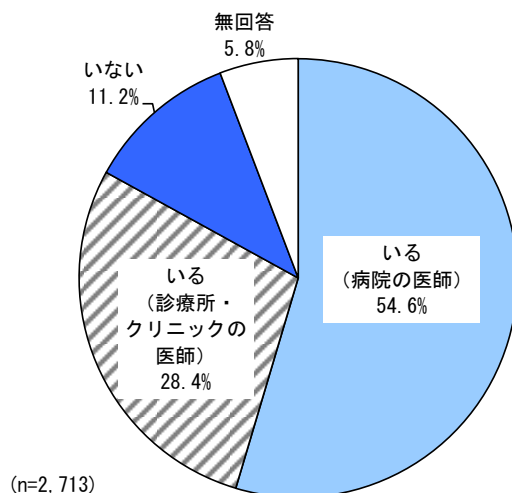
		母数 (n)	喫煙の状況					単位：％ 現（再掲） 在吸つ ていな いの合 計
			ほ ぼ 毎 日 吸 っ て い る	時 々 吸 っ て い る	吸 っ て い た が や め た	も と も と 吸 っ て い な い	無 回 答	
全体		2,713	8.4	2.1	24.4	59.9	5.2	84.3
性年齢別	男性 前期高齢者	583	22.6	3.6	49.4	20.6	3.8	70.0
	後期高齢者	497	9.3	2.0	53.7	28.2	6.8	81.9
	女性 前期高齢者	708	4.9	2.1	8.9	80.5	3.5	89.4
	後期高齢者	917	1.5	1.1	4.5	86.5	6.4	91.0
圏域	都市中核	727	9.5	2.3	20.2	61.9	6.1	82.1
	岸和田北部	560	7.7	2.0	29.1	56.4	4.8	85.5
	葛城の谷	436	7.8	3.0	25.7	59.6	3.9	85.3
	岸和田中部	249	6.4	0.4	23.7	65.9	3.6	89.6
	久米田	347	10.4	1.2	23.3	59.4	5.8	82.7
	牛滝の谷	386	7.5	2.6	25.1	58.8	6.0	83.9
認定・該当状況	一般高齢者	1,520	9.7	2.6	25.9	56.6	5.1	82.5
	旧二次予防事業対象者	711	8.6	1.7	25.0	59.1	5.6	84.1
	要支援1・2	482	3.7	0.8	18.5	72.2	4.8	90.7

9. 在宅医療について

(1) かかりつけ医の有無

- かかりつけ医が「いる（病院の医師）」人が 54.6%、「いる（診療所・クリニックの医師）」人が 28.4%となっています。一方、11.2%の人が「いない」と回答されています。
- 認定・該当状況別にみると、要支援１・２の人では約 7 割の人が「いる（病院の医師）」と回答しています。

【かかりつけ医の有無】



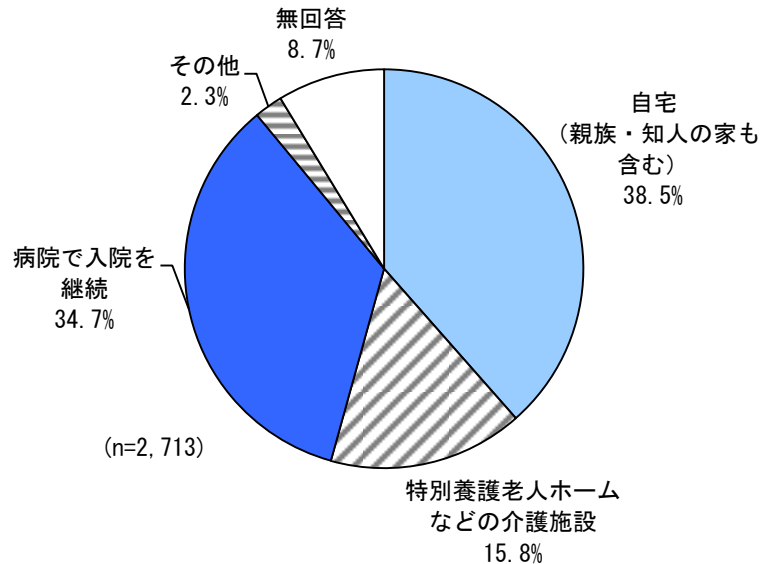
単位：%

			母数 (n)	かかりつけ医の有無			
				いる （病院の医師）	いる （診療所・クリニックの医師）	いない	無回答
全体			2,713	54.6	28.4	11.2	5.8
性年齢別	男性	前期高齢者	583	49.4	27.4	18.4	4.8
		後期高齢者	497	58.6	25.6	8.0	7.8
	女性	前期高齢者	708	50.4	30.6	14.7	4.2
		後期高齢者	917	58.9	28.9	5.6	6.7
圏域	都市中核		727	53.6	27.9	12.1	6.3
	岸和田北部		560	53.2	29.5	12.0	5.4
	葛城の谷		436	50.5	34.2	10.3	5.0
	岸和田中部		249	54.2	30.5	8.8	6.4
	久米田		347	62.0	22.2	10.4	5.5
	牛滝の谷		386	56.5	25.6	11.4	6.5
認定・該当状況	一般高齢者		1,520	48.2	31.8	14.3	5.7
	旧二次予防事業対象者		711	58.4	23.9	11.1	6.6
	要支援１・２		482	69.3	24.3	1.5	5.0

(2) 医療や介護が必要になった時に過ごしたい場所について

- 医療や介護が必要になった時に過ごしたい場所について、「自宅（親族・知人の家も含む）」が38.5%で最も多く、次いで、「病院で入院を継続」、「特別養護老人ホームなどの介護施設」となっています。
- 性年齢別にみると、男性では「自宅（親族・知人の家も含む）」の割合が高くなっています。一方、女性では「病院で入院を継続」が高くなっており、男女に違いがみられます。

【医療や介護が必要になった時に過ごしたい場所】



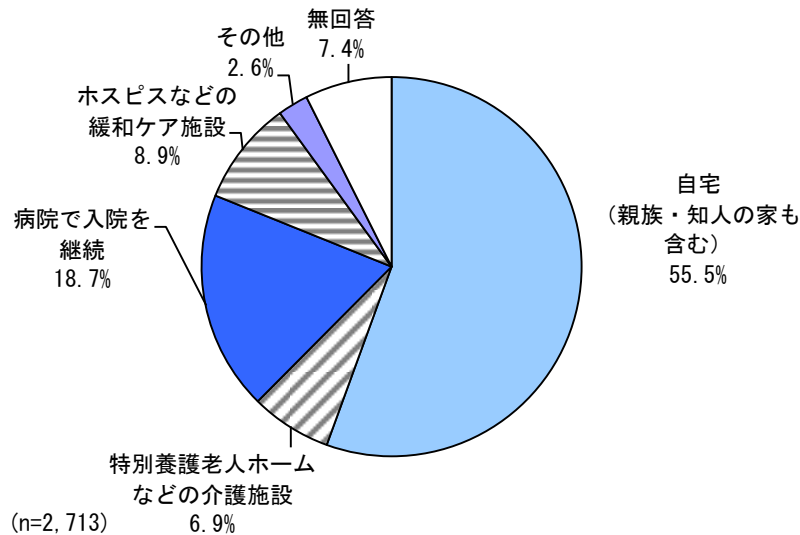
単位：%

		母数 (n)	医療や介護が必要になった時に 過ごしたい場所				
			（自 宅 （親 族・ 知 人 の 家 も 含 む）	介 護 施 設	特 別 養 護 老 人 ホ ー ム な ど の	病 院 で 入 院 を 継 続	そ の 他
全体		2,713	38.5	15.8	34.7	2.3	8.7
性年齢別	男性 前期高齢者	583	43.4	16.0	32.6	2.1	6.0
	後期高齢者	497	45.3	11.1	33.0	1.0	9.7
	女性 前期高齢者	708	35.2	19.9	36.3	2.3	6.4
	後期高齢者	917	34.4	15.3	35.6	3.1	11.8
圏域	都市中核	727	40.0	14.4	34.3	2.2	9.1
	岸和田北部	560	38.0	17.3	33.4	2.5	8.8
	葛城の谷	436	34.9	18.6	36.7	1.8	8.0
	岸和田中部	249	32.9	20.1	34.9	3.2	8.8
	久米田	347	41.2	12.7	35.2	1.7	9.2
	牛滝の谷	386	41.7	13.5	34.2	2.3	8.3
認定・該当状況	一般高齢者	1,520	38.6	16.1	35.6	1.8	8.0
	旧二次予防事業対象者	711	40.1	15.5	31.8	2.8	9.8
	要支援1・2	482	36.1	15.4	36.1	3.1	9.3

(3) 最期を迎えたい場所について

- 最期を迎えたい場所について、「自宅（親族・知人の家も含む）」が55.5%で最も多く、次いで、「病院で入院を継続」、「ホスピスなどの緩和ケア施設」、「特別養護老人ホームなどの介護施設」となっています。

【最期を迎えたい場所】



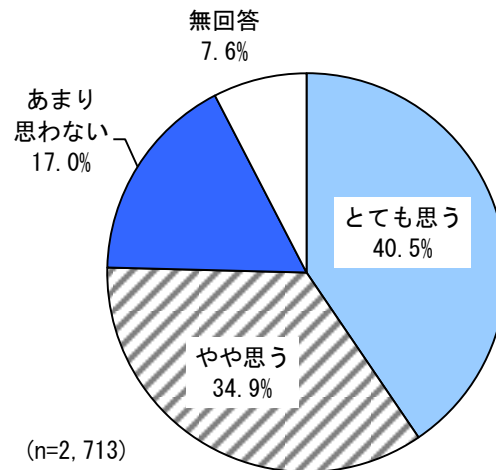
単位：%

		母数 (n)	最期を迎えたい場所					
			（自宅 親族・ 知人の 家も含む）	介護施設 特別養護 老人ホーム などの	病院で 入院を 継続	緩和ケア 施設 ホスピス などの	その他	無回答
全体		2,713	55.5	6.9	18.7	8.9	2.6	7.4
性年齢別	男性 前期高齢者	583	59.5	6.9	17.8	6.5	2.9	6.3
	後期高齢者	497	63.8	5.0	15.9	4.0	1.6	9.7
	女性 前期高齢者	708	50.0	8.2	18.2	15.7	2.7	5.2
	後期高齢者	917	53.1	7.1	20.8	7.7	2.7	8.5
圏域	都市中核	727	58.2	7.3	16.0	8.5	2.3	7.7
	岸和田北部	560	52.0	7.0	21.1	8.6	2.5	8.9
	葛城の谷	436	52.1	8.9	20.9	9.9	2.8	5.5
	岸和田中部	249	57.4	5.6	19.3	8.0	4.0	5.6
	久米田	347	57.3	5.2	17.6	10.1	2.0	7.8
	牛滝の谷	386	57.5	6.5	17.9	8.3	2.3	7.5
認定・該当状況	一般高齢者	1,520	55.7	6.6	18.3	9.9	2.4	7.1
	旧二次予防事業対象者	711	53.3	7.5	19.7	7.7	3.5	8.3
	要支援1・2	482	58.5	7.3	18.3	7.5	1.7	6.8

(4) 自宅療養が継続できる体制の推進について

- 自宅療養が継続できる体制を社会全体で進めていくべきかについて、「とても思う」と「やや思う」を合わせた“思う”と感じている人は全体の75.4%となっており、一方、「あまり思わない」と感じている人は17.0%となっています。
- 性年齢別にみると、男性の後期高齢者では、“思う”と感じている人は8割を占めています。

【自宅療養が継続できる体制の推進】



単位：％

		母数 (n)	自宅療養が継続できる体制の推進				思 う（再 掲） の 合 計
			と も も 思 う	や や 思 う	あ ま り 思 わ な い	無 回 答	
全体		2,713	40.5	34.9	17.0	7.6	75.4
性年齢別	男性 前期高齢者	583	37.9	37.4	19.2	5.5	75.3
	後期高齢者	497	49.1	31.0	11.1	8.9	80.1
	女性 前期高齢者	708	35.5	38.3	20.1	6.2	73.8
	後期高齢者	917	41.5	32.9	16.2	9.3	74.4
圏域	都市中核	727	43.6	34.3	14.2	8.0	77.9
	岸和田北部	560	35.9	34.1	21.1	8.9	70.0
	葛城の谷	436	38.8	36.7	18.8	5.7	75.5
	岸和田中部	249	36.1	35.7	20.9	7.2	71.8
	久米田	347	46.4	33.7	13.5	6.3	80.1
	牛滝の谷	386	41.2	36.0	14.5	8.3	77.2
認定・該当状況	一般高齢者	1,520	38.1	37.1	17.3	7.5	75.2
	旧二次予防事業対象者	711	43.7	30.0	18.0	8.3	73.7
	要支援１・２	482	43.6	35.3	14.3	6.8	78.9

単位：%

10. 総括

(1) 回答者の属性・住まいの状況

- 回答者の属性について、男性が1,080人、女性が1,625人と女性の方が多く、前期高齢者が1,291人、後期高齢者が1,414人となっています。回答者に占める認定者（要支援1・2の人）の割合は17.8%です。
- 家族構成について、一人暮らしが約2割、夫婦2人暮らし世帯が約4割となっており、合わせると約6割以上が高齢者のみの世帯となっています。女性の後期高齢者、要支援1・2の人に一人暮らしの人が多く、地域における見守りが必要となっています。
- 経済状況について、約3割の人が経済的に苦しいと回答しており、圏域別にみると、都市中核、牛滝の谷では、比較的経済的なゆとりを感じている人の割合が高くなっています。
- 住まいの状況について、持家の人が約8割を占めており、賃貸住宅の人は岸和田北部で多くなっています。

(2) 介護の現状

- 介護・介助の必要性について、加齢に伴い介護・介助の必要性が高まる傾向があります。また、要介護認定を受けていない旧二次予防事業対象者においても約2割が介護・介助の必要性を感じており、この層の動向が今後、要介護者の増加に大きな影響を与えることが考えられます。
- 介護・介助が必要になった原因について、骨折・転倒、高齢による衰弱の割合が高くなっています。生活機能の維持が重要であることから、早期発見、治療を通じて重度化予防に努める必要があります。
- 主な介護者について、配偶者が20.7%、息子9.7%、娘14.1%、その他、子の配偶者、孫、兄弟・姉妹を合わせると家族による介護が53.3%を占めていますが、女性の後期高齢者では配偶者の割合が大きく下がり、介護サービスのヘルパーによる介護が増加しています。また、家族構成別にみると、一人暮らしで介護サービスのヘルパーの割合が高く、女性の後期高齢者に一人暮らしが多いことが関係していると考えられます。

(3) 運動・外出について

- 階段を手すりや壁をつたわずに昇ることや、椅子からの立ち上がり、15分続けた歩行について、できるにもかかわらずしていない人が回答者の1割から2割を占めており、また、運動器機能の低下リスク該当者は、加齢につれて割合が高くなる傾向がみられます。介護予防の観点からも日常生活の中で身体機能を維持するための取組みが重要です。
- 転倒リスクについて、旧二次予防事業対象者でリスク該当者が大きく増加しており、転倒経験のある人の約8割が不安を抱えています。また、外出を控えている人のうち、足腰などの痛みを理由としている人が約6割、交通手段がない人が約2割を占めています。閉じこもりのリスク該当者に、外出の際に自動車（人に乗せてもらう）やタクシーを移動手段とする人が多くみられることから、閉じこもりを解消するためには転倒や足腰の痛みなどに配慮しつつ、安全な交通手段の確保が必要であると考えられます。

(4) 口腔・栄養について

- BMI が 18.5 未満の人は 7.3%、低栄養のリスク該当者は非認定者では 0.9%、全体では 1.6%となっています。
- 日常生活において高齢者がいつまでも「食」を楽しみ、自立した生活を送って、生活の質（QOL）の高い生涯を過ごすために、食育を進めるとともに、定期的な健診時の把握や、介護保険、介護保険以外のサービスを活用した支援を通じて、低栄養状態の予防や改善を行う必要があります。
- 口腔機能の低下リスク該当者は非認定者では 24.2%、全体では 30.0%となっています。80 歳（80～84 歳）で自歯が 20 本以上ある人は男性 15.3%、女性 16.8%に留まっています。また、入れ歯を約 6 割の人が利用しており、噛み合わせが悪い人が 2 割以上、毎日歯磨きをしない人が 1 割弱と回答されています。定期的な清掃を行い、口腔内の状態を良好に保つことで肺炎などの予防に努め、さらに義歯を含めた歯で食べ物をしっかり噛むことができれば栄養状態も良好になると考えられています。その他、よく噛むことで脳が活性化され、認知症のリスクが軽減するとも言われています。
- 誰かと食事をともにする機会について、毎日ある人が約半数を占めている一方、44.5%の人に孤食の場合がみられます。さらに一人暮らしでは、18.5%の人が誰かと食事することはほとんどないと回答しており、閉じこもりのリスク該当者にも 14.4%みられます。今後も高齢化の進展とともに孤食の高齢者が増加することが予測されることから、サロンや通所介護などを活用し、誰かと食事する機会を増やすことを通じて、高齢者の社会的孤立や閉じこもりの防止につなげることも大切です。

(5) 日常生活について

- 認知機能の低下リスクの該当者は 50.8%となっており、特に後期高齢者や旧二次予防事業対象者で該当者の割合が高くなっています。リスク該当者は旧二次予防事業対象者で約 7 割を占めており、健診などを通じて早期に発見、治療を行うことが認知機能の維持改善につながると考えられます。
- IADL の得点をみると、低いと判定された人が一般高齢者では 1.8%であったの対し、旧二次予防事業対象者では 10.8%、要支援 1・2 の人では 28.6%と割合が増加し、また、食品や日用品の買物ができないとの回答は 2 割以上となっており、支援が必要と言えます。
- 総合事業対象者をみると、知的能動性、社会的役割では 2 人に 1 人は“低い”と判定されています。高齢者が社会的な役割を担い、新たなことにチャレンジすることで、生活機能が改善することを期待し、新たな総合事業が開始されようとしています。人口減少社会において、趣味や生きがいを持った元気な高齢者が活躍する機会と場の創出が求められています。

(6) 社会参加について

- 地域活動への参加について、男女共に趣味関係のグループへの参加率が比較的高くなっています。
- 地域づくり活動について、回答者全体で参加意向のある人は 49.5%、お世話役として参加意向のある人は 26.5%となっています。一般高齢者と、旧二次予防事業対象者、要支援 1・

2の人を比べると、地域づくりの活動に参加者として“参加する”人は56.5%、41.9%、38.3%であり、またお世話役として“参加する”人は32.3%、19.7%、18.3%となっています。参加者としては要支援1・2の人においても約4割の参加意向があることから、地域づくり活動への参加を呼び掛けると共に、活動を通じて生活機能が改善した場合は、お世話役として活躍できるよう、継続的な参加につなげていく必要があります。

- 友人・知人との関係について、約6割の人が月に何度か以上友人・知人と会う機会があると回答しています。内訳をみると、前期高齢者では男女共に10人以上との回答が多く、一方、後期高齢者では男女共に3～5人が最も多くなっています。関係については、男性の前期高齢者は仕事での同僚・元同僚が多く、後期高齢者となると近所・同じ地域の人との割合が高くなりますが、同世代の女性と比べると19.1ポイント以上下回っています。退職した男性が地域にとけこみ、自身の経験や趣味などを通じて、友人・知人との関係を築ききっかけづくりが求められています。

(7) 健康について

- 主観的健康感について、自身の健康状態をよいと感じている人は7割を超えており、男女共に前期高齢者で健康感が高くなっています。
- 調査結果からもこころの健康とからだの健康とは随所に関連性がみられます。からだの健康を保つことで幸福感も高まり、また心配事や愚痴を聞き合うなど周囲との関係が多様な人ほど、うつリスク該当者が少なくなる傾向がみられます。からだを健康に保ち、周囲や地域の人との相互関係を構築することが、うつ予防につながると考えられます。
- 自ら健康のために心がけていることでは、かかりつけ医による定期健診等を挙げる人が多く、その他、栄養バランスや口腔ケア、体操や散歩などの取組みが挙げられています。心身の健康を保ち健康寿命を延伸するためには、自分の健康は自分で守るとの認識のもと、定期健診の受診や生活習慣の改善を図る必要があります。

(8) 在宅医療について

- かかりつけ医の有無について、8割以上の方がかかりつけ医がいると回答しています。高齢者に必要な医療・介護を過不足なく提供し続けていくためには、かかりつけ医を軸とした地域医療連携の推進、体制づくりが重要であると考えられます。
- 医療や介護が必要になった時に過ごしたい場所については、自宅（親族・知人の家も含む）が約4割を占めており、最期を迎えたい場所についても自宅（親族・知人の家も含む）が半数以上を占めています。自宅で療養を継続できる体制を社会全体で進めていくべきかについては、7割以上の方が「思う」と感じています。このことから、住み慣れた環境でできるだけ長く過ごせるように、在宅医療・介護を推進していく必要があります。

岸和田市
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
アンケート調査票

平成 28 年度

岸和田市介護予防・日常生活圏域二一ズ調査報告書

発 行 岸和田市
〒596-8510
大阪府岸和田市岸城町 7 番 1 号
電話 072-423-2121（代表）

(単純集計版)

在宅介護実態調査の集計結果

～第7期介護保険事業計画の策定に向けて～

平成29年4月

<岸和田市>

目次

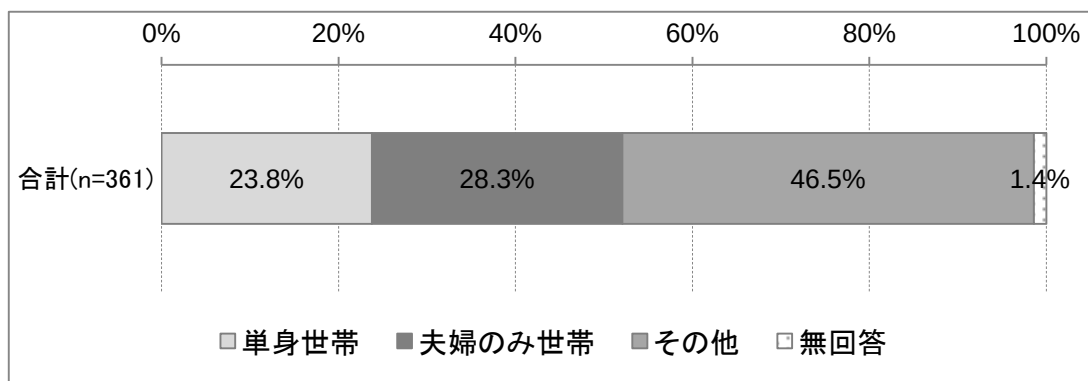
1 基本調査項目（A票）	[P. 1]
(1) 世帯類型	[P. 1]
(2) 家族等による介護の頻度	[P. 1]
(3) 主な介護者の本人との関係	[P. 2]
(4) 主な介護者の性別	[P. 2]
(5) 主な介護者の年齢	[P. 3]
(6) 主な介護者が行っている介護	[P. 4]
(7) 介護のための離職の有無	[P. 5]
(8) 保険外の支援・サービスの利用状況	[P. 5]
(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス	[P. 6]
(10) 施設等検討の状況	[P. 6]
(11) 本人が抱えている傷病	[P. 7]
(12) 訪問診療の利用の有無	[P. 7]
(13) 介護保険サービスの利用の有無	[P. 8]
(14) 介護保険サービス未利用の理由	[P. 8]
2 主な介護者様用の調査項目（B票）	[P. 9]
(1) 主な介護者の勤務形態	[P. 9]
(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況	[P. 9]
(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援	[P. 10]
(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識	[P. 10]
(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護	[P. 11]
3 要介護認定データ	[P. 12]
(1) 年齢	[P. 12]
(2) 性別	[P. 12]
(3) 二次判定結果（要介護度）	[P. 13]
(4) サービス利用の組み合わせ	[P. 13]
(5) 訪問系サービスの合計利用回数	[P. 14]
(6) 通所系サービスの合計利用回数	[P. 15]
(7) 短期系サービスの合計利用回数	[P. 16]
(8) 障害高齢者の日常生活自立度	[P. 16]
(9) 認知症高齢者の日常生活自立度	[P. 17]

※図表タイトルの「★」は、オプション調査項目であることを示しています。

1 基本調査項目（A票）

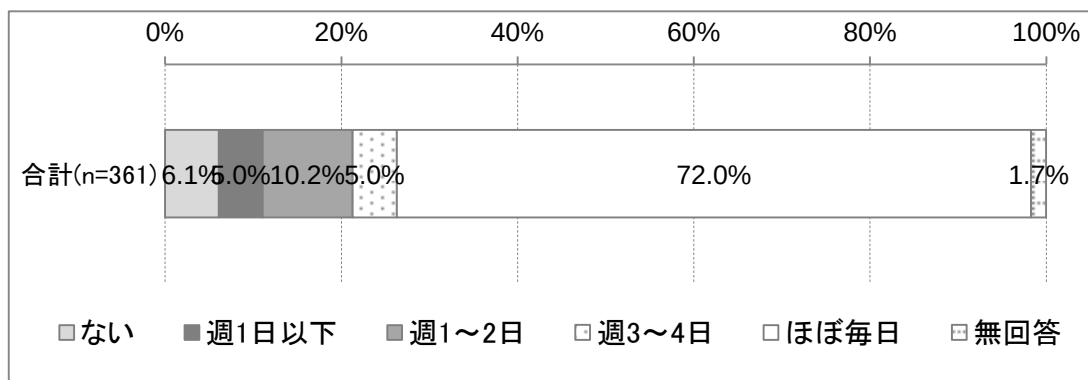
(1) 世帯類型

図表 1-1 世帯類型（単数回答）



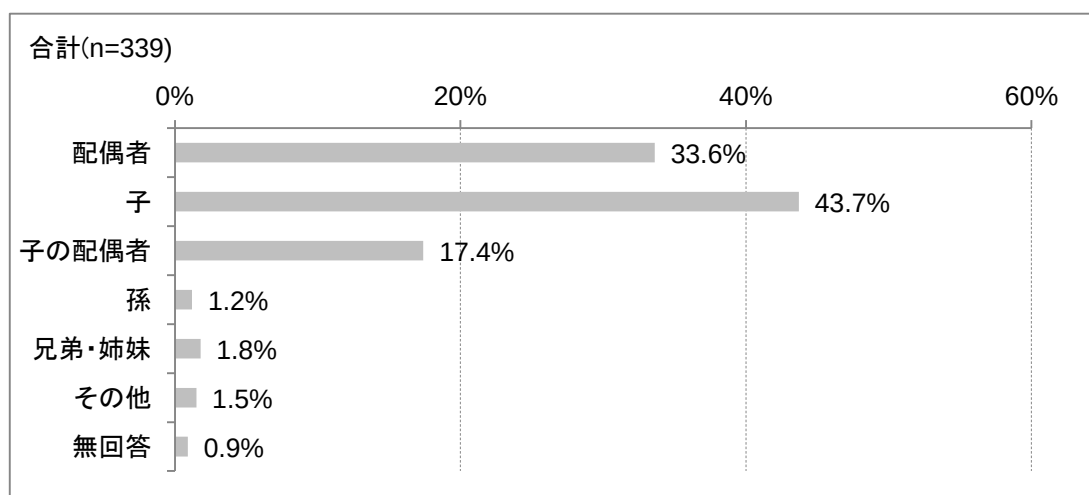
(2) 家族等による介護の頻度

図表 1-2 家族等による介護の頻度（単数回答）



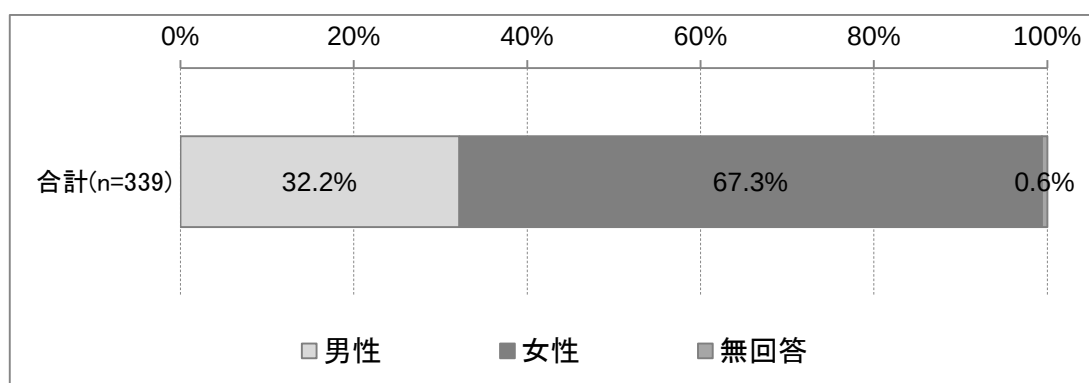
(3) 主な介護者の本人との関係

図表 1-3 ★主な介護者の本人との関係（単数回答）



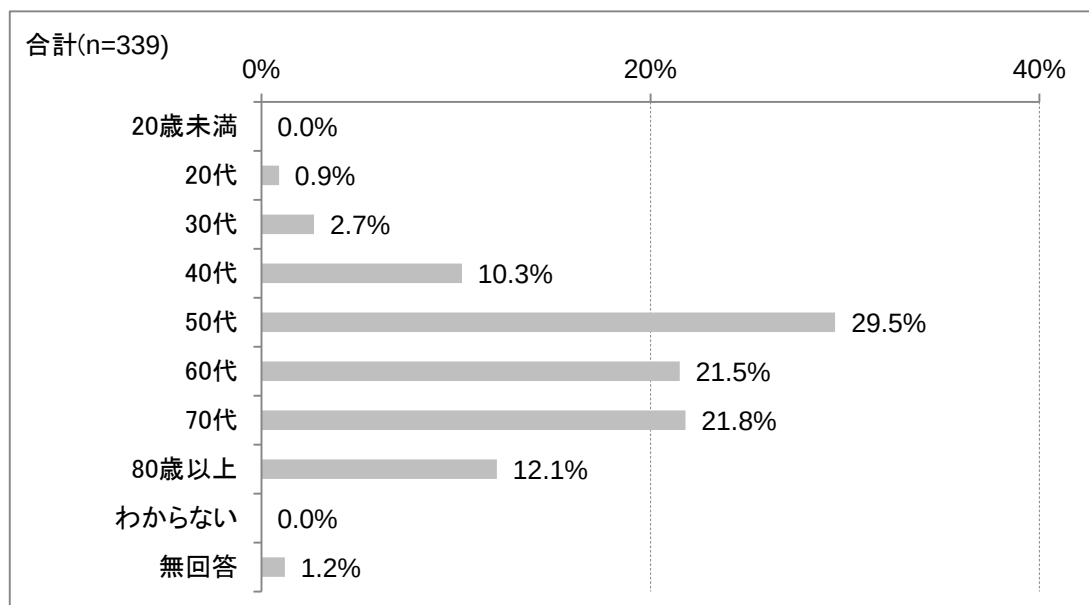
(4) 主な介護者の性別

図表 1-4 ★主な介護者の性別（単数回答）



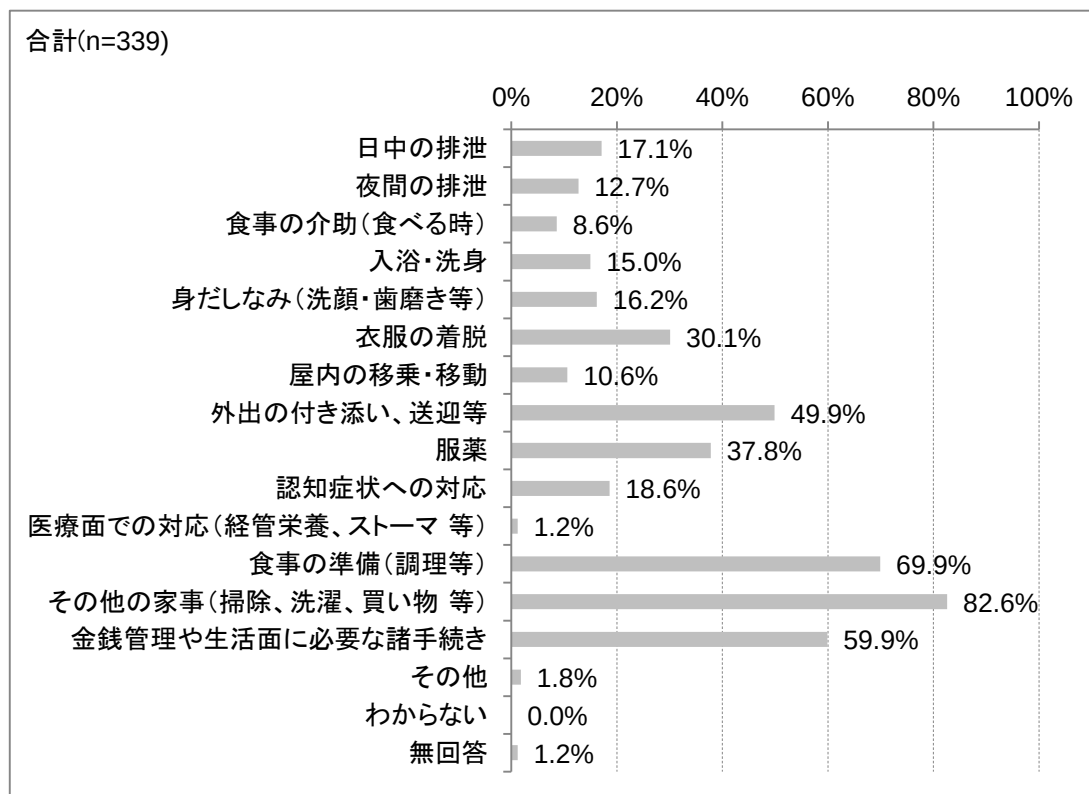
(5) 主な介護者の年齢

図表 1-5 主な介護者の年齢（単数回答）



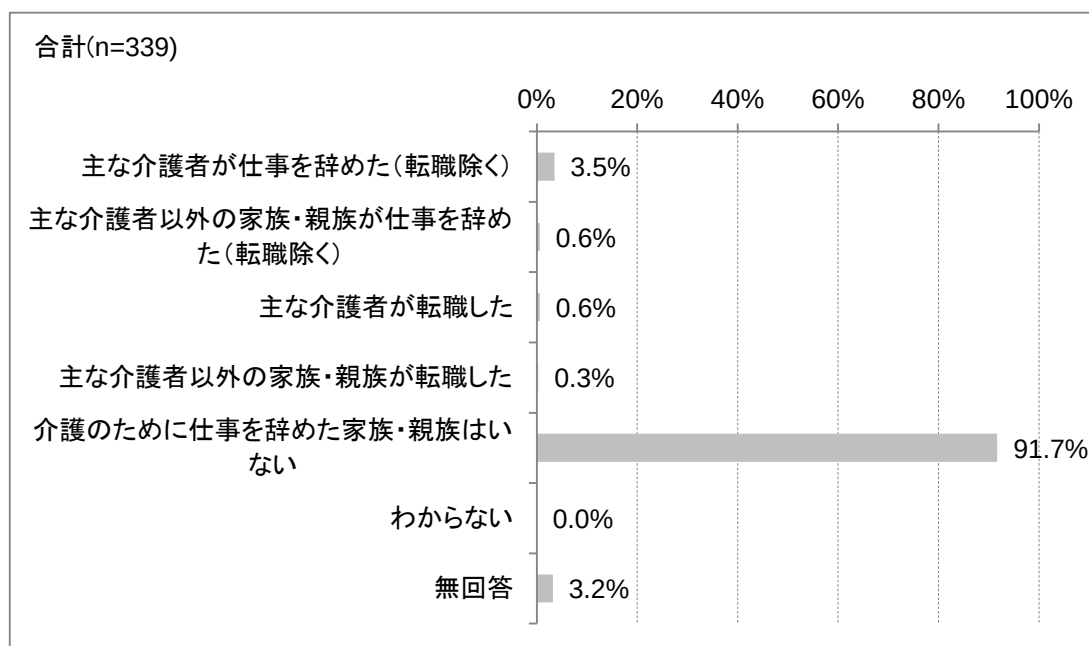
(6) 主な介護者が行っている介護

図表 1-6 ★主な介護者が行っている介護（複数回答）



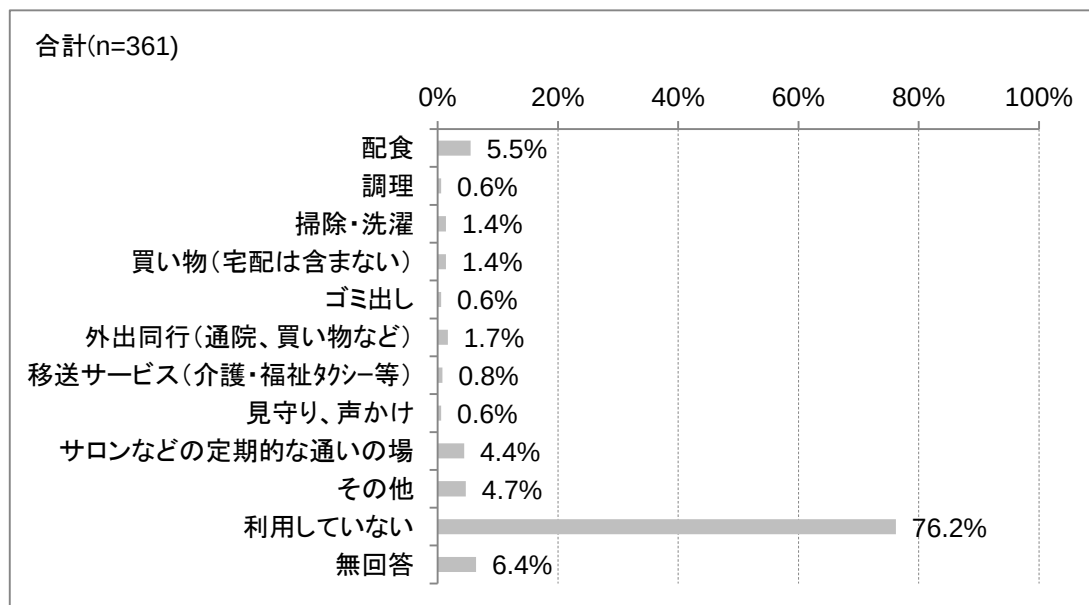
(7) 介護のための離職の有無

図表 1-7 介護のための離職の有無（複数回答）



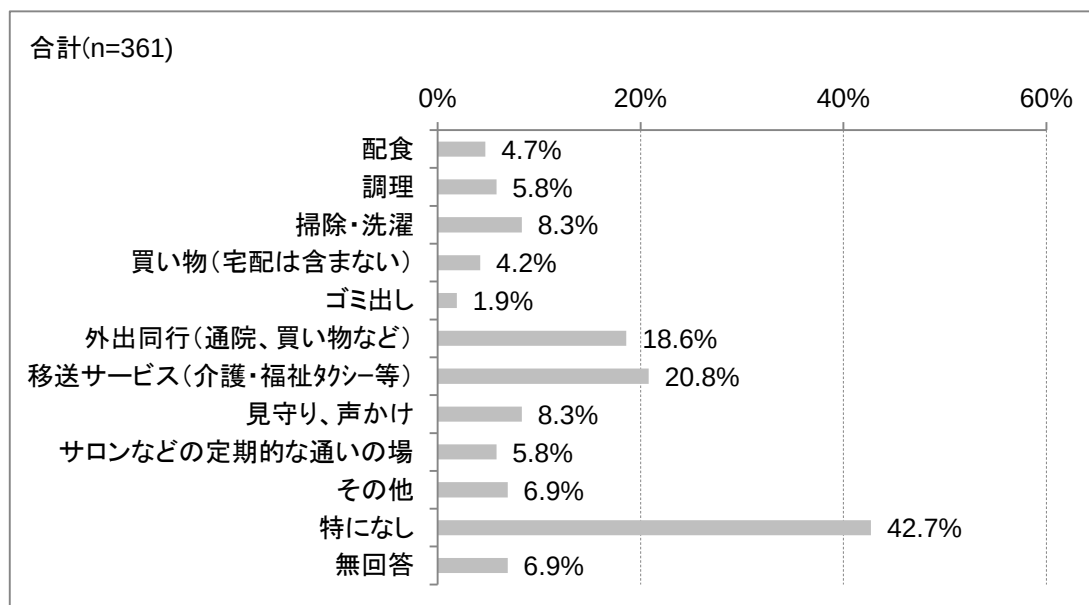
(8) 保険外の支援・サービスの利用状況

図表 1-8 ★保険外の支援・サービスの利用状況（複数回答）



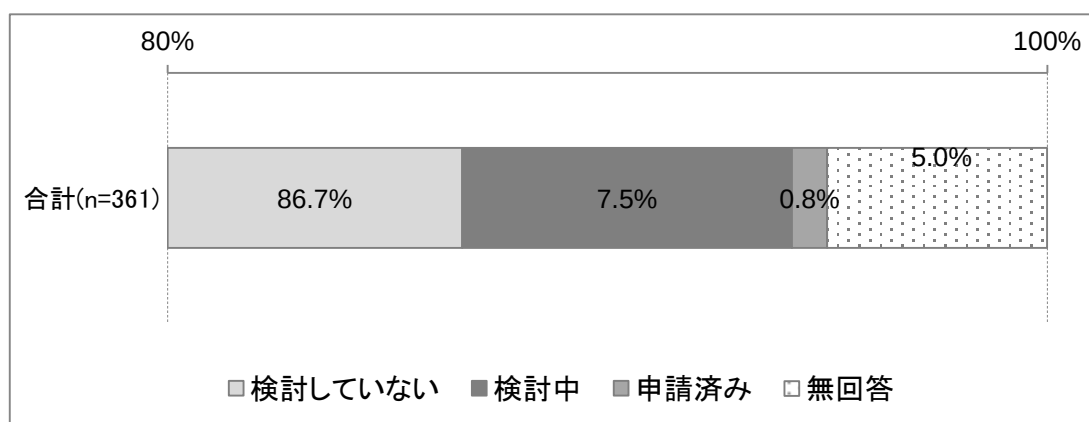
(9) 在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

図表 1-9 ★在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス（複数回答）



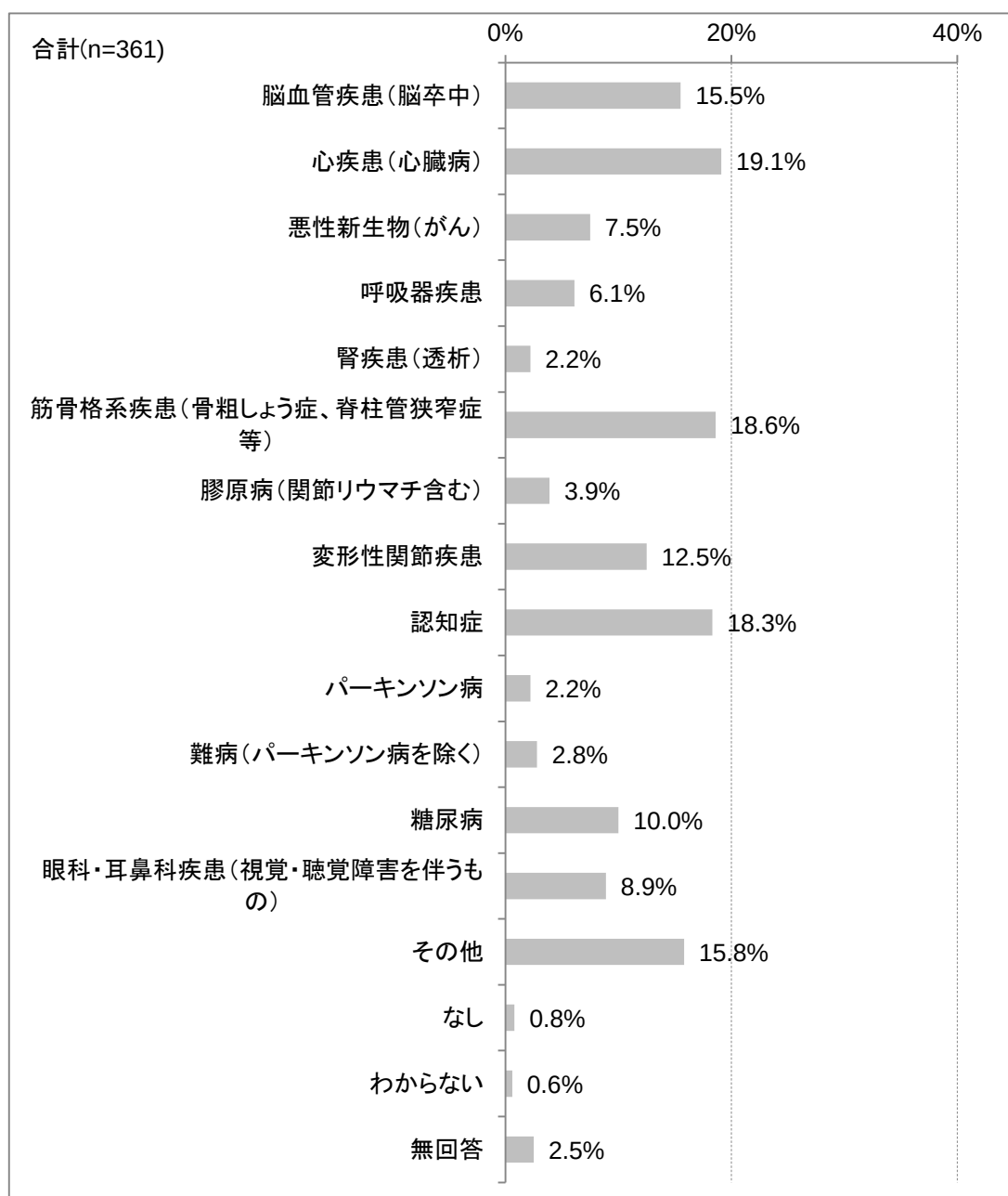
(10) 施設等検討の状況

図表 1-10 施設等検討の状況（単数回答）



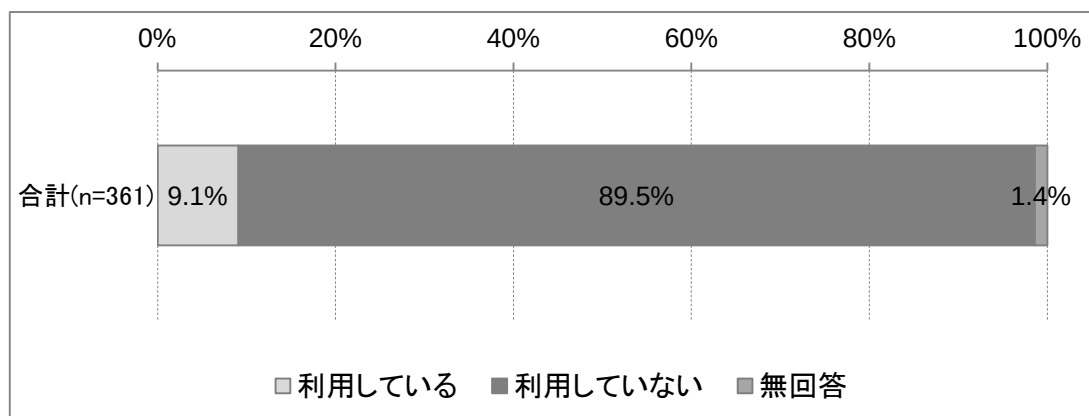
(11) 本人が抱えている傷病

図表 1-11 ★本人が抱えている傷病（複数回答）



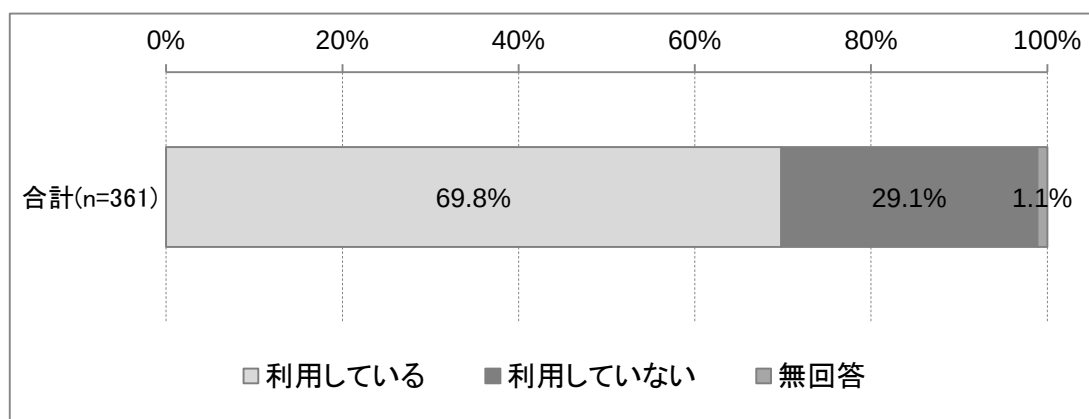
(12) 訪問診療の利用の有無

図表 1-12 ★訪問診療の利用の有無（単数回答）



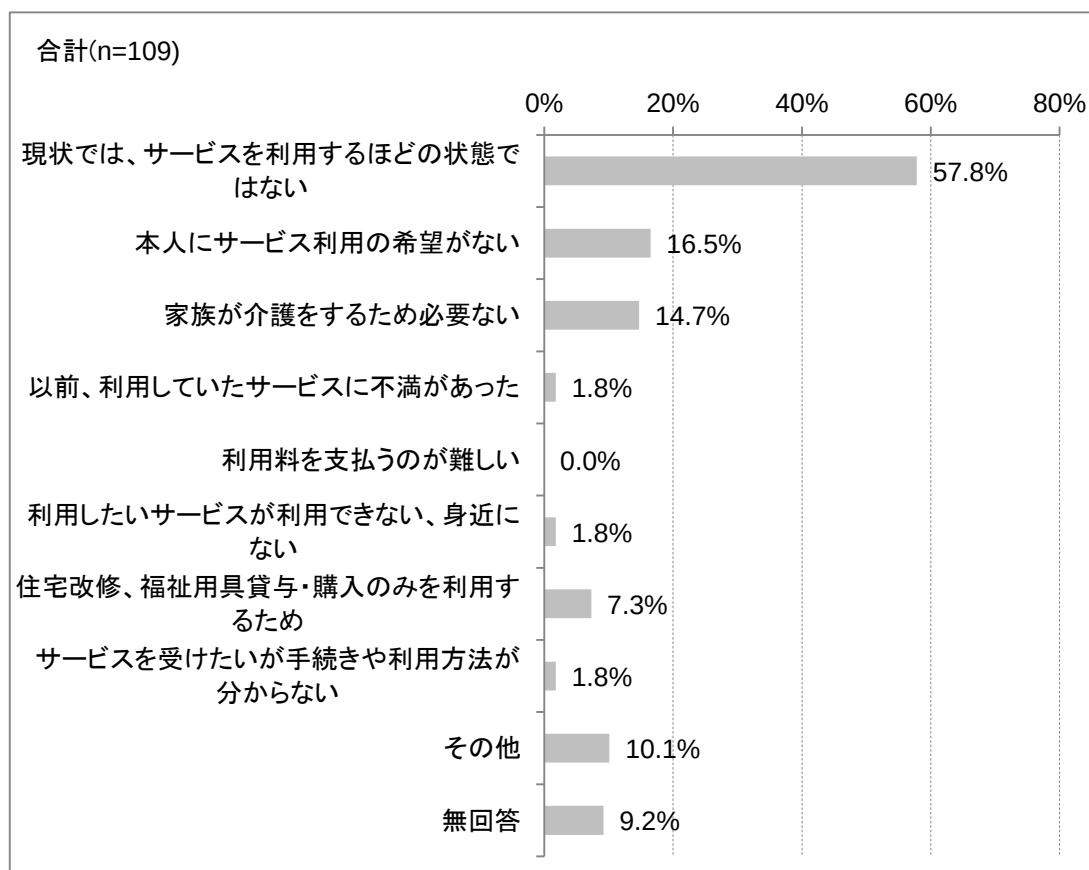
(13) 介護保険サービスの利用の有無

図表 1-13 ★介護保険サービスの利用の有無（単数回答）



(14) 介護保険サービス未利用の理由

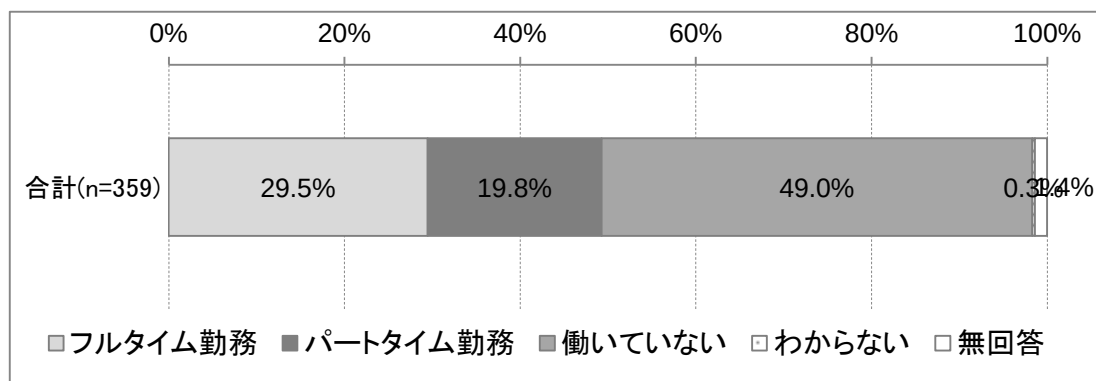
図表 1-14 ★介護保険サービスの未利用の理由（複数回答）



2 主な介護者様用の調査項目（B票）

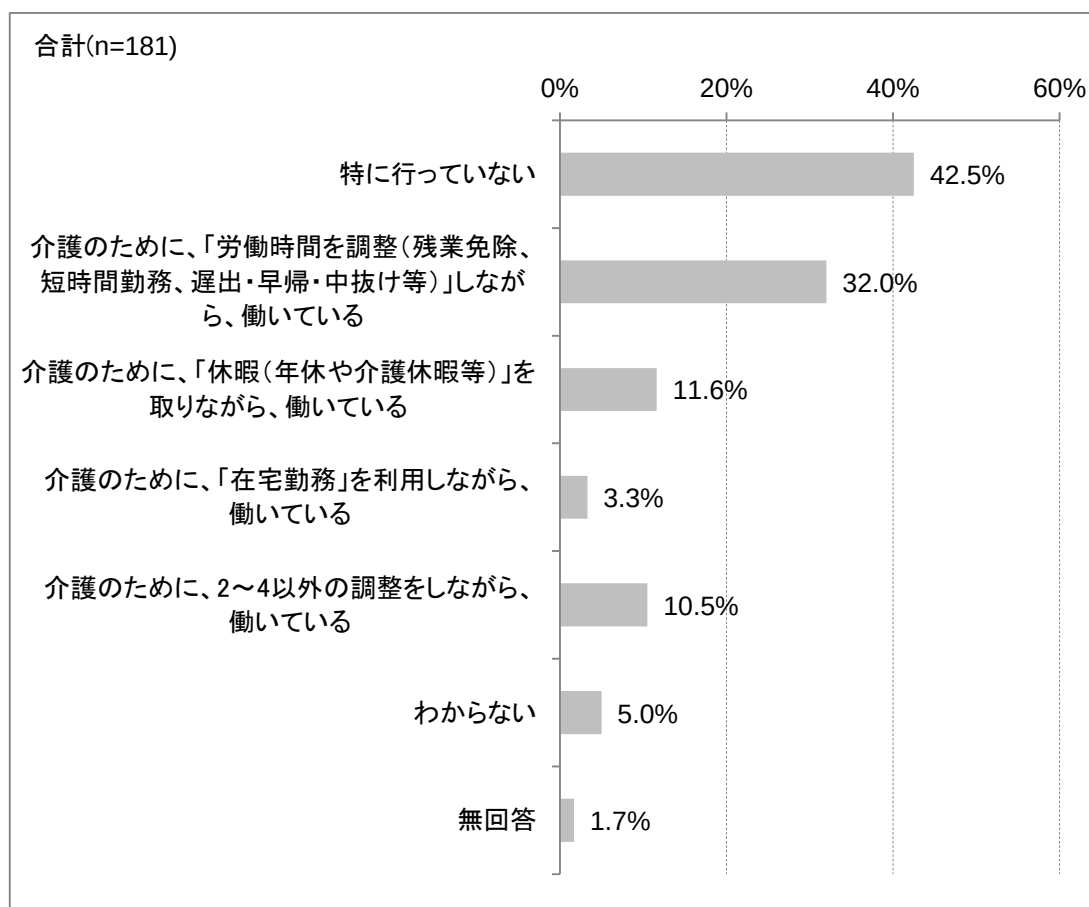
(1) 主な介護者の勤務形態

図表 2-1 主な介護者の勤務形態（単数回答）



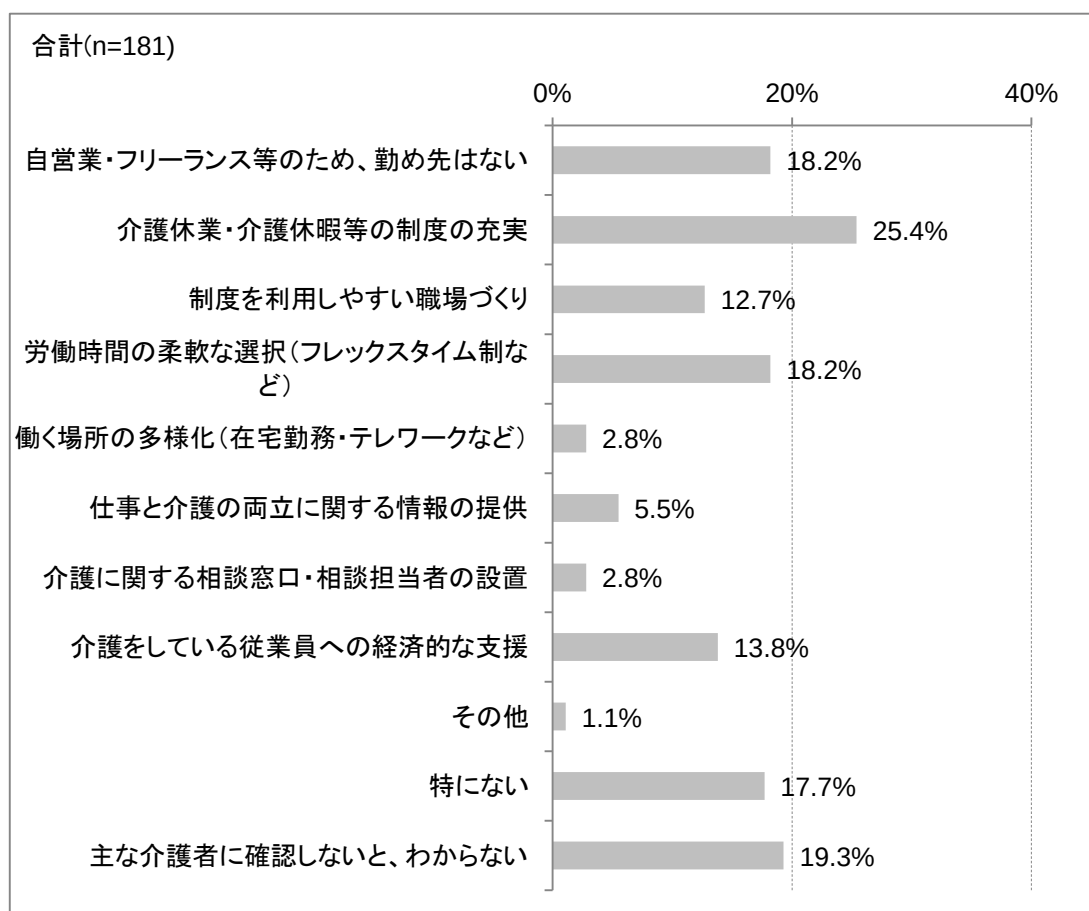
(2) 主な介護者の方の働き方の調整の状況

図表 2-2 主な介護者の働き方の調整状況（複数回答）



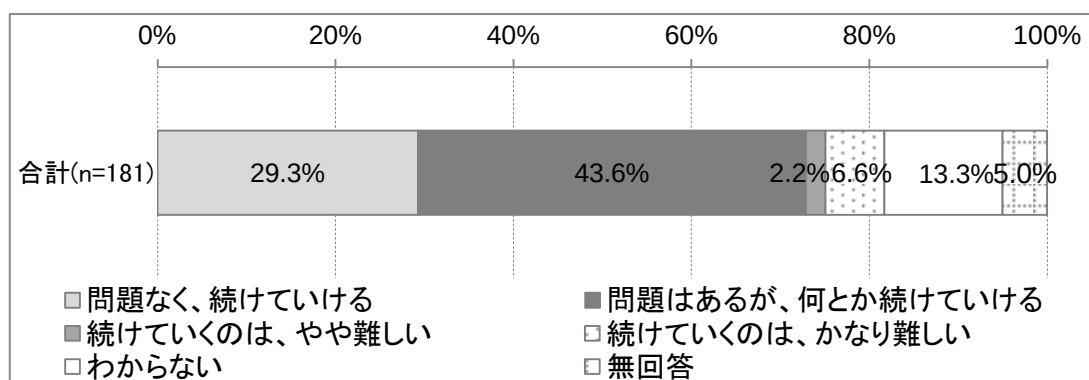
(3) 就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援

図表 2-3 ★就労の継続に向けて効果的であると考えられる勤め先からの支援（複数回答）



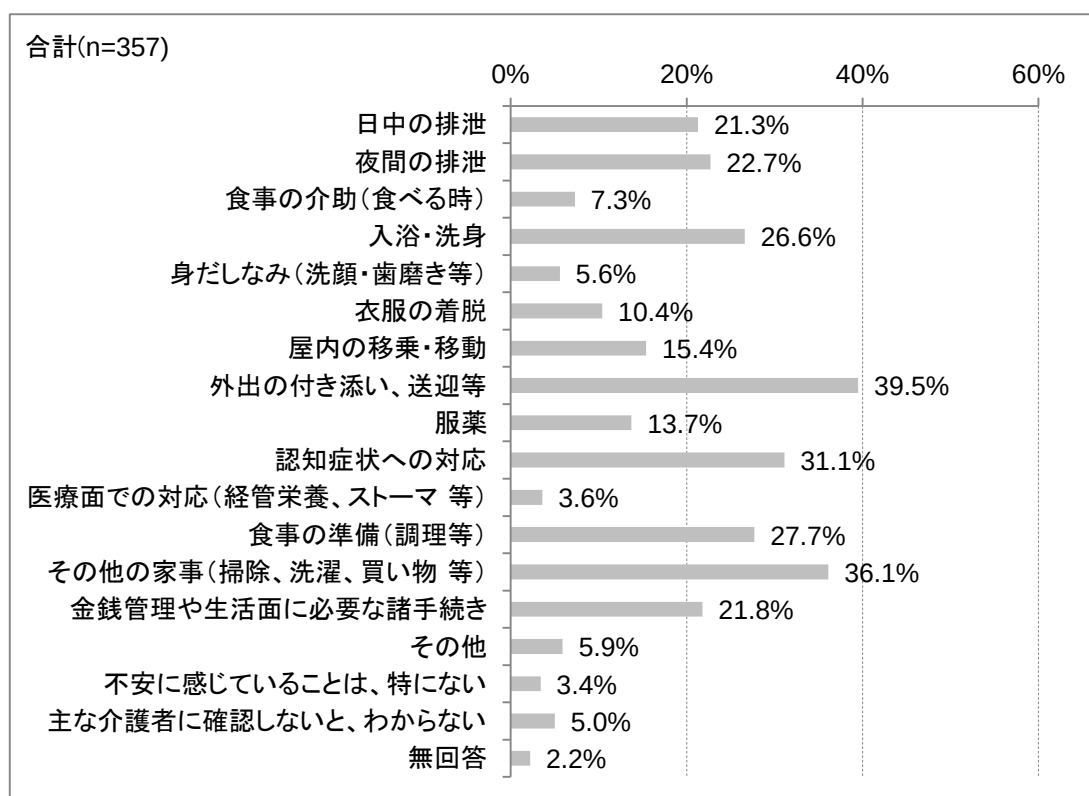
(4) 主な介護者の就労継続の可否に係る意識

図表 2-4 主な介護者の就労継続の可否に係る意識（単数回答）



(5) 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護

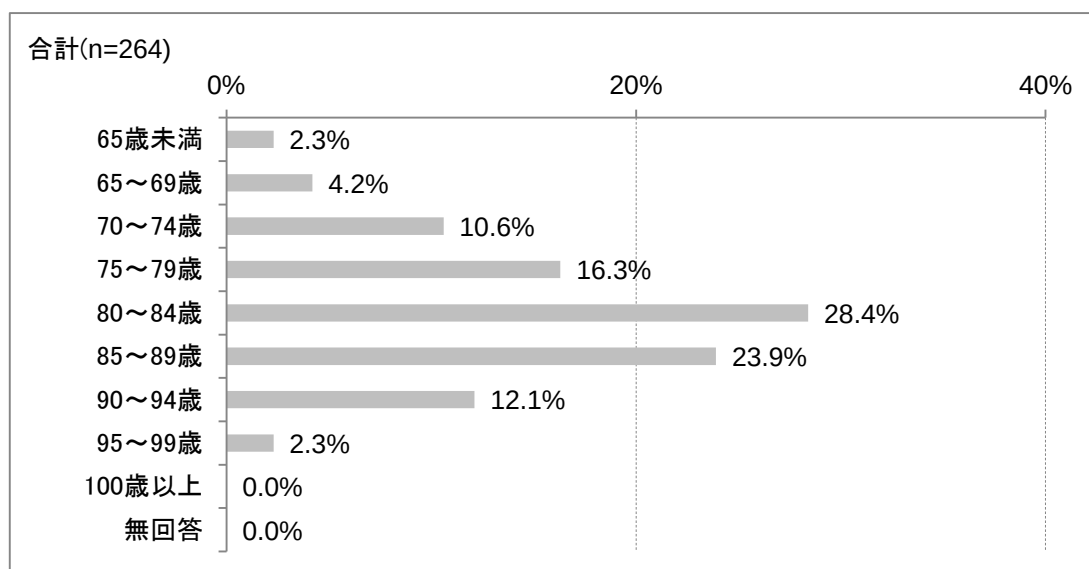
図表 2-5 今後の在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じる介護（複数回答）



3 要介護認定データ

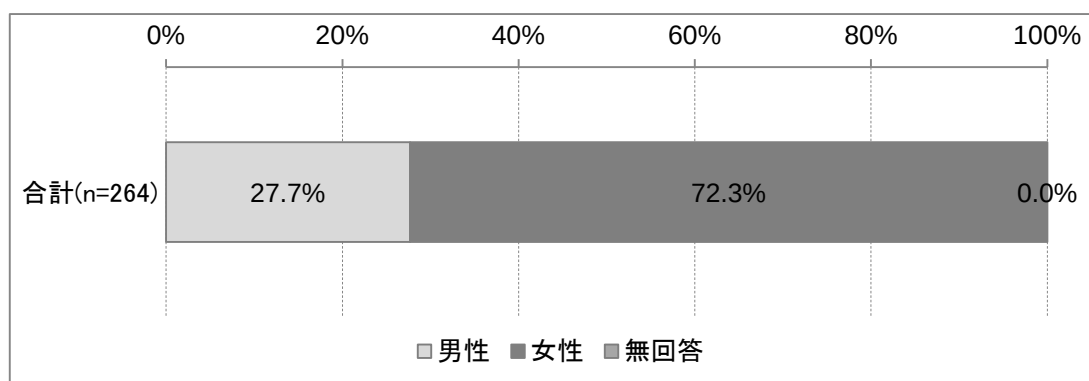
(1) 年齢

図表 3-1 年齢



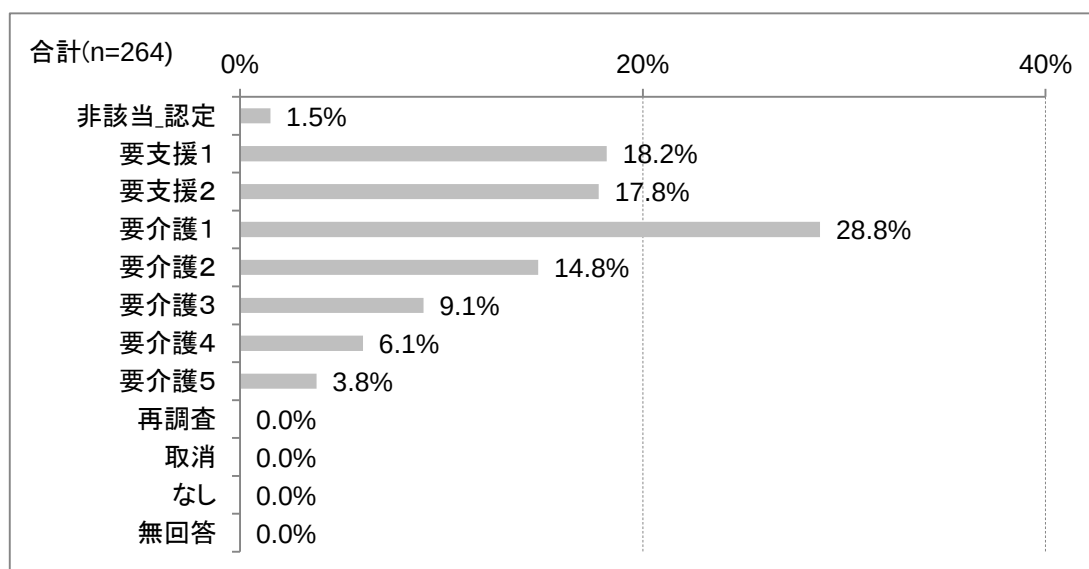
(2) 性別

図表 3-2 性別



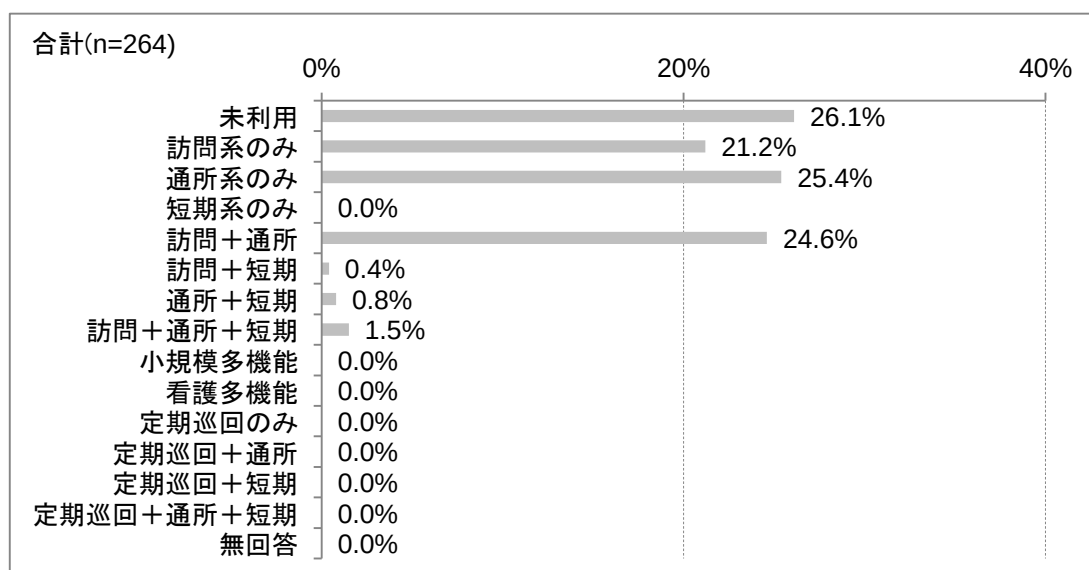
(3) 二次判定結果（要介護度）

図表 3-3 二次判定結果



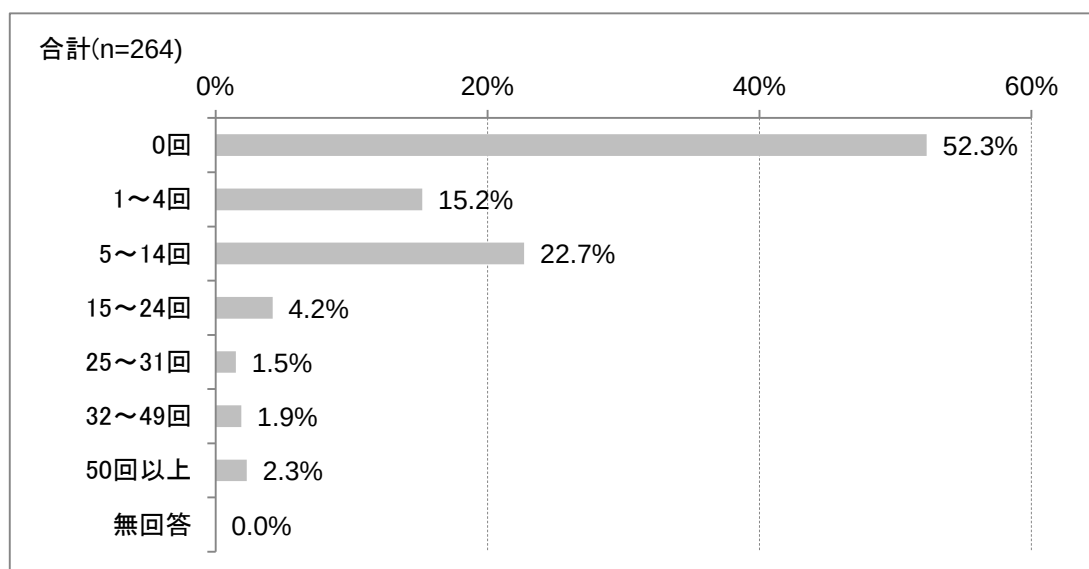
(4) サービス利用の組み合わせ

図表 3-4 サービス利用の組み合わせ



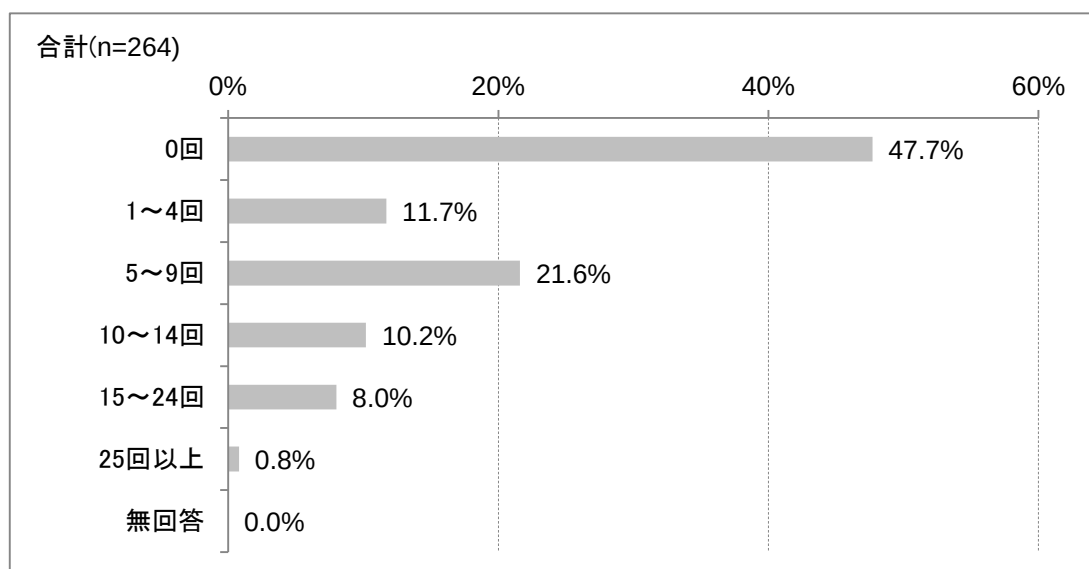
(5) 訪問系サービスの合計利用回数

図表 3-5 サービスの利用回数（訪問系）



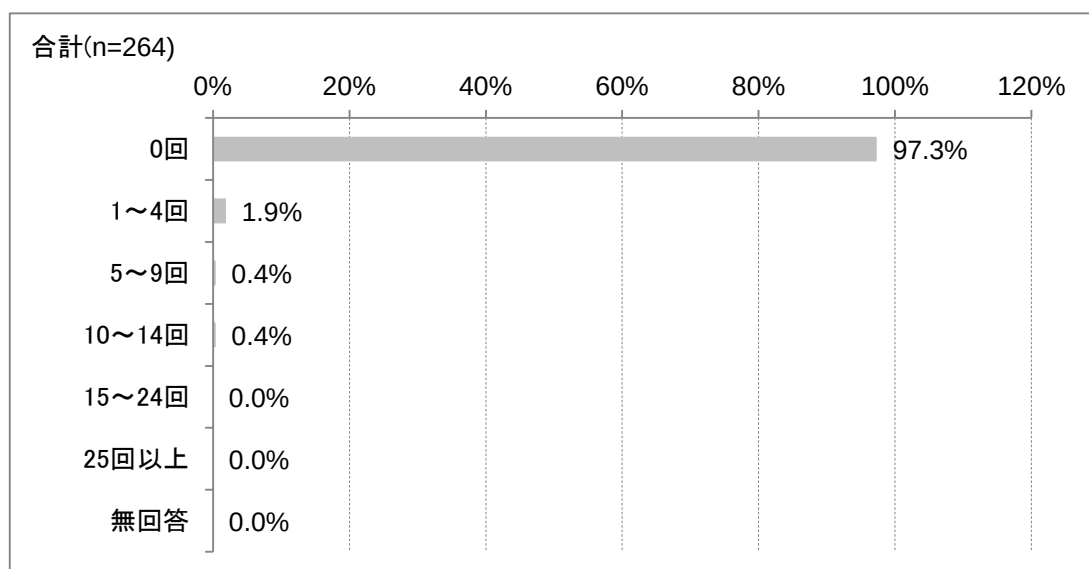
(6) 通所系サービスの合計利用回数

図表 3-6 サービスの利用回数（通所系）



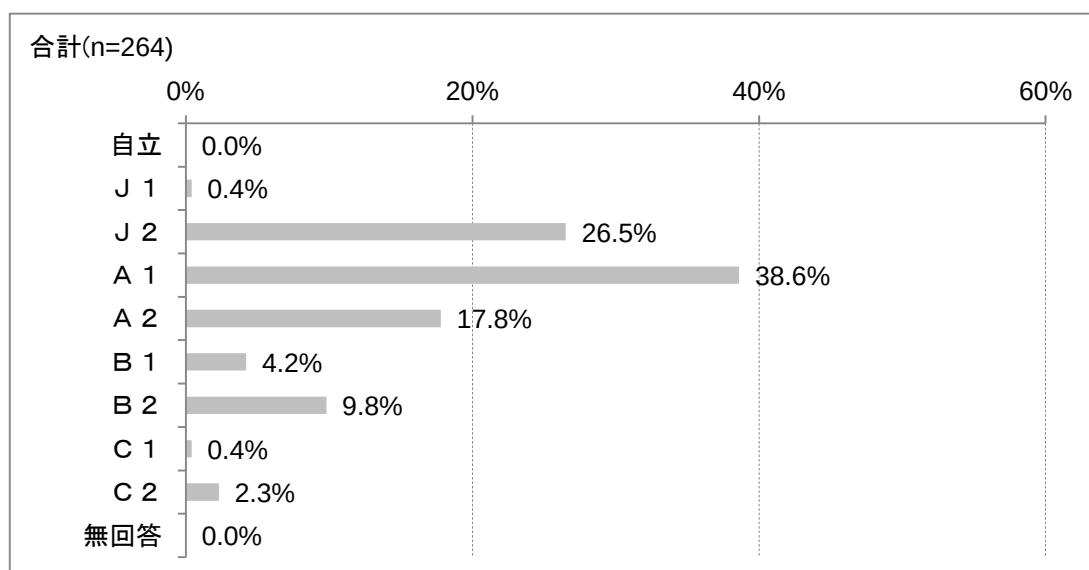
(7) 短期系サービスの合計利用回数

図表 3-7 サービスの利用回数（短期系）



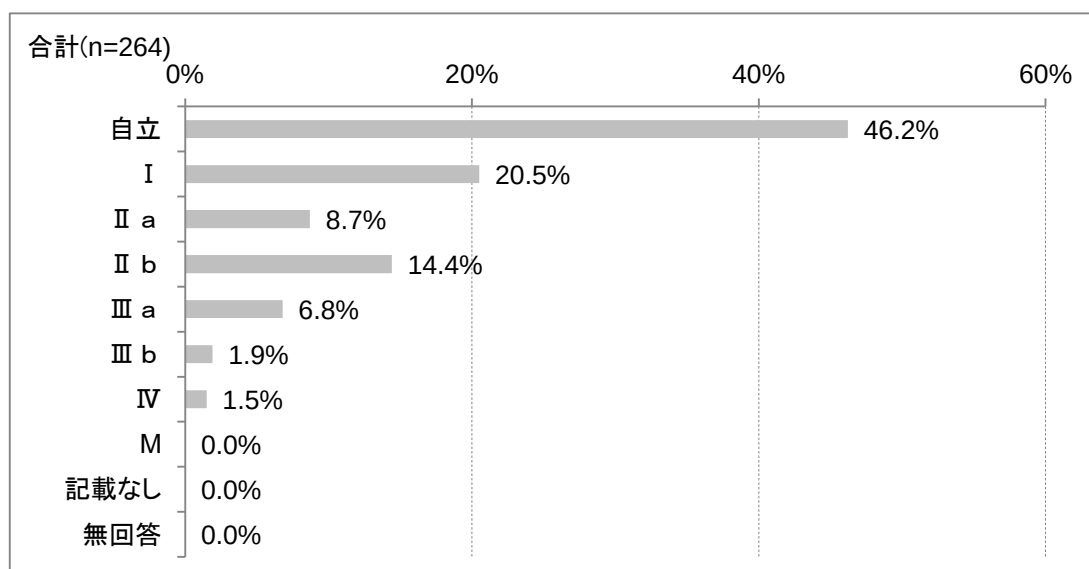
(8) 障害高齢者の日常生活自立度

図表 3-8 障害高齢者の日常生活自立度



(9) 認知症高齢者の日常生活自立度

図表 3-9 認知症高齢者の日常生活自立度



平成 29 年度 岸和田市地域包括支援センター事業計画書

1. 目的

岸和田市地域包括支援センターは、地域の高齢者の心身の健康の保持及び生活の安定のための必要な援助を行うことにより、地域の保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的として、地域包括ケアシステムの構築にむけて一体的に実施する役割を担う中核的機関として設置する。

2. 基本方針

地域包括支援センターは、岸和田市における、地域包括ケアを有効に機能させるため、公正で中立性の高い事業運営を行う。

地域包括支援センターには、保健師、看護師、主任介護支援専門員、社会福祉士等の専門職を配置し、その知識を生かしながら、情報共有及び相互に連携するとともに、地域における様々な社会資源の活用を図り、高齢者が住み慣れた地域で尊厳あるその人らしい生活を継続することができるよう、地域包括ケアの実現を目指す。

また、介護予防・日常生活支援総合事業において、要支援認定者等への効果的かつ効率的な支援のとりくみを進める。

地域包括支援センター社協は 6 包括の基幹的な役割を担う。

3. 地域包括支援センターの業務について

(1) 介護予防・日常生活支援総合事業の取り組み

① 介護予防ケアマネジメント（第 1 号介護予防支援事業）

高齢者が介護を要する状態となっても、住み慣れた地域で、その人らしい生活を継続していくことができるよう、利用者が介護予防の取り組みを自身の生活に取り入れ、自身で評価し、実施できるよう支援していく。対象者への適切なサービスの提供のため、サービス選択会議での助言等の支援も行う。

平成 28 年度の取り組み

平成 29 年 4 月総合事業開始に向けて、市の課題・方向性を協議する会議に参画し、市とともに「介護予防ケアマネジメント基本方針」を立てた。また、市とともに介護支援専門員や介護保険サービス事業所への支援業務として、事業内容・方針の周知、事務手続等の説明会を実施した。

平成 29 年度重点項目

- 1 総合事業の制度内容・方針等の地域（市民）への周知
- 2 介護予防ケアマネジメント基本方針に基づくケアプラン作成のため介護支援専門員を支援
- 3 住民主体サービス B などその他の総合事業のサービスの検討

② 一般介護予防

65 歳以上のすべての高齢者を対象に、気軽に参加できる身近な場所で、住民主体の通いの場「いきいき百歳体操」を普及させ、加齢に伴う運動器の機能低下や転倒などによる骨折の防止、また、健康増進の意識醸成を行う。

平成 28 年度の取り組み

○各圏域（6ヶ所）において開催した「フレッシュらいふ教室」への協力、支援。

○「いきいき百歳体操」の実施団体・グループの開拓、自主活動への支援

実施団体・グループ（参加者数）の推移

	実施グループ数	参加者数
平成 26 年度末	3	86
平成 27 年度末	9	250
平成 28 年度末	45	915

平成 29 年度重点項目

- 1 「いきいき百歳体操」の実施団体・グループの開拓
- 2 「いきいき百歳体操」の実施団体・グループへの支援（自主活動継続のためのサポート）

（2）総合相談支援事業

地域の高齢者の様々な相談を受け入れ、適切な機関・制度・サービスにつなぎ、継続的な支援を行う。また、事後対応だけでなく、事前の早期発見、早期対応、予防的対応ができるよう地域における様々なネットワークの構築を図る。

介護離職防止のための支援として、仕事と介護の両立に不安や悩みをもつ就労者のため、地域への出張相談や土曜日の相談会の開催など相談支援体制の充実・強化を図る。

平成 28 年度の取り組み

相談件数 3, 708 件

社協	605 件	社協久米田	452 件
萬寿園中部	377 件	萬寿園葛城の谷	640 件
いなば荘北部	1, 154 件	いなば荘牛滝の谷	480 件

平成 29 年度重点項目

- 1 地域におけるネットワーク構築
- 2 援助が必要な高齢者等への個別支援と地域課題の把握
- 3 相談体制の充実・強化

<社協>

活動計画	設定目標
地域あんしんネットワーク会議・住民懇談会を各校区で開催し住民や関係機関と連携強化	各校区で会議等を年 2 回開催予定
生活支援コーディネーターと協働しサロン等へ参加し、地域課題を明確にする。	各町のサロンへ参加し地域課題を明確にする
総合相談への対応を強化し必要に応じての地域ケア会議の開催	地域での相談会の開催 サロン等で休日の相談会を開催

<社協久米田>

活動計画	設定目標
地域あんしんネットワーク会議への参画による地域ネットワークの構築	年 6 回開催予定
地域ケア会議の開催	必要に応じて開催
徘徊高齢者等見守りネットワーク登録者支援（本人、介護支援専門員への聞き取り）	個々に応じた搜索体制構築
要支援認定者の地域の傾向調査（利用サービス等の傾向を分析）	年 1 回分析を行う

<萬寿園中部>

活動計画	設定目標
サロン、いきいき百歳体操などの地域の集まりへの参加、及び住民向け勉強会の開催にて顔の見える関係を作る	地域の実情に合わせて参加
地域からの相談内容から必要に応じて地域ケア会議を開催する	2 回/年 個別ケース：適宜開催
サロン、いきいき百歳体操などの地域の集まりの場での相談会を実施する	地域の実情に合わせて実施
仕事をしている家族に対して、正確な情報提供や精神的負担の軽減が出来るようメール・電話等を活用して相談対応を行い、介護	メール、電話等で相談 受け付け出来る環境、体

離職の防止に繋げていく	制作り
-------------	-----

< 萬寿園葛城の谷 >

活動計画	設定目標
サロンや体操教室での血圧測定の実施や介護保険制度、健康講座等の「はつらつ勉強会」を開催し、予防的観点から地域全体を把握していく	地域住民の知識の向上 異常の早期発見
生活支援コーディネーターと協働しサロン等へ参加することで、地域住民が気軽に相談できる顔の見える関係を構築する	相談・支援体制の構築
総合相談に対する迅速な対応を継続し、サロンや勉強会開催後に相談会を開催する	相談の機会の確保
仕事をしている家族に対して、正確な情報提供や精神的負担の軽減が出来るようメール・電話等を活用して相談対応を行い、介護離職の防止に繋げていく	介護保険や医療制度等 に対する情報提供。 介護離職の防止

< いなば荘北部 >

活動計画	設定目標
地域見守り訪問活動への同行・実態把握 地域見守りボランティアとの情報共有・地域課題の共有化	活動報告会（各月 1 回） 対象者 95 名
集合住宅での、孤立死防止へのネットワーク構築 【府営住宅・市営住宅・UR 住宅】	緊急時連絡体制構築
独居高齢者対象訪問活動に同行 【UR 住宅職員と独居高齢者の訪問実施】	70 件×年 2 回
スーパー（ラパーク岸和田）における出張相談会の実施	毎月第 3 火曜日
市民フェスティバル（祝日）・地域交流相談会（土曜日）を開催、福祉まつり（日曜日）他、休日の相談会を企画・参加	年 5 回程度
地域ケア会議・事例検討会の開催（地域課題把握）	事例により実施
専門職間の情報共有・連携強化【専門職会議の定期開催】	毎月 1 回

< いなば荘牛滝の谷 >

活動計画	設定目標
地域リビングに参加、援助が必要な方への情報収集・支援の実施	各リビング 月 1 回程度参加
集合住宅での、孤立死防止へのネットワーク構築【府営住宅】	緊急時連絡体制構築
独居高齢者対象訪問活動に同行	各地域対象者

市民センターでの出張相談会の実施【山直市民センター】	毎月第 2 木曜日
地域交流相談会（日曜日）を開催、福祉まつり（日曜日）他、休日の相談会を企画・参加	年 3 回程度
地域ケア会議・事例検討会の開催（地域課題把握）	事例により実施
専門職間の情報共有・連携強化【専門職会議の定期開催】	毎月 1 回

（３）包括的・継続的ケアマネジメント業務

多様な課題を抱えている高齢者が地域で安心して生活を継続するため、介護支援専門員が中心となりサービス事業所を含む支援チーム全体で包括的・継続的マネジメントを実践できるように支援を行う。

平成 28 年度の取り組み

在宅医療介護連携会議（毎月）へ参加し、専門職対象の研修会や市民対象のセミナー等を開催した。また、ケアマネ支援については全体研修会のほか、各圏域でも定期的な勉強会を実施した。

平成 29 年度重点項目

- 1 医療と介護の連携体制の構築
- 2 介護支援専門員同士のネットワークの構築
- 3 介護支援専門員の実践力向上のための支援（研修会の開催等）
- 4 介護支援専門員に対する個別支援

<社協>

活動計画	設定目標
医療介護連携拠点会議参加による連携強化を目的に住民啓発と多職種連携研修の開催	医療介護連携会議への参加・年 3 回住民向け研修会開催
都市中核圏域介護支援専門員向け研修会・事例検討会開催	月 1 回開催予定
個別ケースへの介護支援専門員への支援 圏域内の主任介護支援専門員を把握し困難ケースへの対応強化	随時対応 主任介護支援専門員のスキルアップ

<社協久米田>

活動計画	設定目標
圏域内 ケアマネ勉強会	月 1 回開催予定

圏域内 認知症キャラバンメイト連絡会議	2か月に1回開催
個別ケースの介護支援専門員への支援	随時受付
圏域の介護支援専門員事例検討会開催	2か月に1回開催

< 萬寿園中部 >

活動計画	設定目標
在宅医療介護連携拠点会議に出席し、会議内で企画検討される介護支援専門員向け研修会を圏域の介護支援専門員を対象として実施する	会議 1 回/月 研修会 6 回/年開催
圏域の介護支援専門員を対象として実践力向上・ネットワーク構築を目的とした事例検討会の開催	1 回開催
介護支援専門員向けの相談会の実施（自立支援プランの作成や困難ケースへの対応支援） 個別ケースでの支援	定期開催：2 回/月 随時受け付け

< 萬寿園葛城の谷 >

活動計画	設定目標
岸和田市の在宅で活動する多職種による在宅医療介護連携拠点会議に出席し、会議内で企画検討される「住民啓発セミナー」「多職種連携研修会」等を開催	月 1 回/連携会議 年 1 回/研修会 年数回/セミナー
岸和田市地域包括支援センター全体研修会の開催 岸和田市地域包括支援センターによる新人介護支援専門員対象研修会の開催 （グループワーク等により他事業所の介護支援専門員と交流） 圏域別介護支援専門員研修会の開催・事例検討会の開催	1～2 回/年 3 回シリーズ/年 6 回/年
介護支援専門員に対する相談会の開催 （自立支援プランの作成支援や困難ケースの対応支援等）	月 2 回/相談会の開催 個別ケース随時対応

< いなば荘北部 >

活動計画	設定目標
医療介護連携拠点会議参加による連携体制強化 住民啓発セミナー・多職種連携研修の開催	会議・毎月 1 回参加 セミナー・研修年 2 回
包括だよりの発行 北部医師紹介と連携方法の案内・介護支援専門員への情報提供	奇数月に発行 (年 6 回)
暮らしの安全プロジェクトを通じた医療機関との連携 高齢者の見守り訪問活動の実施	医療機関からの連絡 登録者への支援
圏域医療機関（医師）への定期訪問・連絡調整	圏域医院への訪問

北部圏域 介護支援専門員向け研修会・交流会の開催	合同年 6 回
介護支援専門員昼食交流会（ランチミーティング）の開催	毎月 1 回（第 2 水曜日）
地域ケア会議・事例検討会の開催 （介護支援専門員が抱える個別事例への助言）	介護支援専門員からの 依頼に応じて開催
介護給付費適正化（ケアプランの点検）事業受託	委託件数を実施

<いなば荘牛滝の谷>

活動計画	設定目標
医療介護連携拠点会議参加による連携体制強化 住民啓発セミナー・多職種連携研修の開催	会議・毎月 1 回参加 セミナー・研修年 2 回
包括だよりの発行 牛滝の谷医師の紹介と連携方法の案内・介護支援専門員への情報提供	奇数月に発行
暮らしの安全プロジェクトを通じた医療機関との連携 高齢者の見守り訪問活動の実施	医療機関からの連絡 登録者への支援
牛滝の谷圏域 介護支援専門員向け研修会・交流会の開催	合同年 6 回
地域ケア会議・事例検討会の開催 （介護支援専門員が抱える個別事例への助言）	介護支援専門員からの 依頼に応じて開催
介護給付費適正化（ケアプランの点検）事業受託	委託件数を実施

（４）権利擁護業務（虐待や消費者被害から高齢者等を守る）

相談できる家族がなく、認知症で判断力が低下している高齢者等にとっては、契約を締結するなど、自身の権利を行使することが難しい場合がある。そういう高齢者等へ積極的に介入し、人権・権利を守るための必要な支援を行う。

認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを支援するとともに、認知症の早期発見、早期対応ができるよう必要に応じて「認知症初期集中支援チーム」と連携して対応する。

平成 28 年度の取り組み

虐待など困難ケースや成年後見制度の活用が必要なケースについては市と連携して円滑な対応を実施した。

被害者が増加している消費者被害については、警察とともに市民講座のほか専門職の研修会などでも機会あるごとに広報・周知を行い、認知症高齢者への支援についても、サポーター養成講座の開催、徘徊 SOS ネットワーク登録者等への支援を実施した。

平成 29 年度重点項目

- 1 認知症高齢者への支援（認知症初期集中支援チームとの連携等）
- 2 虐待など困難ケースへの対応
- 3 消費者被害防止のための周知・啓発

<社協>

活動計画	設定目標
認知症高齢者の相談に対して支援	随時対応
高齢者虐待の防止に向けて地域への啓発を行い、地域の理解を深めるために働きかける（キャラバンメイトの協力）	認知症サポーター養成講座、サロン等で啓発
消費者被害の防止のための啓発のため岸和田警察署と一緒に	岸和田警察と連携して地域へ啓発活動

<社協久米田>

活動計画	設定目標
高齢者虐待の防止及び対応	随時対応
消費者被害の防止及び対応	随時対応
判断能力を欠く状況にある者への支援	必要に応じ成年後見制度の申立支援

<萬寿園中部>

活動計画	設定目標
地域住民や専門職に向けて認知症についての研修会を開催 初期集中支援チームとのスムーズな連携による支援体制の構築 個別ケースでの認知症相談の受付	研修会開催（認知症サポーター養成講座等） 随時
地域住民や専門職に向けて高齢者虐待についての研修会を開催 個別ケースでの虐待相談の受付	研修会開催 随時
警察や消費生活センターと連携して住民向けの研修会を開催 個別ケースでの消費者被害相談の受付	研修会の開催 随時

< 萬寿園葛城の谷 >

活動計画	設定目標
地域住民が認知症に対する正しい理解が出来るよう認知症サポーター養成講座を開催 認知症初期集中支援チームとのスムーズな連携による支援体制の構築	認知症の正しい理解と予防、早期発見、早期対応。
虐待の個別ケース計画の作成とコアメンバー会議の開催 専門職、地域住民に対する虐待防止研修の開催と相談窓口の周知啓発を行う	役所、CM とのスムーズな連携
警察と協力して特殊詐欺に対する予防講座の開催 消費者センターと連携して消費者被害防止の講座開催	特殊詐欺の防止

< いなば荘北部 >

活動計画	設定目標
キャラバンメイト連絡会（北部）の開催 認知症サポーター養成講座の企画・開催	連絡会年 4 回程度、小学校・他企業等で開催
もの忘れ相談プログラムの実施、対象者へのフォロー 認知症の疑いがある方の早期発見、支援を検討	毎月 1 回 第 3 火曜日
特殊詐欺被害防止連絡会の参加（行政機関・金融機関・各種団体）	年 2 回
地域活動での特殊詐欺防止への呼びかけ、包括職員と岸和田警察 合同寸劇の実施 岸和田警察主催特殊詐欺防止イベントへの寸劇出演	各地域活動にて開催 岸和田警察イベント
徘徊 SOS ネットワーク登録者への支援 警察が保護した高齢者へのアプローチ・継続支援	担当圏域登録者 福祉政策課からの要請

< いなば荘牛滝の谷 >

活動計画	設定目標
認知症初期集中支援チーム・CSW との連携により、認知症が疑われる方への早期発見・対応を行う	年 3 件程度 月 1 回のケース会議
特殊詐欺被害防止連絡会の参加（行政機関・金融機関・各種団体）	年 2 回
キャラバンメイト連絡会（牛滝の谷）の開催 認知症サポーター養成講座の企画・開催	連絡会年 4 回程度、小・中学校・高齢者大学等
徘徊 SOS ネットワーク登録者への支援 警察が保護した高齢者へのアプローチ・継続支援	担当圏域登録者 福祉政策課からの要請

(5) その他の取り組み（担当圏域の活動）

地域の福祉活動の実情に合わせて、地域住民や関係機関と連携を強化します。その中で見えてきた地域課題に関しては住民・行政と協議しながら積極的に解決・改善に向け働きかける。

平成 28 年度の取り組み

	平成 28 年度の主な取り組み
社協	・地域のサロンへの積極的に参加し、緊急キッドの説明やいきいき百歳体操の支援について取り組み、普及につなげた。 ・「在宅生活の限界点を考える」というテーマで地域ケア会議や事例検討会を開催し、関係機関への普及啓発に努めた。 ・地域ケア会議でごみ問題を取り上げ、収集方法などの検討を働きかけた。 ・介護支援専門員の質の向上に向けて研修会を毎月開催した。
社協久米田	・徘徊高齢者等見守りネットワーク登録世帯家族交流会の開催（2カ月に1回） ・男性介護者の会の開催（年2回開催） ・居場所づくりの立上げ支援（随時対応）
萬寿園中部	・フレッシュライフやいきいき百歳体操の開始支援を行い、地域住民の集まりの場を創出することが出来た。それに伴い今まで介入出来ていなかった地域のサロン等にも参加することが出来るようになった。 ・新オレンジプランでの認知症普及啓発として小学校への認知症サポーター養成講座の実施を行い、地域における見守りの大切さを伝えた。 ・地域ケア会議や認知症サポーター養成講座を通して、地域の方々の自助・互助の重要性、専門職との連携の必要性の普及を行なった。 ・浜校区の地域課題（風呂問題）について地域ケア会議を行い、関係者・関係機関での情報共有、今後の対応策についての話し合いを行なった。 ・各地域の福祉委員会への参加を通して地域住民・関係機関との連携強化に繋がった。
萬寿園 葛城の谷	・総合事業開始に向けて、自主活動であるいきいき百歳体操の普及の為地域のサロン等へ参加し説明等を実施。 ・高齢者の集いの場作りの為、地域課題を共有する為地域ケア会議を開催。現在いきいき百歳体操の実施に向けて検討中。 ・各町で介護保険や認知症、健康講座を中心とした「はつらつ勉強会」を開催。勉強会終了後には相談会を開催し地域住民との顔の見える関係作りを行った。 ・継続して小学校で認知症サポーター養成講座を開催し、地域の民生委員や地区福祉委員、ボランティア等にも参加を依頼し小学生との世代間交流も同時に行った。

いなば荘北部	・出張福祉相談会の継続開催【ラパーク岸和田・春木団地】 ・買物支援が必要な集合住宅への移動販売の定着 ・自治会加入推進のための地域まつり開催への支援 ・居住地域に関係なく集まれる居場所・集合住宅での（リビング）開催支援 ・ボランティアの個別見守り訪問活動への参加、課題共有 ・消費者被害防止研修会の開催（春木市民センター） →大阪弁護士会モデル事業活用、弁護士による被害事例への対応策講義
いなば荘 牛滝の谷	・山手地区の居場所（リビング）開催支援 計 8 か所に増加 ・認知症高齢者の地域参加支援、社会資源の活用促進 ・消費者被害防止研修会の開催（山直市民センター） →大阪弁護士会モデル事業活用、弁護士による地域での消費者被害予防策講義

平成 29 年度の計画

	活動計画	設定目標
社協	・健康寿命を引き上げるため、いきいき百歳体操の普及啓発を積極的に行う。 ・いきいき百歳体操開催地域へのフォローアップ支援を強化し、継続していただけるように支援する。 ・介護支援専門員への資質向上に向けた取り組みとネットワークの構築の充実 ・認知症予防の取り組み 支援と地域への啓発	いきいき百歳体操を町単位で開催支援 既存の地域への 3 ヶ月に 1 度のフォローアップ支援 介護支援専門員研修毎月開催 地域へ認知症支援のための研修年 3 回開催
社協久米田	・徘徊高齢者等見守りネットワーク登録世帯 家族交流会の開催 ・男性介護者の会の開催 ・居場所づくりの立上げ支援 ・理学療法士協会との連携による自立支援型ケアマネジメントの作成	毎月開催する 隔月に開催する 積極的に広報する 毎月開催する

資料 1

萬寿園中部	・いきいき百歳体操の普及・啓発、現在実施している地域への支援を継続していく。 ・フレッシュライフやいきいき百歳体操をきっかけにして、現在介入出来ていない地域に対してアプローチを行なっていく。 ・地域ケア会議の開催を行い、地域住民・専門職・行政とのネットワークを構築する。	現在実施 22 箇所の継続支援と新規開始の支援 新規目標 2 箇所 地域ケア会議の開催 2 回
萬寿園 葛城の谷	・いきいき百歳体操を各町会館にて開催できるよう普及啓発を行っていく ・圏域の介護支援専門員の資質向上に向けた研修会の開催と個別支援体制の構築 ・認知症介護の介護負担が原因と考えられる高齢者虐待の予防と早期発見。認知症初期集中支援チームと連携した迅速な対応	6 回/年（圏域別） 認知症の予防・早期発見・早期対応
いなば荘北部	・事務所の地域開放開始 水曜日午後の会（みずいろ） →ボランティアのポイント制導入や高齢者の特技を生かした活躍の場を作る →地域高齢者の居場所（カフェ）の提供、出席カードを活用した継続した外出を目指す ・介護者家族のつどい【みずの輪】との連携開催 →介護者のレスパイトケア、交流場所の提供 ・ケアマネジャーの訪問時における車両駐車場確保 ・休日の福祉相談会、地域交流会の開催	6 月より毎週水曜日 6 月より春木団地 2 台 年 5 回程度
いなば荘 牛滝の谷	・介護予防・日常生活支援総合事業の地域への説明会の調整 ・出張福祉相談場所の新たな確保、定期開催に繋げる ・認知症が疑われる高齢者への早期発見、対応 →認知症初期集中支援チームと連携し対応が必要と思われるケースについては、対象者把握チェックシートを使用し、情報共有を行う。 ・高齢者の野菜づくりで採れた野菜販売を通じ、地域活動費捻出の提案と実施	年 2 回 不特定多数が集まる場所を想定 事例により随時 毎週水曜日

都市中核地域(22ヶ所)

宮本町、北町、南町、岸城北、
上町、浜地区、岸野町、南公園、
岸城南、西之内町、別所町、
別所町(教会)、ふれあい朝陽、
コーポラス下野町、下野5丁目、
五軒屋町、別所町、大北町、
下野1丁目、筋海町、宮前町、
加守町4丁目

岸和田中部地域(14ヶ所)

上松台東、星和上松台、下松町、
上松町、桜ヶ丘町、門前町、
桜台市営住宅、上松台西、八阪町、
福田町、常盤台、光明地区公民館、
運動テイハート、桜台市民センター

葛城の谷地域(3ヶ所)

土生町(マスタースマンション)、
流木町、山下住宅

☆百歳体操実施地域☆

岸和田北部地域(7ヶ所)

春木若松町、春木大小路町、
春木宮川町、荒木町、神弥町、
おひさまクラブ、中井町

久米田地域(8ヶ所)

大町、五月ヶ丘(今木町)
額町、紅葉ヶ丘(大町)
西大路町、新小松里、
八木市民センター、
桃ヶ丘町

牛滝の谷地域(4ヶ所)

東ヶ丘町、黄金塚、
岡山町、田治米町

58ヶ所

H29.5.23現在

介護予防・日常生活支援総合事業等の実施状況

総合事業 3つの目標

- ① 介護予防・・・「いきいき百歳体操」を市域全域に拡げる。
- ② 自立支援・・・自立に向けたケアマネジメントを推進する。
- ③ 人材確保・・・介護専門職以外の新たな担い手を確保する。

① いき百の拡大状況（別紙「百歳体操実施地域」参照）

平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
3 カ所	9 カ所	45 カ所	目標 95 カ所

② 新たなサービスの参入状況（平成 29 年度 5 月 1 日現在）

訪問型サービス A	訪問型サービス A-2	通所型サービス A
市内 38 事業所（32%） 市外 12 事業所	平成 29 年 6 月 1 日から 開始予定	市内 28 事業所（30%） 市外 4 事業所

③ 生活援助サービス従事者研修

- ・平成 29 年 2 月 13 日・14 日、市役所職員会館にて開催
 - ・研修修了者 40 人
 - ・内容（別紙研修カリキュラム参照）
- 平成 29 年度は年 3 回開催予定、第 1 回目は 7 月開催予定

住民主体のサービス B へ向けての取組

○生活支援コーディネーターと連携し、地域への周知と課題等聴取を行う。

○プレ協議体を開催し、地域の通いの場について検討を行う。

→既存の地域資源の活用を前提とし、地域の通いの場のあり方を検討

短期集中予防のサービス C へ向けての取組

○いき百の拡がりに合わせて開始時期、サービス内容等について検討していく。

別表第1（第6条関係）

	科目名	項目名	時間数
1	職務の理解	介護保険制度	2 時間
		多様なサービスの理解	
		仕事内容や働く現場の理解	
		介護職の役割、専門性と多職種との連携	
2	老化の理解	老化に伴うこころとからだの変化と日常	1 時間
		高齢者と健康	
3	認知症の理解	認知症を取り巻く状況	2 時間
		認知症の基礎と健康管理	
		認知症に伴う変化と日常生活	
		家族への支援	
4	介護におけるコミュニケーション技術	介護におけるコミュニケーション	1 時間
5	介護における尊厳の保持、 介護の基本	人権啓発に係る基礎知識	3 時間
		人権と尊厳を支える介護	
		介護職の職業倫理	
		自立に向けた介護	
		安全の確保とリスクマネジメント	
		介護職の安全	
6	生活支援技術	生活と家事	2 時間
7	修了評価と振り返り		1 時間
合計			12 時間

地域密着型サービス事業所の新規指定状況一覧(平成29年5月1日現在)

○地域密着型通所介護

法人名称	事業所名称	定員	事業所所在地	生活圏域	指定年月日	有効期間満了日	備考
フォーユー株式会社	東岸和田リハビリステーションまほろば	7名	岸和田市作才町1165番地	葛城の谷地域	平成29年4月1日	平成35年3月31日	
株式会社ケアステーションさくら	白ゆりデイサービス岸和田	5名	岸和田市極楽寺町182-9	葛城の谷地域	平成29年4月1日	平成35年3月31日	
アプリコットマネジメント株式会社	デイサービスセンター和み家	18名	岸和田市畑町三丁目14番11号	葛城の谷地域	平成29年5月1日	平成35年4月30日	
株式会社さくらい	いろはけんせいデイサービス	10名	岸和田市沼町22番17号	都市中核地域	平成29年5月1日	平成35年4月30日	

地域密着型サービス事業所の新規指定状況一覧(平成29年5月1日現在)

○地域密着型通所介護

法人名称	事業所名称	定員	事業所所在地	生活圏域	指定年月日	有効期間満了日	備考
フォーユー株式会社	東岸和田リハビリステーションまほろば	7名	岸和田市作才町1165番地	葛城の谷地域	平成29年4月1日	平成35年3月31日	
株式会社ケアステーションさくら	白ゆりデイサービス岸和田	5名	岸和田市極楽寺町182-9	葛城の谷地域	平成29年4月1日	平成35年3月31日	
アプリコットマネジメント株式会社	デイサービスセンター和み家	18名	岸和田市畑町三丁目14番11号	葛城の谷地域	平成29年5月1日	平成35年4月30日	
株式会社さくらい	いろはけんせいデイサービス	10名	岸和田市沼町22番17号	都市中核地域	平成29年5月1日	平成35年4月30日	

小規模多機能型居宅介護選考評価基準

項目	評価内容	配点
基本的 事項	法人の運営理念・実績	25
	介護保険事業の実績	
	法人の経営状況	
	法人代表者の実績	
運営に 関する 事項	運営理念と本市介護保険事業計画との整合性	65
	管理者の経験等	
	介護支援専門員の経験等	
	緊急時の対応	
	事故発生時の対応	
	非常時災害対策	
	苦情処理の体制	
	勤務体制の確保、職員の育成	
	医療機関との連携(協力医療機関等)	
	地域との連携(運営推進会議)	
事業所 の状況	事業所の用地、建物の確保の状況	10
	事業所の立地条件、駐車スペースの確保	
合 計		100

- 法人・施設の実績は平成29年6月1日時点とする。
- 60点以上でかつ最高得点の法人を受託候補者とする。
- 最高得点者が同点の場合は選考委員会の合議により、順位を決定する。

平成 29 年度

地域密着型サービス整備に係る事業者募集要項
(案)

〔小規模多機能型居宅介護〕

平成 29 年 6 月

岸和田市保健部介護保険課

1 募集の目的

岸和田市では、高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画に基づき、地域密着型サービスの基盤整備を進めています。

今回の募集は、第6期の整備計画のうち、未整備である小規模多機能型居宅介護サービスの整備のため、当該事業を実施する事業所を募集するものです。

2 募集事業所

小規模多機能型居宅介護 2事業所

3 事業開始

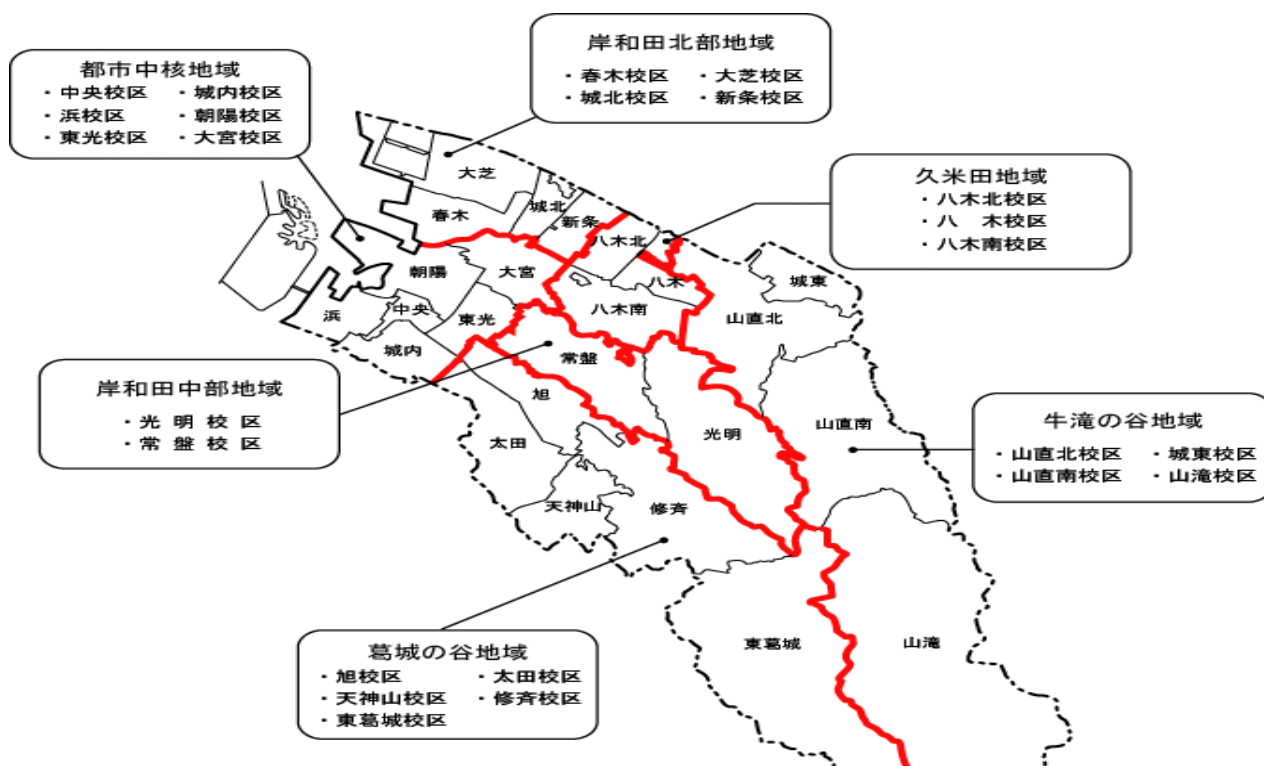
平成29年度中に事業開始をすること。

4 募集対象の日常生活圏域

小規模多機能型居宅介護

① 岸和田北部地域 ② 葛城の谷地域

(ただし、募集圏域に応募がなければ他の日常生活圏域も可とする。)



岸和田市の日常生活圏域

小学校区を単位として、6 圏域に区分。

都市中核地域 中央・城内・浜・朝陽・東光・大宮各校区

岸和田北部地域 春木・大芝・城北・新条各校区

葛城の谷地域 旭・太田・天神山・修斉・東葛城各校区

岸和田中部地域 光明・常盤各校区

久米田地域 八木北・八木・八木南各校区

牛滝の谷地域 山直北・城東・山直南・山滝各校区

5 応募要件

応募には、次の（１）～（７）の要件をすべて満たすこと。

- （１）法人格を有している運営事業者であること。
- （２）本事業の実施に必要な人員及び設備等を確保するとともに、本事業の開始当初から安定したサービスを提供することができる体制を整備するための十分な能力及び経験を有していること。
- （３）介護保険法（平成 9 年法律第 123 号）第 78 条の 2 第 4 項各号（地域密着型サービス事業者指定に係る欠格事項）及び第 115 条の 12 第 2 項各号（地域密着型介護予防サービス事業者指定に係る欠格事項）の規定に該当しないこと。
- （４）下記の条例及び規則の指定基準を満たし、平成 30 年 3 月 31 日までに本事業の指定を受けることができること。
 - ① 「岸和田市指定地域密着型サービス事業者の指定に関する基準並びに指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例」（平成 25 年条例第 8 号）」
 - ② 「岸和田市指定地域密着型介護予防サービス事業者の指定に関する基準並びに指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例」（平成 25 年条例第 9 号）」
- （５）都市計画法、建築基準法、消防法その他の関連する法令等の基準を満たしていること。
- （６）岸和田市暴力団排除条例（平成 25 年条例第 35 号）第 2 条第 1 号、第 2 号及び第 3 号のいずれにも該当しないこと。
- （７）事業を実施するにあたり、事業所物件を確実に確保できる見込みのあるもの。
- （８）その他、関係省令・解釈通知などの内容を十分に理解・確認のうえ、申請を行ってください。

6 地域住民への説明

事業運営にあたり、地域住民等との連携及び協力を行う等、地域との交流を図ること。設置が義務付けられている「運営推進会議」の委員に地域住民の代表者が含まれていることから、地域との交流が不可欠となるため、事前に地域住民への説明

を行うこと。なお、説明にあたっては、「岸和田市の地域密着型サービス（小規模多機能型居宅介護）事業所の公募に応募するための事前説明であり、現時点では整備が確定したものではない。」旨、十分周知を行うこと。

7 補助金・交付金等

当該事業所整備については、「大阪府地域医療介護総合確保基金」を活用して行う補助事業の対象となります。ただし、補助金については、府の予算の範囲内で審査・採択されるため、必ずしも交付されるものではありません。また、岸和田市単独の補助もありませんので、補助金が不採択となった場合でも、自己資金のみで整備可能な法人のみ応募してください。

本補助を受けて事業所整備を行う場合の留意事項は下記のとおりです。

- ① 補助金交付決定前に着手した場合には交付対象外となります。
- ② 事業候補者以外が主体となり実施する事業は交付対象外となります。
- ③ 本事業により事業候補者に決定された場合でも、補助金の交付に係る手続き等は別途必要になります。
- ④ 工事請負業者等の選定は、市の手続きに準じた事業者主催による競争入札により決定することが必要になります。
- ⑤ 指定基準・運営基準等を満たさず地域密着型サービス事業所の指定が受けられない場合には、補助金は交付しません。
- ⑥ その他、市長が定める事項を遵守する必要があります。

〈参考〉 補助金の概要(予定)

事業所等整備補助金(限度額)：32,000 千円／1 施設

開設準備金(限度額)：621 千円×宿泊定員数

8 募集要項の配付

平成 29 年度地域密着型サービス（小規模多機能型居宅介護）整備に係る事業者募集要項は、平成 29 年 6 月 2 日（金）から平成 29 年 6 月 16 日（金）まで配付。ただし、土・日曜日を除く。

なお、岸和田市ホームページからダウンロード可。

(1) 配付場所

岸和田市保健部介護保険課（岸和田市役所本館 1 階）

(2) 配付時間

午前 9 時から午後 5 時 30 分まで

※ 岸和田市ホームページ <http://www.city.kishiwada.osaka.jp/>

9 応募手続き

応募希望事業者は、「事前協議申請書」（様式 1－1）に必要事項を記入し、次のとおり提出。なお、事前協議申請書が期間内に提出されない場合、事前協議は

出来ません。

(1) 事前協議申請書の提出

応募希望事業者は、次のとおり「事前協議申請書」(様式1-1)を提出すること。

① 受付期間

平成29年6月2日(金)から平成29年6月16日(金)まで

② 受付時間

午前9時から午後5時30分まで

③ 提出場所

岸和田市保健部介護保険課(岸和田市役所本館1階)

④ 提出方法

事前協議申請書は、提出場所へ直接持参すること。郵送、FAX、E-mail等による提出は認めません。なお、事前に電話にて予約をお願いします。

電話番号 072-423-9474(介護保険課直通)

(午前9時から午後5時30分まで。ただし、土・日曜日を除く)

(2) 質問の提出

募集要項等に関する質問受付および回答は、次のとおり行うこと。

① 質問方法

ア. 対象者は、前記(1)の「事前協議申請書」を提出した事業所とする。

イ. 質問の内容を簡潔にまとめて、質問書(様式9)に記入の上、FAXかE-mailにより提出。電話等による質問は、原則として受け付けません。

② 質問の受付

受付期間

平成29年6月2日(金)から平成29年6月16日(金)まで

(送付先) 岸和田市保健部介護保険課

FAX 072-423-6927

(E-mail) kaigo@city.kishiwada.osaka.jp

※送信の際、標題を「(法人名)事業者募集への質問」としてください。

② 質問の回答

質疑があれば、平成29年6月20日(火)午後5時までにE-mailにより、すべての応募事業者に回答します。

(3) 事前協議

① 事前協議期間

平成29年6月26日(月)から平成29年7月3日(月)まで。ただし、土・日曜日を除く。

* 日程調整については、事前協議申請受付期間終了後に個別に連絡します。

② 提出書類

事前協議日の1週間前までに「事前協議に必要な書類一覧表」(P7照)の内、「事前協議申請書」(様式1-1)を除く書類を提出すること。

部数は、7部（正本1部、副本6部）を提出すること。書類は、原則として、A4版（縦位置・横書き）に統一し、「事前協議に必要な書類一覧表」（P7参照）の番号順にファイル等に綴り、書類番号のインデックスをつけること。契約関係書類等の写しを提出する際には、原本証明をすること。

例)

この写しは原本と相違ありません。

平成 年 月 日

法人名〇〇〇〇

代表者職氏名 △ △ △ △ 印（法人登記の印）

③ その他留意事項

提出期間終了後は、応募書類の差替えはできません。ただし、本市が必要と判断した場合は、本市から追加資料の提出等を求めることがあります。

◇ 応募の辞退

事前協議申請書を提出した後に、事業者側の事情により応募を取り下げる場合は、辞退届（様式10）を提出すること。

10 整備事業者の選定

（1）プレゼンテーション審査

事前協議で、必要な調査、ヒアリング等実施の後、選考委員会によるプレゼンテーション審査を実施します。

日程については、平成29年7月下旬に予定しています。詳細については、各事業者に関別通知します。

（2）整備事業者の選定

整備事業者の選定については、岸和田市地域密着型サービス等運営委員会で定めた評価基準（別紙）に基づき、運営事業受託候補者選考委員会において審査により選考します。

（3）選定結果の通知および公表

選定後、「選定結果通知」を全ての応募者に通知します。また、選定された事業者名等を市のホームページで公表します。

11 禁止、欠格事項

申請書等書類の提出期限後、次に該当する場合は欠格とします。

- （1）提出された書類の内容に重大な虚偽、不備があった場合。
- （2）重大な事項（設置場所等）に変更があった場合。
- （3）市民の疑惑や不信を招くような行為をしたと市長が認める場合。

12 日程

募集および事業者選定の日程（予定）は以下のとおりです。

平成 29 年 6 月 2 日（金）～ 平成 29 年 6 月 16 日（金）	募集要項配付期間 市ホームページからダウンロード可
平成 29 年 6 月 2 日（金）～ 平成 29 年 6 月 16 日（金）	事前協議申請受付期間
平成 29 年 6 月 2 日（金）～ 平成 29 年 6 月 16 日（金）	募集要項等に関する質問の受付期間 （事前協議申請書を提出しないと質問できない）
平成 29 年 6 月 20 日（火）	質問に対する回答日
平成 29 年 6 月 26 日（月）～ 平成 29 年 7 月 3 日（月）	事前協議期間 （応募書類の提出、調査・ヒアリング）
平成 29 年 7 月下旬	選考委員会でのプレゼンテーション審査*1・選考
平成 29 年 8 月	事業者の通知・公表

***1** プレゼンテーション審査の方法は以下のとおりです

1. 応募事業者の代表者（3名以内）によるプレゼンテーション。
2. 1 応募事業者当たりの説明時間は 20 分以内とします。
3. 応募事業者から委託された事業者によるプレゼンテーションは認めません。
4. 他の応募事業者のプレゼンテーションの内容を知ることができません。
5. プレゼンテーション内容の主な説明事項は下記のとおりとします。
 - ①経営理念・事業実績
 - ②職員勤務体制・採用・研修
 - ③安全管理・苦情処理の体制
 - ④地域連携
 - ⑤利用者への配慮
 - ⑥施設用地・面積
 - ⑦防災対策
6. プレゼンテーション終了後、質疑を行います。
7. プロジェクターを利用してプレゼンテーションを行う場合、パソコン及び USB でバックアップ用データを用意してください。
8. 選定基準、審査項目、配点は別紙のとおり。

◆事前協議に必要な書類一覧表

	提出書類	様式等	備考
事前協議応募に必要な書類			
☐	事前協議申請書	様式 1－1	事前協議応募の時に提出
事前協議に必要な書類（事前協議日の 1 週間前までに提出すること）			
☐	申請書	様式 1－2	
☐	定款		最新のもの
☐	法人の登記簿謄本		3 か月以内に発行されたもの
☐	決算書の写し（直近 3 ヶ年）		他業を営んでいる場合、親会社がある場合等についてはそれらに関する同様の決算書
☐	当該用地及び建物の不動産登記簿謄本		・ 3 ヶ月以内に発行されたもの ・ 購入、賃貸借の場合は契約書の写しか確約書（賃貸借の場合は賃借期間及び額を明記すること）
☐	施設整備図面		配置図・平面図（A 3 用紙）
☐	現況写真・位置図		・ 道路側から撮影したもの ・ 近隣の住宅地図
☐	誓約書	様式 2	
☐	事業計画書（法人の概要及び実績）	様式 3－1	
☐	事業計画書（運営方針）	様式 3－2	
☐	経歴書	様式 4	代表者・管理者・介護支援専門員（予定者）
☐	設置予定内容について	様式 5	
☐	設備・備品等の概要	様式 6	
☐	運営推進会議の構成員	様式 7	
☐	法人概要	様式 8－1	
☐	役員名簿	様式 8－2	
☐	代表者履歴書	様式 8－3	
☐	質問書	様式 9	
☐	辞退届	様式 10	

【注意事項（申請書類）】

- 1 提出書類は、原則として A 4 で作成（図面等は A 3 を A 4 縦型に折り綴じること）。
- 2 A 4 判フラットファイルに綴じて提出。提出部数は正本 1 部、副本 6 部。
副本は正本をコピーしたもので可。
- 3 上記書類のほか、必要に応じ、書類の提出を依頼することがある。
- 4 提出書類は返却いたしません。
- 5 申請に係る必要な費用は、事業者負担とする。